Canon

EOS Kiss X10

活用ガイド

J

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに「安全上のご注意」(🕮22)、および「取り扱い上のご注意」(🕮25)をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

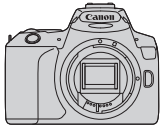
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ(本機)やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ(本機)で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
（アイカップ、ボディキャップ付き）



ストラップ



電池
バッテリーパック
LP-E17
（保護カバー付き）



充電器
バッテリーチャージャー
LC-E17

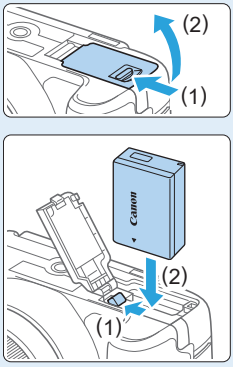
- **ソフトウェア CD-ROM、インターフェースケーブル、HDMI ケーブルは付属していません。**
- レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください。
  なお、レンズの使用説明書（PDF ファイル）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

- ソフトウェアは、キヤノンのホームページ（canon.jp/eos-sw）からダウンロードしてお使いください（491）。

すぐ撮影するには

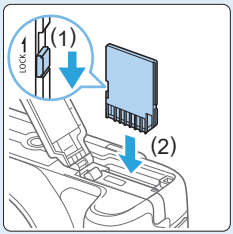
1



電池（バッテリー）を入れる（📖37）

- 購入時は電池を充電してからお使いください（📖35）。

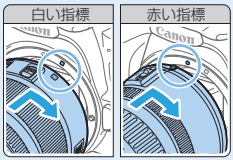
2



カードを入れる（📖37）

- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

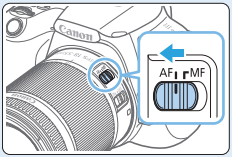
3



レンズを取り付ける（📖48）

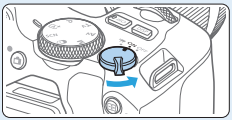
- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

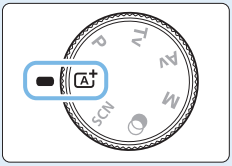
4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（📖48）

5

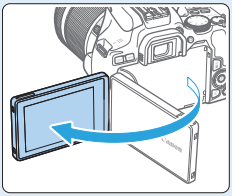




電源スイッチを〈ON〉にし、〈📷+〉（シーンインテリジェントオート）にする（📖71）

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

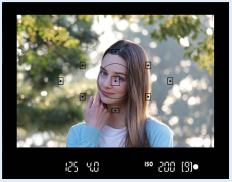
6



液晶モニターを開いてセットする（📖40）

- 液晶モニターに日付 / 時刻 / エリアの設定画面が表示されたときは、44ページを参照してください。

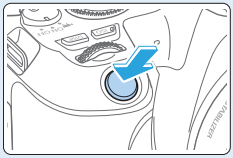
7



ピントを合わせる（📖51）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
- 必要に応じてストロボを指で持ち上げてください。

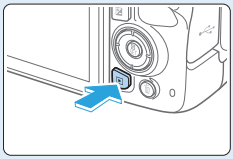
8



撮影する（🕮51）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



撮影した画像を確認する

- 撮影した画像が液晶モニターに約 2 秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（🕮102）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、「液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）」（🕮180）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、「画像を再生する」（🕮102）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、「消去する」（🕮313）を参照してください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（📖67）。**

- **SD/SDHC*/SDXC* メモリーカード**

  * UHS-I 対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適応する性能（書き込み／読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。

本書では、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードのことを「カード」と表記しています。

* 画像を記録する**カードは付属していません。**別途ご購入ください。

章目次

はじめに	2
撮影前の準備と操作の基本	34
かんたん撮影と画像確認	70
AF ／ドライブの設定	104
画像に関する設定	115
撮影目的にあわせた応用撮影	147
ストロボ撮影	169
液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	180
動画を撮影する	216
知っていると便利な機能	261
画像の再生	283
撮影した画像を加工する	331
無線通信機能	347
カメラの機能を自分好みに変更する	452
資料	467
ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む	490

やりたいこと目次

撮影

● カメラまかせで簡単に撮影したい	➔📖70 ～ 📖101（かんたん撮影ゾーン）
● 連続して写真を撮りたい	➔📖113（連続撮影）
● 自分も写真に写りたい（記念写真）	➔📖205（セルフタイマー）
● 動きを止めた写真を撮りたい ● 流動感のある写真を撮りたい	➔📖150（**Tv** シャッター優先 AE）
● 自分好みに効果をつけて撮りたい	➔📖77（クリエイティブアシスト）
● 背景をぼかした写真を撮りたい ● 背景まで鮮明な写真を撮りたい	➔📖153（**Av** 絞り優先 AE）
● 写真の明るさ（露出）を調整したい	➔📖161（露出補正）
● 暗いところで撮影したい	➔📖79、📖170（ストロボ撮影） ➔📖119（ISO 感度設定）
● ストロボ禁止の場所で撮影したい	➔📖175（ストロボ発光禁止）
● 花火を撮影したい	➔📖158（バルブ撮影）
● 液晶モニターを見ながら撮りたい	➔📖180（ライブビュー撮影）
● 写真に効果をつけて撮りたい	➔📖94、📖187（クリエイティブフィルター）
● 自分の写真を撮りたい	➔📖209（自分撮り）
● 動画を撮りたい	➔📖216（動画撮影）

画質

- 撮るものに合った仕上がりにしたい →📖122（ピクチャースタイル選択）
- 写真をあとで大きく印刷したい →📖116（◢L, ◢L, RAW, cRAW）
- たくさん写真を撮りたい →📖116（◢S1, ◢S1, S2）

AF（ピント合わせ）

- ピントを合わせる位置を変更したい →📖109（AF フレーム選択）
- 動いている被写体を撮影したい →📖84、📖85、📖107（AI サーボ AF）

再生

- 写真をカメラで見たい →📖102（再生）
- 写真を素早く探したい →📖284（インデックス表示）📖288（画像送り）
- お気に入り度を設定したい →📖291（レーティング）
- 大事な写真を誤って消さないようにしたい →📖310（プロテクト）
- 不要な写真を消したい →📖313（消去）
- 写真や動画を自動再生したい →📖306（スライドショー）
- 写真や動画をテレビで見たい →📖308（テレビ）
- 液晶モニターの明るさを調整したい →📖264（液晶モニターの明るさ）
- 写真に効果をつけたい →📖332（クリエイティブフィルター）

無線通信機能

● スマートフォンに画像を送りたい	➔📖352（スマートフォンと通信）
● パソコンに画像を送りたい	➔📖383（ソフトウェアと連携）
● 写真を印刷したい	➔📖386（Wi-Fi 対応プリンターで印刷）
● Web サービスで画像を共有したい	➔📖396（Web サービスへ画像を送信）

機能目次

電源

- 電池
  - 充電（📖35）
  - 入れ方/取り出し方（📖37）
  - 電池残量（📖43）
  - 電池情報確認（📖468）
- 家庭用電源（📖469）
- オートパワーオフ（📖42）

カード

- 入れ方/取り出し方（📖37）
- カード初期化（📖67）
- カードなしレリーズ（📖262）

レンズ

- 取り付け/取り外し（📖48）
- ズーム（📖49）

基本設定

- 視度調整（📖50）
- 言語（📖47）
- 日付/時刻/エリア（📖44）
- 電子音（📖262）

液晶モニター

- 液晶モニターを使う（📖40）
- 液晶の消灯/点灯（📖274）
- 明るさ調整（📖264）
- タッチパネル（📖64）
- 表示レベル設定（📖52）
- 機能ガイド（📖56）

画像記録

- フォルダ作成／選択（📖265）
- 画像番号（📖267）

AF

- AF動作（📖105）
- AFフレーム選択（📖109）
- 手動ピント合わせ（📖112）
- 瞳AF（📖203）
- コンティニュアスAF（📖204）
- MFピーキング設定（📖212）

ドライブ

- ドライブモード（📖113）
- 連続撮影（📖113）

画質

- 記録画質（📖116）
- ピクチャースタイル（📖122）
- ホワイトバランス（📖130）
- オートライティング オプティマイザ（📖136）
- 長秒時露光ノイズ低減（📖140）
- 高感度時ノイズ低減（📖139）
- レンズ光学補正（📖142）
- 高輝度側・階調優先（📖138）
- 色空間（📖146）

撮影

- 撮影モード（📖30）
- ISO感度（📖119）
- バルブ（📖158）
- 測光モード（📖159）
- ミラーアップ（📖166）
- リモコン（📖471）

露出調整

- 露出補正（📖161）
- 露出補正（M+ISOオート）（📖157）
- AEB（📖163）
- AEロック（📖165）

ストロボ

- 内蔵ストロボ（📖170）
- 外部ストロボ（📖174）
- ストロボ機能設定（📖175）

ライブビュー撮影

- ライブビュー撮影（📖180）
- アスペクト比（📖191）
- AF動作（📖194）
- AF方式（📖196）
- クリエイティブフィルター（📖187）
- セルフタイマー（📖205）
- タッチシャッター（📖207）
- 自分撮り（📖209）

動画撮影

- 動画撮影（📖216）
- AF方式（📖196）
- 動画記録サイズ（📖227）
- 動画サーボAF（📖254）
- 録音（📖252）
- マニュアル露出（📖221）
- デジタルズーム（📖230）
- HDR動画撮影（📖234）
- 動画クリエイティブフィルター（📖235）
- ビデオスナップ（📖246）
- タイムラプス動画（📖238）
- リモコン撮影（📖471）

再生

- 撮影直後の表示時間（📖263）
- 1枚表示（📖102）
- 撮影情報（📖326）
- インデックス表示（📖284）
- 画像送り（ジャンプ表示）（📖285）
- 拡大（📖287）
- 回転（📖290）
- レーティング（📖291）
- 動画再生（📖299）
- スライドショー（📖306）
- テレビで見る（📖308）
- プロテクト（保護）（📖310）
- 消去（📖313）
- タッチ再生（📖288）
- 印刷指定（DPOF）（📖319）
- フォトブック指定（📖323）

画像加工

- クリエイティブフィルター（📖332）
- リサイズ（📖341）
- トリミング（📖343）

カスタマイズ

- カスタム機能（C.Fn）（📖453）
- マイメニュー（📖462）

ソフトウェア

- ソフトウェアスタートガイド（📖491）
- ソフトウェア使用説明書（📖493）

無線通信機能

- スマートフォンと通信（📖352）
- スマートフォンに画像を自動送信（📖365）
- EOS Utilityでカメラを操作（📖378）
- パソコンに画像を自動送信（📖383）
- Wi-Fi対応プリンターで印刷（📖386）
- Webサービスへ画像を送信（📖396）
- 無線通信設定初期化（📖432）

本書の表記について

本文中の絵文字について

〈 〉：電子ダイヤルを示しています。
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉：〈✣〉十字キーの上下左右ボタンを示しています。
〈SET〉：設定ボタンを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

応用：ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（📖31）限定で使用できる機能であることを示しています。
(📖***)：参照ページを示しています。
：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
：補足説明や補足事項を記載しています。
：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
？：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています（📖42）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM レンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品……3
すぐ撮影するには……4
使用できるカードについて……7
章目次……8
やりたいこと目次……9
機能目次……12
本書の表記について……15
目　次……16
安全上のご注意……22
取り扱い上のご注意……25
各部の名称……28

撮影前の準備と操作の基本　34

電池を充電する……35
電池とカードを入れる／取り出す……37
液晶モニターを使う……40
電源を入れる……42
日付／時刻／エリアを設定する……44
表示言語を選ぶ……47
レンズを取り付ける／取り外す……48
撮影の基本操作……50
画面の表示レベルを設定する……52
撮影機能のクイック設定……58
メニュー機能の操作と設定……60
画面にタッチして操作する……64
カードを初期化する……67
液晶モニターの表示切り換え……69

かんたん撮影と画像確認　70

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）……71

全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）.....75
スペシャルシーンモードで撮る 79
人物を写す 80
人物の肌をより美しく写す 81
集合写真を写す 82
風景を写す 83
動きのあるものを写す.....84
子供を写す 85
花や小物を大きく写す.....86
料理を写す 87
キャンドルライトと人物を写す 88
夜景と人物を写す（三脚を使う）.....89
夜景を写す（手持ち撮影）.....90
逆光シーンを写す 91
フィルター効果を付けて撮影する 94
クイック設定について.....100
明るさを調整する 101
画像を再生する 102

AF ／ドライブの設定 104

ピント合わせの動作を変える 105
ピントを合わせる枠を選ぶ.....109
ピントが合いにくい被写体.....111
ドライブモードの選択.....113

画像に関する設定 115

記録画質を設定する.....116
静止画の ISO 感度を設定する.....119
ピクチャースタイルを選択する 122
ピクチャースタイルを調整する 125
ピクチャースタイルを登録する 128
明かりにあわせて撮影する.....130
明かりに対する色あいを補正する 134

明るさ・コントラストを自動補正する……136
高輝度側・階調優先の設定……138
ノイズ低減機能を設定する……139
レンズの光学特性による影響を補正する……142
色の再現範囲を設定する……146
撮影目的にあわせた応用撮影　147
プログラム AE 撮影（P モード）……148
被写体の動きを表現する（Tv モード）……150
ピントの合う範囲を変える（Av モード）……153
露出を自分で決めて撮る（M モード）……156
明るさの測り方を変える……159
自分の好みに明るさを調整する……161
明るさを自動的に変えて撮る……163
明るさを固定して撮る……165
カメラ内部の振動によるブレを防止する……166
AF 補助光の設定……168
ストロボ撮影　169
内蔵ストロボを使って撮る……170
外部ストロボを使って撮る……174
ストロボの機能を設定する……175
液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）　180
液晶モニターを見ながら撮影する……181
撮影機能の設定……186
フィルター効果を付けて撮影する……187
メニュー機能の設定……191
ピント合わせの動作を変える……194
AF でピントを合わせる……196
人物の目にピントを合わせる……203
コンティニュアス AF の設定……204
セルフタイマー撮影……205
タッチシャッターで撮影する……207

自分を撮影する（自分撮り）.....209
MF：手動でピントを合わせる.....211
動画を撮影する 216
動画を撮影する.....217
撮影機能の設定.....226
動画記録サイズの設定.....227
動画デジタルズームを使う.....230
動画電子 IS.....232
HDR 動画を撮影する.....234
フィルター効果を付けて動画を撮影する.....235
タイムラプス動画を撮影する.....238
ビデオスナップを撮影する.....246
メニュー機能の設定.....251
知っていると便利な機能 261
普段使う上で便利な機能.....262
撮像素子の自動清掃.....275
ゴミ消し情報を画像に付加する.....277
手作業で撮像素子を清掃する.....279
HDMI 出力時の解像度.....281
HDR 対応テレビでの RAW 画像の表示.....282
画像の再生 283
見たい画像を素早く探す.....284
拡大して見る.....287
画面にタッチして再生する.....288
回転させる.....290
お気に入りのレベルを設定する.....291
再生する画像を絞り込む.....294
再生時のクイック設定.....296
撮った動画の楽しみ方.....298
動画を再生する.....299
動画の前後部分をカットする.....302

4K 動画／ 4K タイムラプス動画からのフレームの切り出し.....304
自動再生する（スライドショー）.....306
テレビで見る.....308
保護する（プロテクト）.....310
消去する.....313
印刷の準備をする.....316
印刷する.....318
画像を印刷指定する／ DPOF.....319
フォトブックにする画像を指定する.....323
撮影情報の内容.....326
撮影した画像を加工する 331
画像にフィルター効果を付ける.....332
好みの効果を付ける（クリエイティブアシスト）.....335
赤目補正.....337
ビデオスナップアルバムの編集.....338
JPEG 画像をリサイズする.....341
JPEG 画像をトリミングする.....343
再生開始時に最初に表示する画像を設定する.....346
無線通信機能 347
無線通信機能でできること.....348
メニュー目次：無線タブ.....349
Wi-Fi/Bluetooth 接続の選択.....350
スマートフォンと通信.....352
パソコンと Wi-Fi 接続.....378
プリンターと Wi-Fi 接続.....386
Web サービスへ画像を送信.....396
アクセスポイントを使用した Wi-Fi 接続.....411
ワイヤレスリモコンと接続.....416
2 回目以降の Wi-Fi 接続.....419
複数の接続設定の登録.....421
Wi-Fi 機能の設定.....422

Bluetooth 機能の設定 423
ニックネームの変更 424
GPS 機器を使用した位置情報の付加 425
接続設定の変更／削除 430
無線通信の設定初期化 432
情報表示画面 433
仮想キーボードの操作方法 434
エラー表示の対応 435
無線通信機能での注意事項 446
セキュリティーについて 448
ネットワークの設定を確認する 449
無線通信機能の接続状態 450
カメラの機能を自分好みに変更する 452
カスタム機能の設定方法 453
カスタム機能で変更できる内容 455
マイメニューを登録する 462
資料 467
電池情報を確認する 468
家庭用電源を使う 469
リモコン撮影 471
アイカップの外しかた 472
故障かな？と思ったら 473
エラー表示 486
ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む 490
ソフトウェアについて 491
ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）のダウンロードと見かた 493
パソコンに画像を取り込む 494
索　引 496

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

⚠警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、はんだ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電（使用）可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。
- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。

- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。

- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。

- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

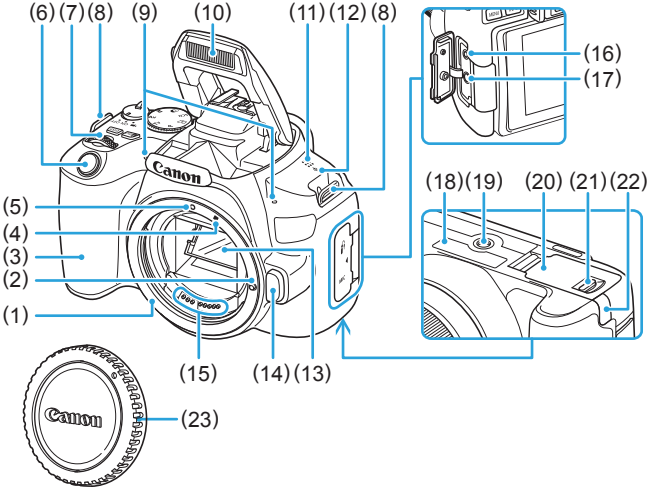
撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

レンズについて

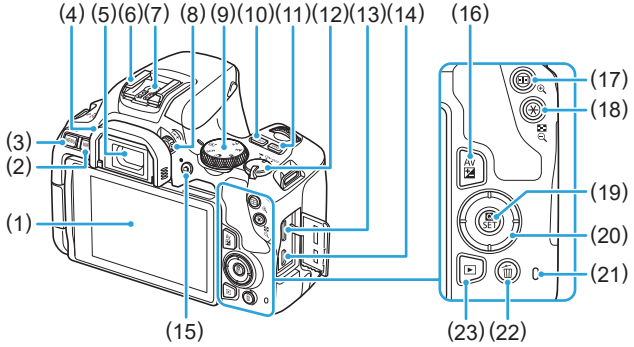
レンズを取り外したときは、接点 (1) やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



各部の名称



(1) レンズマウント
(2) レンズロックピン
(3) グリップ
(4) EF-S レンズ取り付け指標
(5) EF レンズ取り付け指標
(6) シャッターボタン
(7) 電子ダイヤル
(8) ストラップ取り付け部
(9) 内蔵マイク
(10) 内蔵ストロボ／ AF 補助光投光部
(11) スピーカー
(12)〈⊖〉撮像面マーク
(13) ミラー
(14) レンズロック解除ボタン
(15) 接点
(16) リモコン端子
(17) 外部マイク入力端子
(18) シリアル番号
(19) 三脚ねじ穴
(20) カード／バッテリー収納部ふた
(21) カード／バッテリー収納部ふたロック
(22) DC コード通し部
(23) ボディキャップ



(1) 液晶モニター／タッチパネル
左側に約 180°まで開き、上下にも回転します。

(2) 〈INFO〉（インフォ）ボタン

(3) 〈MENU〉（メニュー）ボタン
MENU を表示します。

(4) アイカップ

(5) ファインダー接眼部

(6) アクセサリーシュー

(7) シンクロ接点

(8) 視度調整つまみ

(9) モードダイヤル

(10)〈ISO〉（ISO 感度設定）ボタン

(11)〈DISP〉（ディスプレイ）ボタン

(12)電源スイッチ

(13)HDMI ミニ出力端子

(14)デジタル端子

(15)〈📷〉（ライブビュー撮影／動画撮影）ボタン
ファインダー表示から、ライブビュー表示に切り換えます。電源スイッチが〈🎥〉のときは、動画が撮影できます。

(16)〈Av〉（絞り数値／露出補正）ボタン

(17)〈⊞〉（AF フレーム選択）／〈🔍〉（拡大）ボタン

(18)〈✳〉（AE ロック／ FE ロック）／〈⊞·🔍〉（インデックス／縮小）ボタン

(19)〈Q〉（クイック設定）／〈SET〉（設定）ボタン
クイック設定画面を表示します。
選択の決定にも使用します。

(20)〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉:〈✣〉十字キー

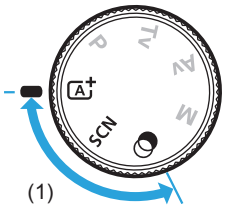
(21)アクセスランプ

(22)〈🗑〉（1 画像消去）ボタン

(23)〈▶〉（再生）ボタン

モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンがあります。



(1) かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

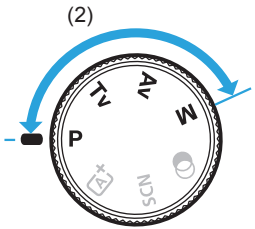
A+ ：シーンインテリジェントオート（📖71）

SCN ：スペシャルシーン（📖79）

	ポートレート（📖80）		クローズアップ（📖86）
	美肌（📖81）		料理（📖87）
	集合写真（📖82）		キャンドルライト（📖88）
	風景（📖83）		夜景ポートレート（📖89）
	スポーツ（📖84）		手持ち夜景（📖90）
	キッズ（📖85）		HDR 逆光補正（📖91）

：クリエイティブフィルター（📖94）

	ラフモノクロ（📖96）		ジオラマ風（📖97）
	ソフトフォーカス（📖96）	HDR	HDR 絵画調標準（📖97）
	魚眼風（📖96）	HDR	HDR グラフィック調（📖97）
	水彩風（📖96）	HDR	HDR 油彩調（📖97）
	トイカメラ風（📖97）	HDR	HDR ビンテージ調（📖97）

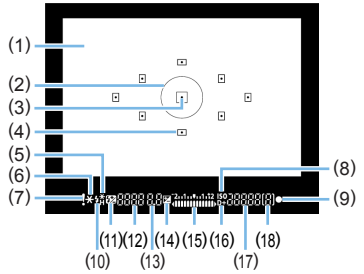


(2) 応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P ：プログラム AE（148）
Tv：シャッター優先 AE（150）
Av：絞り優先 AE（153）
M ：マニュアル露出（156）

ファインダー内表示

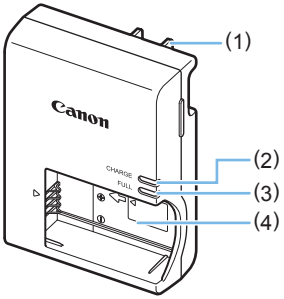


(1) フォーカシングスクリーン
(2) スポット測光範囲
(3) AF フレーム点灯表示位置
(4) AF フレーム
(5) ハイスピードシンクロ
FE ロック／ FEB 撮影中
(6) AE ロック／ AEB 撮影中
(7) 警告表示
(8) ISO 表示
(9) 合焦マーク
(10) ストロボ充電完了
FE ロック連動範囲外警告
(11) ストロボ調光補正
(12) シャッタースピード
バルブ撮影（**buLb**）
FE ロック（**FEL**）
データ処理中（**buSy**）
内蔵ストロボ充電中（**buSy**）
カード未装填警告（**Card**）
カードエラー表示（**Card**）
カードフル警告（**FuLL**）
エラー表示（**Err**）
(13) 絞り数値
(14) 露出補正
(15) 露出レベル表示
露出補正量
AEB レベル
(16) 高輝度側・階調優先
(17) ISO 感度
(18) 連続撮影可能枚数

- 設定に応じた部分のみ表示されます。

バッテリーチャージャー LC-E17

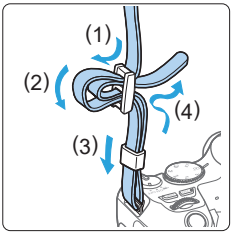
バッテリーパック LP-E17 の充電器です（🕮35）。



(1) 電源プラグ
(2) 充電ランプ
(3) 充電完了ランプ
(4) 電池取り付け部

撮影前の準備と操作の基本

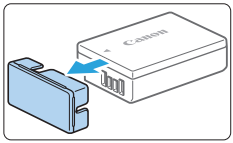
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。



付属のストラップ（吊りひも）の取り付け方

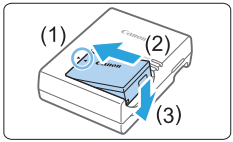
ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

電池を充電する



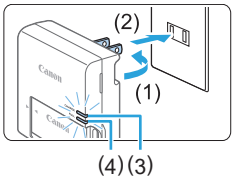
1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。



2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



3 充電する

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こし (1)、プラグをコンセントに差し込みます (2)。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプ (3) がオレンジ色に点灯します。
- ➡ 充電が完了すると、充電完了ランプ (4) が緑色に点灯します。

- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約 2 時間です。**なお、充電時間は、周囲の温度や電池の残容量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約 4 時間）。

電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
  充電してからお使いください。
- **充電は、使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。
- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**
- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
  電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源の AC100 ～ 240V 50/60Hz に対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
  電池の劣化度（📖468）を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

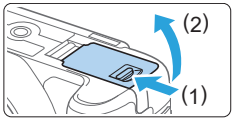
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約 5 秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリーパック LP-E17 以外は充電しないでください。
- バッテリーパック LP-E17 は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池とカードを入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E17 をカメラに入れます。カード（別売）は、SD/SDHC/SDXC メモリーカードが使えます。また、UHS-I 対応の SDHC/SDXC メモリーカードも使えます。撮影した画像はカードに記録されます。

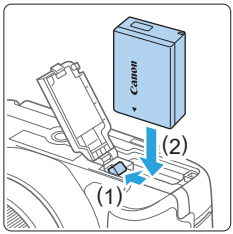
- カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方



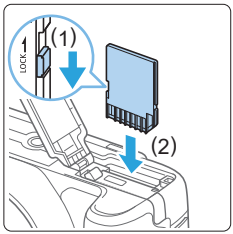
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



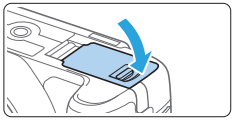
2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 カードを入れる

- **図のように、カードの表をカメラの背面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**



4 ふたを閉める

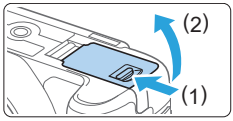
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数が表示されます。

- カード／バッテリー収納部ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO 感度などにより変わります。
- **[📷：カードなしレリーズ]** を **[しない]** に設定しておくと、カードを入れ忘れたまま撮影してしまうのを防ぐことができます（📖262）。

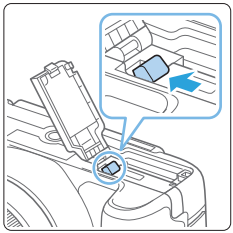
取り出し方

1 電源スイッチを〈OFF〉にする（📖42）



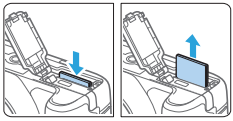
2 ふたを開ける

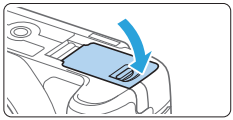
- **アクセスランプが消えていることを確認して、ふたを開きます。**
- **[書き込み中...]** と表示されたときは、ふたを閉じてください。



3 電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（付属／📖35）を取り付けてください。





4 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出します。

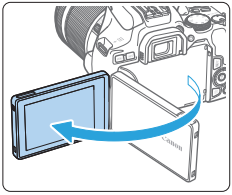
5 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

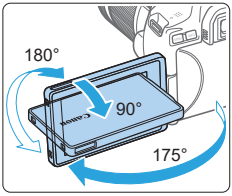
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。**
  また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。
  - **カードを取り出す**
  - **電池を取り出す**
  - **カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **電源コードの抜き差しを行う**（家庭用電源アクセサリー（別売）使用時／🕮469）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（🕮267）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（🕮67）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

液晶モニターを使う

液晶モニターを開いてメニュー機能の設定や、ライブビュー撮影、動画撮影、画像の再生を行います。液晶モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

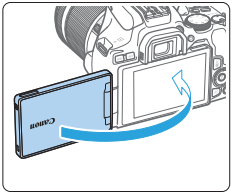


1 液晶モニターを開く



2 液晶モニターを回転させる

- 液晶モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。



3 画面を表向きにする

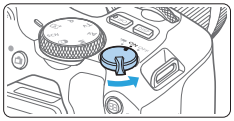
- 通常は、画面を表向きにして使用します。

- 液晶モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、液晶モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

- カメラを使わないときは、液晶モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- ライブビュー撮影と動画撮影で、液晶モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付 / 時刻 / エリアの設定画面が表示されたときは、44 ページを参照して日付 / 時刻 / エリアを設定してください。**



〈🎥〉：カメラが作動します。動画を撮影することができます（📖217）。
〈ON〉：カメラが作動します。静止画を撮影することができます。
〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈🧹〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（📖51）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈🧹〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

オートパワーオフについて

電池の消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態が続くと、**[⚙：オートパワーオフ]** の設定時間で電源が自動的に切れます（📖263）。シャッターボタンを半押し（📖51）すると、もう一度電源が入ります。

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、**[書き込み中 ...]** が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池残量表示について

電池の残量は、電源を入れたときに、4 段階で表示されます。



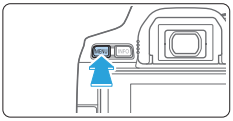
- : 電池の残量は十分です。
- : 電池の残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
- : まもなく電池切れになります。（点滅表示）
- : 電池を充電してください。

- 下記の操作を行うと、電池が早く消耗します。
  - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - AF 動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - 液晶モニターを頻繁に使用する
  - Wi-Fi 機能、Bluetooth 機能を使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- **[：バッテリー情報]** で、電池の状態を確認することができます（468）。

日付／時刻／エリアを設定する

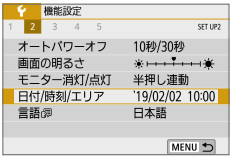
初めて電源を入れたときや、日付 / 時刻 / エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付 / 時刻 / エリアの設定画面が表示されますので、以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付 / 時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。



1 メインタブを表示する

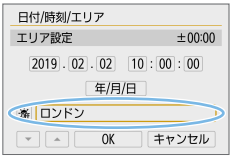
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。





2 [ ] タブの［日付 / 時刻 / エリア］を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押してメインタブ［ ］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押してサブタブを選びます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［日付 / 時刻 / エリア］を選び、〈SET〉を押します。



3 エリアを設定する

- **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**
- 〈◀〉〈▶〉を押して［エリア設定］を選び、〈SET〉を押します。

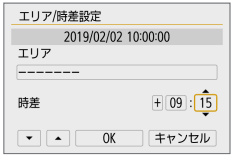
- メニュー機能の設定操作は、60 ページ～ 63 ページを参照してください。
- 手順 3 の［エリア設定］に表示される時間は、協定世界時との時差です。



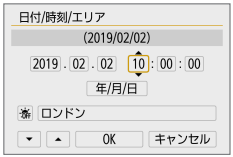
- もう一度〈SET〉を押します。



- 〈▲〉〈▼〉を押して、エリアを選び〈SET〉を押します。
- 設定したいエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押したあと、次の操作（協定世界時との時差）で設定します。

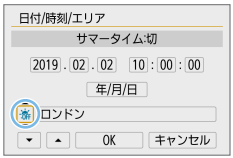


- 「協定世界時との時差」で設定するときは、〈◄〉〈►〉を押して**[時差]**の項目（＋－ / 時 / 分）を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⏶〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- エリア / 時差の設定が終わったら、〈◄〉〈►〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押します。



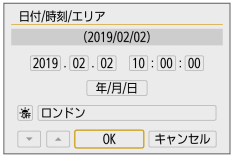
4 日付 / 時刻を設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⏶〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◄〉〈►〉を押して[☀]を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⏶〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して[☀]を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを[☀]にすると、手順4で設定した時刻が、1時間進みます。[☀]にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



6 設定を終了する

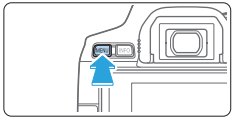
- 〈◄〉〈►〉を押して [OK] を選び、〈SET〉を押します。

➡ 日付 / 時刻 / エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

- 以下の条件の場合、日付 / 時刻 / エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
  - カメラから電池を取り出して保管したとき
  - カメラの電池残量がなくなったとき
  - カメラを氷点下に長時間放置したとき

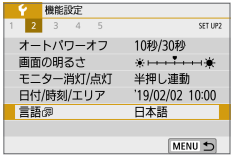
- 設定した日付 / 時刻のカウントは、手順 6 で [OK] を選んだときに始まります。
- **[: オートパワーオフ]** を **[4 分]** 以下に設定していても、**[: 日付 / 時刻 / エリア]** の設定画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が約 6 分になります。
- エリア / 時差設定を変更したときは、日付 / 時刻が正しく設定されているか確認してください。

表示言語を選ぶ



1 メインタブを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。





2 [ ] タブの [言語] を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押してメインタブ **[ ]** を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押してサブタブを選びます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して **[言語]** を選び、〈SET〉を押します。



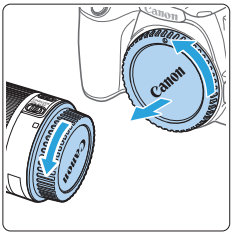
3 言語を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

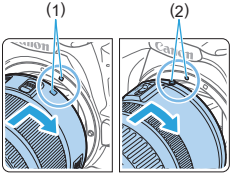
すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。なお、RFレンズ、EF-Mレンズは使用できません。

取り付け方



1 キャップを外す

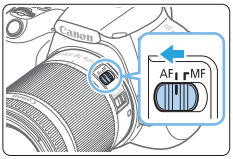
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

(1) 白い指標
(2) 赤い指標

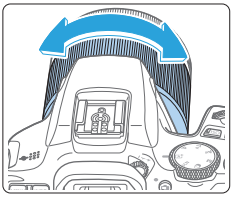


3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。

4 レンズキャップを外す

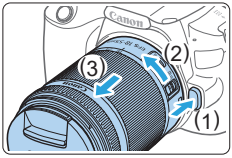
ズーム操作について



レンズのズームリングを手で回す

- ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

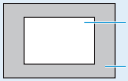


レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- **レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。**
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

- **撮影画角について**
  - 撮影画面は、35mm 判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約 1.6 倍」相当になります。



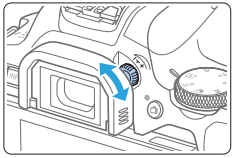
- レンズの使用方法については、レンズの使用説明書を参照してください。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



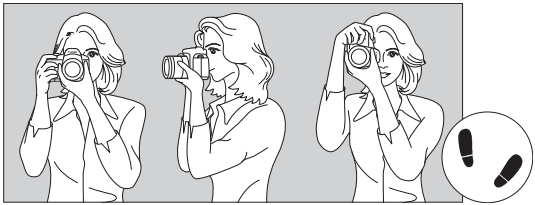
視度調整つまみを回す

- ファインダー内の AF フレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（📖472）。

- 視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、別売の視度補正レンズ E の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



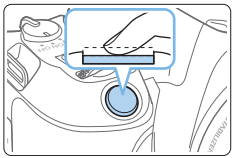
横位置　　縦位置

(1) 右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
(2) 左手でレンズを下から支えるように持ちます。
(3) 右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
(4) 脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
(5) 片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
(6) カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、180 ページを参照してください。

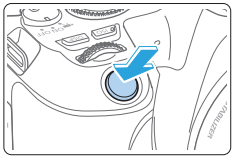
シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、ファインダー内に表示されます。
シャッターボタン半押し中は、液晶モニターが消灯します（🕮274）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

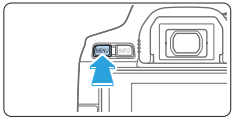
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

- 「カメラの構え方」（🕮50）のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

画面の表示レベルを設定する

自分の好みに合わせて、画面の表示方法を設定することができます。必要に応じて設定を変更してください。



1 メインタブを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

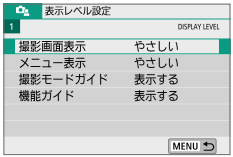


2 [ ] タブを選ぶ

- 十字キーの〈◄〉〈►〉を押して[ ]タブを選び、〈SET〉を押します。

撮影画面表示

ファインダー撮影時のクイック設定画面を**[標準]**、**[やさしい]**（簡単な表示）から選ぶことができます。初期状態では、**[やさしい]**に設定されています。



1 [撮影画面表示]を選ぶ



2 表示方法を選ぶ

● **画面例**

〈◎〉：やさしい



〈◎〉：標準



〈**Av**〉：やさしい



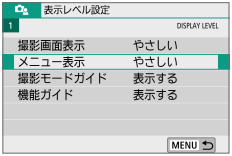
〈**Av**〉：標準



● 応用撮影ゾーンでは、**【やさしい】**に設定すると、クイック設定画面に表示される項目は、その撮影モードの特徴的な機能に限定されます。なお、**【やさしい】**設定時にクイック設定画面で設定できない項目は、メニュー画面から設定することができます（🕮61）。

メニュー表示

メニューの表示方法を［標準］、［やさしい］から選ぶことができます。［やさしい］設定時は〈MENU〉ボタンを押すとメニューのメインタブの説明が表示されます。［標準］設定時は〈MENU〉ボタンを押すと、そのままメニュー画面に進みます。初期状態では、［やさしい］に設定されています。



1 ［メニュー表示］を選ぶ



2 表示方法を選ぶ

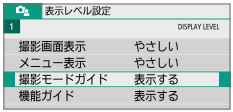


(1) メインタブ

- ［やさしい］に設定しているときは、［★（マイメニュー）］タブは表示されません。マイメニュー（📖462）の設定をするときは、［標準］に変更してください。

撮影モードガイド

撮影モードを変更したときに、撮影モードの説明（撮影モードガイド）を表示することができます。初期状態では、**[表示する]** に設定されています。



1 [撮影モードガイド] を選ぶ

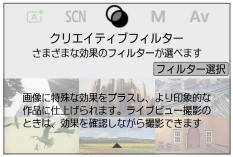


2 [表示する] を選ぶ



3 モードダイヤルを回す

➡ 設定した撮影モードの説明が表示されます。



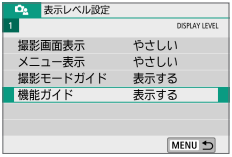
4 〈▼〉ボタンを押す

➡ さらに、説明が表示されます。

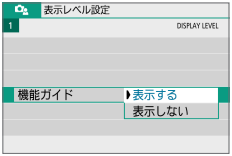
- 〈**SET**〉を押すと、撮影モードガイドは消えます。
- 〈**SCN**〉〈◒〉モードのときは、撮影モードの選択画面が表示されます。

機能ガイド

クイック設定時やメニュー設定時に、機能·項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。初期状態では、**[表示する]** に設定されています。



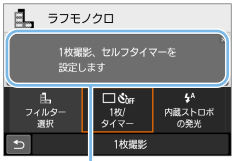
1 [機能ガイド] を選ぶ



2 [表示する] を選ぶ

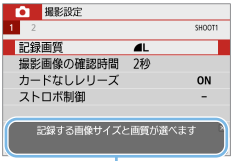
- **画面例**

クイック設定画面



(1)

メニュー画面



(1)

(1) 機能ガイド

- 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

撮影のヒント

[撮影画面表示] を **[やさしい]** に設定しているとき（🕮52）、カメラの設定が下記の状況の場合に、撮影のヒントが表示されます。なお、かんたん撮影ゾーンでは **[撮影画面表示]** の設定に関わらず、表示されます。

- 背景をさらにぼかしたいとき（〈**Av**〉モードで絞り数値を最も小さくしたとき）
- 明るすぎる写真になりそうなとき
- 暗すぎる写真になりそうなとき
- 手ブレしそうなとき（かんたん撮影ゾーン時のみ）



1 枠で囲んだ部分をタッチする

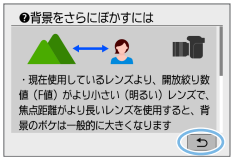
➡ 撮影のヒントが表示されます。

- 〈🗑〉ボタンを押して表示することもできます。



2 撮影のヒントを確認する

- タッチで画面をスクロールすることができます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して画面をスクロールすることもできます。



3 [⮌] をタッチする

➡ 表示が消え、手順 1 の画面に戻ります。

- 〈SET〉を押して表示を消すこともできます。

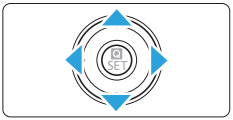
撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。



1 〈Q〉ボタンを押す

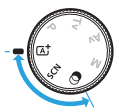
➡ クイック設定の状態になります。

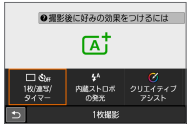


2 機能を設定する

- 〈✥〉十字キーを押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（📖56）が画面に表示されます。
- 〈☆〉を回して設定を変更します。

かんたん撮影ゾーン





応用撮影ゾーン





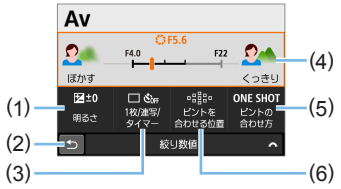
3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影した画像が表示されます。

● 手順1、2は、液晶モニターにタッチして操作することもできます（📖64）。

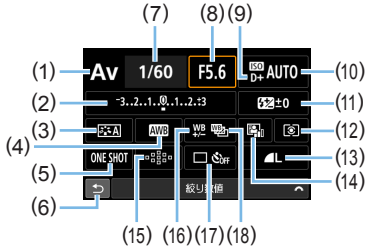
クイック設定の画面例

- [: 撮影画面表示 : やさしい] 設定時



(1) 露出補正
(2) 戻る
(3) ドライブモード
(4) 絞り数値
(5) AF 動作
(6) AF フレーム選択

- [: 撮影画面表示 : 標準] 設定時

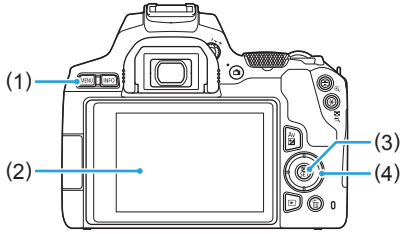


(1) 撮影モード *
(2) 露出補正／ AEB 設定
(3) ピクチャースタイル
(4) ホワイトバランス
(5) AF 動作
(6) 戻る
(7) シャッタースピード
(8) 絞り数値
(9) 高輝度側・階調優先 *
(10) ISO 感度
(11) 調光補正
(12) 測光モード
(13) 記録画質
(14) オートライティングオプティマイザ
(15) AF フレーム選択
(16) ホワイトバランス補正
(17) ドライブモード
(18) ホワイトバランスブラケティング

* クイック設定できません。

メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付 / 時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。



(1) 〈MENU〉ボタン
(2) 液晶モニター
(3) 〈SET〉ボタン
(4) 〈✣〉十字キー

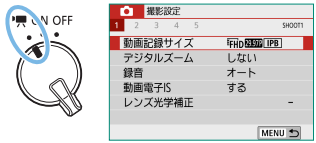
メニュー画面

撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

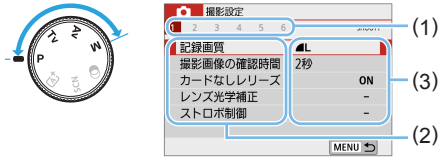
かんたん撮影ゾーン



動画撮影



応用撮影ゾーン



(1) サブタブ
(2) メニュー項目
(3) 設定内容

メニュー機能の設定操作

- [: メニュー表示 : やさしい] 設定時



1 メインタブを表示する

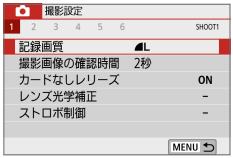
- 〈MENU〉ボタンを押すとメインタブ (1) の説明が表示されます。

2 メインタブを選ぶ

- 十字キーの〈◄〉〈►〉を押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。

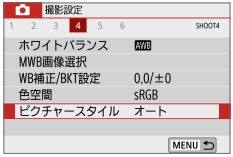
3 メニューを表示する

- 〈SET〉を押すと表示されます。
- メインタブの画面に戻るときは〈MENU〉ボタンを押します。



4 サブタブを選ぶ

- 十字キーの〈◄〉〈►〉を押してサブタブを選びます。



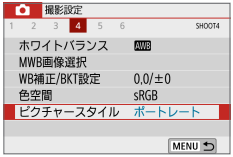
5 項目を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。



6 内容を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で内容を選びます（〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◄〉〈►〉で選ぶ内容があります）。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



7 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ 初期状態から設定を変更すると、青色で表示されます（[📷] タブのメニューのみ）。

8 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを 2 回押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

- 手順 2 の十字キーの代わりに〈☆〉と〈INFO〉ボタンで操作することもできます。
- 手順 3 で [OK] をタッチして、メニュー画面に進むこともできます。
- 手順 2 ～ 8 は、液晶モニターにタッチして操作することもできます（📖64）。
- これ以降のメニュー機能の説明は、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

- **[📷：メニュー表示：標準] 設定時**



1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

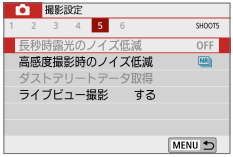
2 タブを選ぶ

- 十字キーの〈◀〉〈▶〉を押してメインタブ (1) とサブタブを選びます。
- これ以降の操作は **[📷：メニュー表示：やさしい]** と同じです。「メニュー機能の設定操作」（📖61）の手順 5 から参照してください。
- 設定を終了するときは〈MENU〉ボタンを 1 回押します。

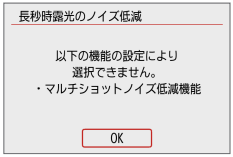
- 手順 2 の十字キーの代わりに〈☆〉と〈INFO〉ボタンで操作することもできます。ただし、サブタブは〈INFO〉ボタンでは操作できません。

メニュー項目の灰色表示について

例：［マルチショットノイズ低減機能］設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈**SET**〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。
優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

- **［：設定解除］**の**［カメラ設定初期化］**で、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（273）。

画面にタッチして操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）



- 液晶モニターに指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- 例えば、[回] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[⮌] をタッチすると、元の画面に戻ります。



タッチでできる操作

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- 〈ISO〉〈⊞〉ボタンを押したあとの機能設定
- ライブビュー撮影時のタッチ AF ／タッチシャッター
- AF フレームの選択
- ライブビュー撮影／動画撮影時の機能設定
- 再生操作

- **[🔧：電子音]** を **[タッチ音切]** に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります（🕮262）。

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



- 液晶モニターに指を触れたまま動かします。

画面例（目盛り表示）



ドラッグでできる操作

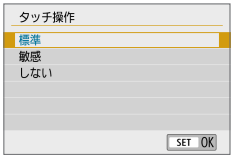
- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- AF フレームの選択
- ライブビュー撮影／動画撮影時の機能設定
- 再生操作

タッチしたときの反応を設定する



1 [タッチ操作] を選ぶ

- [🔧] タブの [**タッチ操作**] を選び、〈SET〉を押します。



2 タッチしたときの反応を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。
- 通常は **[標準]** を選びます。
- **[敏感]** に設定すると、**[標準]** に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。
- タッチ操作を禁止するときは、**[しない]** を選びます。

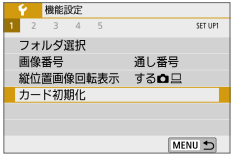
タッチパネル操作時の注意事項

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- **[敏感]** 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

カードを初期化する

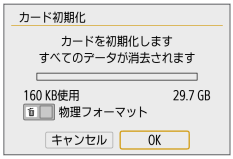
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

- **カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。**



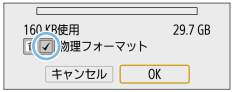
1 [カード初期化] を選ぶ

- [🔧] タブの **[カード初期化]** を選び、〈SET〉を押します。



2 初期化する

- **[OK]** を選び〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。



- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、**[物理フォーマット]** の横に〈✓〉が付いた状態で **[OK]** を選びます。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、Microsoft からライセンスされた exFAT 技術を搭載しています。

こんなときに［カード初期化］を行います

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（📖486）

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に【キャンセル】を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

● カード初期化時のファイルフォーマットについて

SD/SDHC カードは FAT32 形式、SDXC カードは exFAT 形式でフォーマットされます。

なお、exFAT 形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1 回の撮影でファイルサイズが 4GB を超える場合でも、（ファイルが分割されず）1 つの動画ファイルに記録されます（4GB を超える動画ファイルが作成されます）。

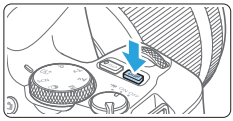
- このカメラで初期化した SDXC カードを他のカメラに入れると、エラーが表示され、使用できないことがあります。また、exFAT 形式でフォーマットされたカードは、パソコンの OS やカードリーダーにより、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

液晶モニターの表示切り換え

液晶モニターには、クイック設定画面や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。



- 電源を入れると、クイック設定画面が表示され、撮影機能の設定状態を確認することができます。
- **シャッターボタンを半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。**



- 〈DISP〉ボタンを押して表示を消すこともできます。もう一度押すと表示されます。

メニュー機能



- 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、元の画面に戻ります。

撮影した画像



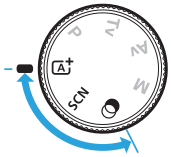
- 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、元の画面に戻ります。

- **[🔧：モニター消灯 / 点灯]** で、液晶モニターの表示が、消えたり点いたりしないようにすることができます（📖274）。
- メニュー機能や撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影することができます。
- 〈INFO〉ボタンを押して表示を消すこともできます。もう一度押すと表示されます。

かんたん撮影と画像確認

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。
かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

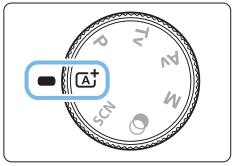




- **〈SCN〉〈◎〉モードで撮影する前に**
  液晶モニターが消灯しているときは〈Q〉ボタン（📖79、📖94）を押して、設定されている撮影モードを確認してから撮影してください。
  * 〈**SCN**〉：スペシャルシーン
  * 〈◎〉：クリエイティブフィルター

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（🕮75）。

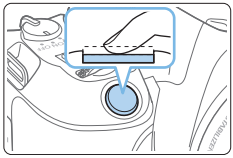


1 モードダイヤルを〈A+〉にする



2 被写体（写したいもの）に AF フレームを合わせる

- すべての AF フレーム (1) を使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントが合います。
- 中央の AF フレームを被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。

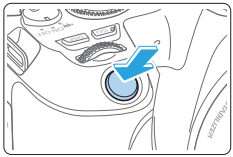




(1)

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレーム内の点が一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉(1) が点灯します。
- 必要に応じて、ストロボを指で持ち上げてください。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約 2 秒間表示されます。
- 撮影を終了するときは、内蔵ストロボを手で押し下げて収納します。

- ストロボを上げるときは、アクセサリーシューからアクセサリーを外してください。

- 手順 1 で、撮影モードの説明が表示されたときは、〈SET〉を押すと説明が消えます（📖55）。
- 〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈P/Tv/Av/M/B〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（📖122）。

? こんなときは

- **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**
  - 明暗差（コントラスト）のある部分に AF フレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（📖51）。
  - 被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
  - ピントを合わせたい位置に近い AF フレームを選択してください（📖109）。初期状態では、自動選択に設定されています。
- **複数の AF フレームが同時に表示される**
  赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせた AF フレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。
- **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**
  動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。
  なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（📖75）はできません。
- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**
  レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。
- **明るい日中なのにストロボ撮影になった**
  逆光状態のときは、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、内蔵ストロボを手で押し下げてください。
- **内蔵ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**
  被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。
- **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**
  AF でピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF 補助光といわれる機能で、有効距離の目安は 4 m以内です。なお、内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

- **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**
  写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。被写体から離れて撮影してください。また、レンズの先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。
〈🅰+〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈**SCN**：🚫 🚶〉を除く）。

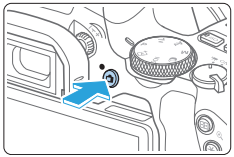
動いているものを撮影する



〈🅰+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AI サーボ AF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体が AF フレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、180 ページを参照してください。



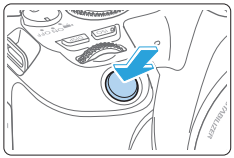
1 液晶モニターに映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈📷〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

液晶モニターの向きを変えて撮影することができます（📖40）。



通常のアングル

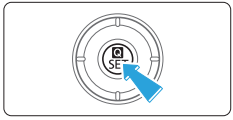


ローアングル



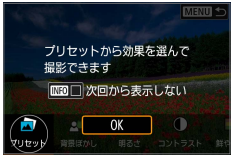
ハイアングル

効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）



1 〈Q〉ボタンを押す

- ファインダー撮影時は、〈◄〉〈►〉で［クリエイティブアシスト］を選び、〈SET〉を押します。



- ライブビュー撮影時は、メッセージを確認して［OK］を選びます。



2 効果を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で効果を選び、〈SET〉を押します。



3 効果の度合い・内容を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で設定し、〈SET〉を押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈✱〉ボタンを押して［OK］を選びます。

クリエイティブアシストの効果

- ［プリセット］
  用意された効果の中から選ぶことができます。
  ［B&W］を設定したときは［鮮やかさ］［色あい 1］［色あい 2］は選べません。

- **［背景ぼかし］**
  背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。**[AUTO]** に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ（F 値）によっては、設定できない位置があります。
- **［明るさ］**
  画像の明るさを設定することができます。
- **［コントラスト］**
  コントラスト（明暗差）の強さを設定することができます。
- **［鮮やかさ］**
  色の鮮やかさを設定することができます。
- **［色あい 1］**
  アンバーとブルーの色あいを設定することができます。
- **［色あい 2］**
  グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。
- **［モノクロ］**
  モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。**【切】** を設定したときはカラーで撮影されます。**【切】** 以外を設定したときは **【鮮やかさ】【色あい 1】【色あい 2】** は選べません。

- ストロボ撮影時、**【背景ぼかし】** は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源スイッチを〈OFF〉にすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、**【：クリエイティブアシスト設定記憶】** を **【する】** に設定しておくと、設定が保持されます。
- **【：クリエイティブアシスト設定記憶】** を **【する】** にした状態で設定を変更すると、ファインダーの左下に〈**!**〉が表示されます。

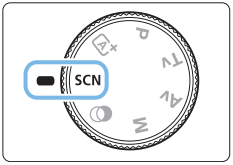
効果の登録

現在の効果をカメラに登録したいときは、クリエイティブアシストの設定画面で〈INFO〉ボタンを押して **[OK]** を選びます。最大 3 つまで **【プリセット】** の **[USER*]** に登録することができます。すでに 3 つ登録されているときは、**[USER*]** のいずれかを上書きする必要があります。

スペシャルシーンモードで撮る

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。

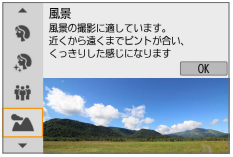
＊〈**SCN**〉は、Special Scene（スペシャルシーン）の略です。



1 モードダイヤルを〈SCN〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す



3 撮影モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して撮影モードを選び、〈SET〉ボタンを押します。
- 〈 〉を回して選ぶこともできます。

SCNモードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	ポートレート	80
	美肌	81
	集合写真	82
	風景	83
	スポーツ	84
	キッズ	85

撮影モード		参照頁
	クローズアップ	86
	料理	87
	キャンドルライト	88
	夜景ポートレート	89
	手持ち夜景	90
	HDR 逆光補正	91

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈🧑〉（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。







撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**
  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。
- **望遠レンズを使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。
- **顔にピントを合わせる**
  ピント合わせのときに、顔の位置にある AF フレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目にピントを合わせると効果的です。

- 初期設定では、〈連続撮影〉が設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続撮影して表情やポーズの変化を写すことができます。

人物の肌をより美しく写す

人物の肌をきれいに写したいときは、〈✨〉（美肌）を使用します。画像処理によって肌がなめらかに見えるような写真を撮ることができます。







撮影のポイント

- **顔の大きさを調整する**
  美肌効果をかける主被写体が検出されたときに顔に枠が表示されます。被写体の顔に枠が表示されるよう大きさを調整すると、効果的に美肌効果をかけることができます。
- **顔にピントを合わせる**
  ピント合わせのときに、顔の位置にある AF フレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目にピントを合わせると効果的です。

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正することがあります。
- ファインダー撮影時は、背景が明るいシーンなどで顔が暗くなり、思いどおりに美肌効果がかからないことがあります。そのときは、**【明るさ】**を調整するか、ライブビュー撮影を行ってください。

集合写真を写す

集合写真を撮るときは〈👪〉（集合写真）を使用します。手前から奥の人物までピントが合った写真を撮ることができます。







撮影のポイント

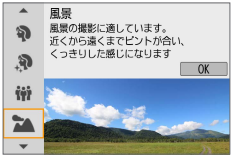
- **広角レンズを使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、手前から奥の人物までピントが合いやすくなります。また、（人物の全身が写るくらいに）人物から少し離れると、ピントの合う範囲が前後に広くなります。
- **同じシーンを何枚か撮影する**
  目を閉じてしまう人がいることがあるため、何枚か撮影しておくことをおすすめします。

- 注意事項は 92 ページを参照してください。

- 室内や暗い場所で撮影するときは、カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。
- **【明るさ】**で、画像の明るさを調整することができます。

風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏞〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。







撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。
- **夜景を撮影するときは**
  〈🏞〉は内蔵ストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ちで夜景を撮影すると手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

- 逆光や暗い場所でも内蔵ストロボは発光しません。

動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏃〉（スポーツ）を使用します。







撮影のポイント

- **望遠レンズを使用する**
  遠くからでも撮影できるように望遠レンズの使用をおすすめします。
- **中央の AF フレームで被写体を捉え続ける**
  ファインダー中央の AF フレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。
  初期設定では、〈🔲〉（連続撮影）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます。

- 逆光や暗い場所でも内蔵ストロボは発光しません。
- 手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

子供を写す

動き回る子供にピントを合わせ続けて撮影したいときは、〈🏃〉（キッズ）を使用します。肌色が健康的な写真になります。







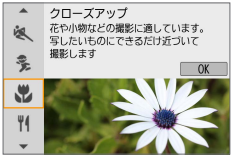
撮影のポイント

- **中央の AF フレームで被写体を捉え続ける**
  ファインダー中央の AF フレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。
- **連続して撮影する**
  初期設定では、〈🖳〉（連続撮影）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影して、表情や動きの変化を写すことができます。

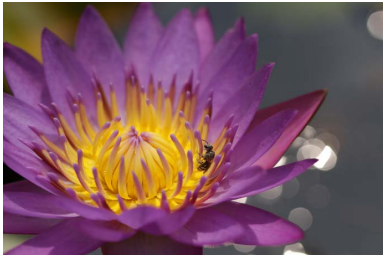
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「**buSy**」が表示され、撮影できません。表示が消えてから撮影をしてください。
- 注意事項は 92 ページを参照してください。

花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。







撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
  背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。
- **写したいものにできるだけ近づく**
  最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈**0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合わないため合焦マーク〈●〉が点滅します。
  内蔵ストロボが発光して、画像の下側が不自然に暗くなった場合は、少し離れて撮りなおしてください。
- **ズームレンズは望遠側にする**
  ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

料理を写す

料理を撮影するときは、〈🍴〉（料理）を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。







撮影のポイント

- **色あいを変える**
  [色あい] を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは **[暖色]** 側に、赤みが強すぎるときは **[寒色]** 側に設定を変更して撮影してください。
- **なるべくストロボを使わないで撮影する**
  料理にストロボ光が直接あたると、お皿や料理に反射光が写り込んだり、不自然な影ができてしまったりします。ストロボを使わないで撮影することをおすすめしますが、暗い場所では手ブレに注意してください。

- 料理をおいしそうな色あいに撮影するためのモードなので、人物は適切な色あいにならないことがあります。
- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ撮影時は、**[色あい]** の設定が標準設定に切り換わります。

キャンドルライトと人物を写す

キャンドルライトに照らされた人物を撮りたいときは、〈🎭〉（キャンドルライト）を使用します。キャンドルライトの雰囲気を生かした色あいの写真になります。





撮影のポイント

- **中央の AF フレームでピントを合わせる**
  ファインダー内の中央の AF フレームを人物に合わせて撮影します。
- **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**
  暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、ズーム位置を広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- **色あいを変える**
  [色あい] を変えることができます。キャンドルライトの赤みを強めにしたいときは **[暖色]** 側に、赤みが強すぎるときは **[寒色]** 側に設定を変更して撮影してください。

- ライブビュー撮影はできません。
- ストロボ撮影はできませんが、暗い場所では AF 補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします（📖168）。

夜景と人物を写す（三脚を使う）

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈🌃〉（夜景ポートレート）を使用します。三脚の使用をおすすめします。







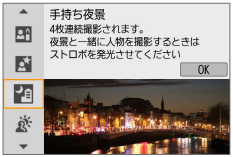
撮影のポイント

- **広角レンズと三脚を使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。
- **画像の明るさを確認する**
  暗い場所では、ストロボ撮影を行うと人物がきれいに写ります。
  なお、撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。
- **他の撮影モードでも撮影しておく**
  ブレた写真になりやすいので、〈📷+〉と〈🌃〉でも撮影しておくことをおすすめします。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- 注意事項は 92 ページを参照してください。

夜景を写す（手持ち撮影）

夜景を撮影するときは三脚を使用した方がきれいに撮影できますが、〈🌃〉（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1 回の撮影で 4 枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が 1 枚記録されます。







撮影のポイント

- **カメラをしっかり構える**
  撮影中､カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4 枚の画像の位置を合わせながら合成して、1 枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- **人物も一緒に撮るときはストロボ発光**
  人物も一緒に撮るときは、内蔵ストロボを指で持ち上げます。人物もきれいに写るように、初めの 1 枚がストロボ撮影になります。4 枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

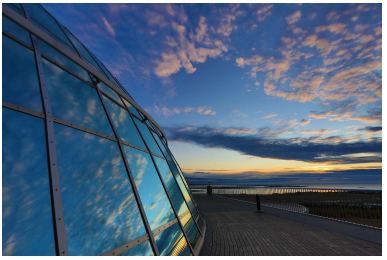
- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- 注意事項は 92 ページ、93 ページを参照してください。

逆光シーンを写す

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、〈 〉（HDR 逆光補正）を使用します。1 回の撮影で明るさの異なる 3 枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が 1 枚記録されます。







撮影のポイント

- **カメラをしっかり構える**
  撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3 枚の画像の位置を合わせながら合成して、1 枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- ストロボ撮影はできませんが、暗い場所では AF 補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします（168）。
- 注意事項は 92 ページ、93 ページを参照してください。

- HDR は、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

〈 〉集合写真の注意事項

- 歪曲収差補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。また、ライブビュー撮影時は、画角がわずかに変化します。

〈 〉キッズの注意事項

- ライブビュー撮影時、連続撮影中にストロボが発光したときは、連続撮影速度が低下します。その後、ストロボが発光しなくても、連続撮影速度は低下したまま撮影されます。

〈 〉夜景ポートレートと〈 〉手持ち夜景の注意事項

- ライブビュー撮影時、夜景など、点状の光源ではピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

〈 〉夜景ポートレートの注意事項

- ライブビュー撮影時、人物の顔が暗いときはピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動でピントを合わせてください。

〈 〉手持ち夜景と〈 〉HDR 逆光補正の注意事項

- RAW 画質は選択できません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内に「**buSy**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

〈 〉手持ち夜景の注意事項

- ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。
- ストロボ撮影時に、明かりが少ない夜景を撮影するときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボ撮影時に、人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。また、不自然な影ができたり、色あいが適切にならないことがあります。
- 外部ストロボ使用時の照射角について
  - 照射角の自動設定に対応したストロボのときは、レンズのズーム位置に関係なく、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
  - 照射角を手動で設定するストロボのときは、発光部を通常状態にして撮影してください。

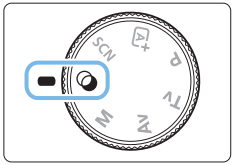
〈 〉HDR 逆光補正の注意事項

- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR 効果で不自然な画像になることがあります。

フィルター効果を付けて撮影する

〈◎〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果（10 種類：ラフモノクロ＊／ソフトフォーカス＊／魚眼風＊／水彩風＊／トイカメラ風＊／ジオラマ風＊／HDR 絵画調標準／HDR グラフィック調／HDR 油彩調／HDR ビンテージ調）を付けた画像を撮影することができます。ライブビュー撮影状態にすると、撮影前にフィルター効果を画面で確認することができます。保存される画像は、フィルター効果ありの画像のみです。

＊印の効果は、フィルター効果なしで通常の撮影を行い、撮影後に画像に効果を付けて別画像として保存することもできます（🕮332）。



1 モードダイヤルを〈◎〉にする



2 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。



3 クイック設定で［クリエイティブフィルター］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して画面左上の［🎨］を選び、〈SET〉を押します。

- 設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順 1 のあと〈Q〉ボタンを押して、**［フィルター選択］**を選択します。



4 撮影モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して撮影モードを選び〈SET〉を押します。
- ➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。

モードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	ラフモノクロ	96
	ソフトフォーカス	96
	魚眼風	96
	水彩風	96
	トイカメラ風	97

撮影モード		参照頁
	ジオラマ風	97
HDR	HDR 絵画調標準	97
HDR	HDR グラフィック調	97
HDR	HDR 油彩調	97
HDR	HDR ビンテージ調	97



5 効果を調整する

- 〈Q〉ボタンを押して、**[クリエイティブフィルター]** の下のアイコンを選びます（、HDR、HDR、HDR、HDR を除く）。
- 〈◄〉〈►〉を押して効果を調整し、〈SET〉を押します。

6 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈📷〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。

- RAW 画質は選択できません。
- 〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉設定時は、連続撮影は設定できません。
- 魚眼風で撮影した画像には、ダストデリートデータ（277）は付加されません。

ライブビュー撮影時について

- ラフモノクロのときは、液晶モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- ソフトフォーカス、ジオラマ風のときは、液晶モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。
- 応用撮影ゾーンのときは、クイック設定で一部のクリエイティブフィルターを設定することができます（🕮94）。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。
- **魚眼風**
  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。AF フレームは、中央 1 点固定になります。
- **水彩風**
  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **トイカメラ風**
  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風**
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  ライブビュー撮影時にはっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は「ジオラマ風の操作」（📖99）を参照してください。AF 方式は 1 点 AF になります。AF フレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。
  ファインダー撮影時は、ファインダー内の中央に表示された AF フレームを写したいものに合わせて撮影します。

- **HDR 絵画調標準**
  白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

- **HDR グラフィック調**
  [HDR 絵画調標準] よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

- **HDR 油彩調**
  最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

- **HDR ビンテージ調**
  鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

〈HDR〉HDR 絵画調標準〈HDR〉HDR グラフィック調〈HDR〉HDR 油彩調〈HDR〉HDR ビンテージ調の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- ライブビュー映像で表示されるフィルター効果の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯や LED 照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内には「**buSy**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできませんが、暗い場所では AF 補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします（🕮168）。

- 〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。**1 回の撮影で明るさの異なる 3 枚の画像を連続撮影し、1 枚の画像を作成します。**

ジオラマ風の操作



1 AF フレームを移動する

- ピントを合わせたい位置に、AF フレームを移動します。



2 ジオラマ枠を移動する

- AF フレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させて AF フレームの位置に合わせます。
- 〈🔍〉ボタンを押す（または画面右下の［⊹］をタッチする）と、ジオラマ枠がオレンジ色に変わり、移動することができます。
- 〈INFO〉ボタンを押す（または画面左下の［⿻］をタッチする）と、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- 〈SET〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。
- AF フレームやジオラマ枠の移動は〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押します。画面の中央に戻したいときは〈🗑〉ボタンを押します。

3 撮影する

クイック設定について

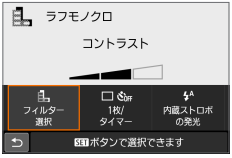
かんたん撮影ゾーンで、〈Q〉ボタンを押すと、液晶モニターに表示されている項目を直接選択して、設定することができます。

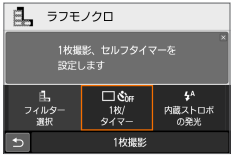
1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

2 〈Q〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります。

例：〈🏞〉





3 機能を設定する

- 〈✥〉十字キーを押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（📖56）が画面に表示されます。
- 〈◯〉を回して設定を変更します。
- 機能を選び〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

- **［📷：撮影画面表示：標準］**設定時は、以下のような画面が表示されます。

例：〈🏞〉





明るさを調整する

〈**SCN**：〉を除く〈**SCN**〉モードで、明るさを調整して撮影する方法を説明します。「0」を基準に、明るさ、暗さを、それぞれ３段階ずつ調整することができます。

1 **モードダイヤルを〈SCN：〉にする**

- 〈〉以外のいずれかに設定します。



2 **ライブビュー映像を表示する**

- 〈〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します（〈〉を除く）。



3 **クイック設定で明るさを選ぶ**

- 〈Q〉ボタンを押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［明るさ］を選び、〈◄〉〈►〉を押して明るさを設定します。
- ➡ 選んだ明るさの仕上がりイメージが表示されます。

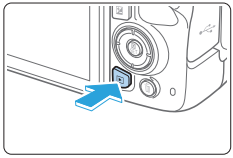
4 **撮影する**

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［0］（標準）に戻ります。

- 設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順３から操作してください。

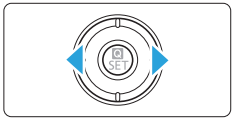
画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。再生方法に関する詳しい説明は、283 ページを参照してください。



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

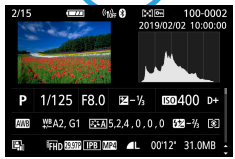
- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



情報表示なし



簡易情報表示



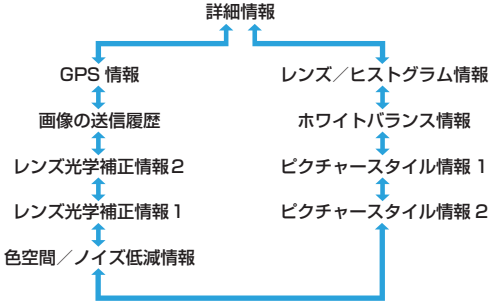
撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

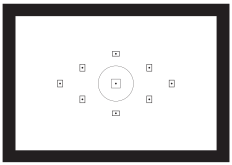
撮影情報表示について

撮影情報表示の画面（📖102）が表示されている状態で〈▲〉〈▼〉を押すと、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。詳しくは327 ページ～ 328 ページを参照してください。



- 表示される内容は、撮影モードや設定によって異なります。
- GPS レシーバー GP-E2 やスマートフォンを使用して、画像に GPS 情報が記録されているときは、「GPS 情報」の画面も表示されます。

AF ／ドライブの設定



ファインダー内に配置された AF フレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応した AF 撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

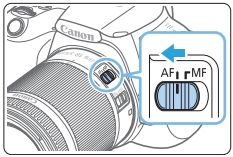
- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（🕮31）限定の機能であることを示しています。
- AF 動作は、かんたん撮影ゾーンでは自動設定されます。

- 〈**AF**〉は Auto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉は Manual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

ピント合わせの動作を変える

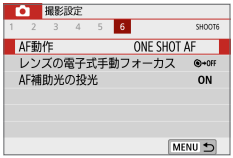
応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適な AF 動作が自動設定されます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする



3 [AF 動作] を選ぶ

- [📷] タブの [AF 動作] を選び、〈SET〉を押します。

➡ [AF 動作] が表示されます。



4 AF 動作を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して AF 動作を選び、〈SET〉を押します。

5 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定した AF 動作でピント合わせが行われます。

止まっている被写体を撮る：ワンショット AF



止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると 1 回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレーム (1) 内の点が一瞬赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉(2) が点灯します。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、「ピントが合いにくい被写体」(🕮111) を参照して再度ピント合わせを行ってください。
- **[🔧：電子音]** を **[切]** に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。
- ワンショット AF でピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。画面の端に被写体があるときなどに有効です。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、108 ページを参照してください。

動いている被写体を撮る：AI サーボ AF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- AF フレーム選択（🕮109）が、自動選択のときは、初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AF を行っているときに被写体が中央の AF フレームから外れても、他の AF フレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

- AI サーボ AF のときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AF 動作を自動的に切り換える：AI フォーカス AF

被写体の状態に応じて、［ワンショット AF］から［AI サーボ AF］へと作動特性が自動的に切り換わります。

- ワンショット AF で被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的に AI サーボ AF に切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

- AI フォーカス AF のサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

内蔵ストロボによる AF 補助光について

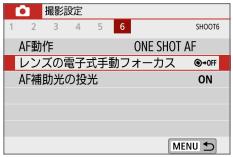
暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これは AF でピントを合わせやすくするためです。

- 〈**SCN**：🏔 🏃 🌬〉モードでは、内蔵ストロボによる AF 補助光は投光されません。
- AF 動作が AI サーボ AF のときは、AF 補助光は投光されません。
- 内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

- 内蔵ストロボによる AF 補助光でピントが合う範囲の目安は 4 m以内です。
- ストロボを上げておくと、必要に応じて AF 補助光が光ります。【📷：**AF補助光の投光**】を【**しない**】に設定すると投光されません（🕮168）。

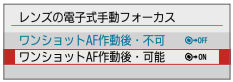
レンズの電子式手動フォーカスの設定

ワンショット AF 時、電子式の手動フォーカス機能を備えた USM レンズ、STM レンズ使用時に、電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。初期状態では【**ワンショットAF作動後・不可**】に設定されています。



1 【レンズの電子式手動フォーカス】を選ぶ

- 【📷】タブの【**レンズの電子式手動フォーカス**】を選び、〈**SET**〉を押します。

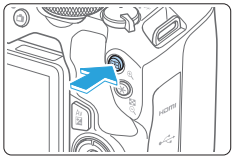


2 内容を設定する

- 項目を選び〈**SET**〉を押します。

- **ワンショット AF 作動後・不可**
  AF 動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **ワンショット AF 作動後・可能**
  AF 動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

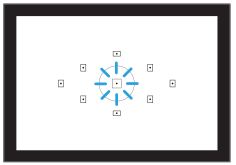
ピントを合わせる枠を選ぶ



1 〈⊡〉ボタンを押す

➡ 現在選択されている AF フレームが、液晶モニターとファインダー内に表示されます。





2 AF フレームを選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押して AF フレームを選びます。
- ファインダーをのぞきながら AF フレームを選ぶときは、〈◌〉を回して赤く光る点を移動させます。
- すべての AF フレームが点灯しているときは自動選択です。被写体の位置に応じて、自動的に AF フレームが決まります。
- 〈SET〉を押すと、中央の AF フレームと自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- 選んだ AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

- 画面にタッチして、AF フレームを選択することもできます。また、任意選択時に、画面左下の［⊡⊡⊡⮌］をタッチすると、自動選択に切り換わります。
- ［✋：⊡ と ✳ ボタンの入換］を［する］に設定すると、〈⊡〉ボタンと〈✳〉ボタンの機能を入れ替えることができます。

撮影のポイント

- **人物をアップで撮影するときは、［ワンショット AF］で目にピントを合わせる**
  写される人の目にピントを合わせてから構図を決めます。
- **ピントが合いにくいときは、中央の AF フレームを選ぶ**
  9 点の中で、一番ピントの合いやすい AF フレームです。
- **動いているものに楽にピントを合わせ続けたいときは、［自動選択］と AF 動作の［AI サーボ AF］（🕮107）を組み合わせる**
  初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AF を行っているときに被写体が中央の AF フレームから外れても、他の AF フレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

- エクステンダー（別売）を組み合わせたときの開放絞り数値が、F5.6 よりも大きい場合は、AF 撮影できません（ライブビュー撮影時を除く）。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

ピントが合いにくい被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体（例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AF フレームの近くにある場合（例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などが、AF フレームの近くにある場合（例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- AF フレームに対してパターンが細かい被写体（例：AF フレームと同じ、または小さいサイズの顔や花など）

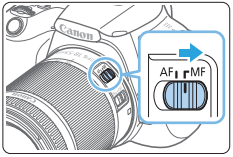
これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショット AF のときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（🕮75）。

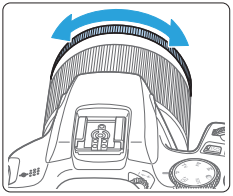
（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度 AF を行うと、ピント合わせができることがあります。
- ライブビュー撮影時、動画撮影時に、AF でピントが合いにくい撮影条件については、201 ページを参照してください。

MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする



2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ファインダー内にピントが合ったAFフレーム内の点が一瞬赤く光り、合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択

ドライブモードには 1 枚撮影と連続撮影があります。



1 〈Q〉を押す

➡ クイック設定の状態になります。



2 [□ᵒᶠᶠ] を選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押して [□ᵒᶠᶠ] を選び、〈SET〉を押します。



3 ドライブモードを選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押してドライブモードを選び、〈SET〉を押します。

□：1 枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1 枚だけ撮影します。

□：連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続撮影します。

□ˢ：ソフト 1 枚撮影 応用

シャッターボタンを全押しすると、静かな作動音で 1 枚だけ撮影します。

□ˢ：ソフト連続撮影 応用

シャッターボタンを全押しすると、押している間、静かな作動音で連続撮影します。

ᵒ10/ᵒ2：セルフタイマー：10 秒 / リモコン撮影

（ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）使用時）

$\mathrm{\ddot{O}}_2$：セルフタイマー：2 秒

$\mathrm{\ddot{O}}_C$：セルフタイマー：連続撮影

セルフタイマー撮影については 205 ページ、BR-E1 を使用したリモコン撮影については 471 ページを参照してください。

- 連続撮影速度は、シャッタースピードや絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、温度、電源の種類、電池残量などにより低下することがあります。
- ライブビュー撮影時は、〈□S〉〈⧉S〉は設定できません。
- 電池残量が少ないときや、暗い場所で撮影を行ったときは、連続撮影速度が低下することがあります。
- AI サーボ AF 時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。
- BR-E1 とペアリング後は、〈$\mathrm{\ddot{O}}_{10}$〉が〈$\mathrm{\ddot{O}}_{i}$〉に変わります（📖471）。

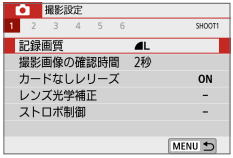
画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO 感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、ノイズ低減機能、レンズ光学補正など、画像に関係する機能設定について説明しています。

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（📖31）限定の機能であることを示しています。

記録画質を設定する

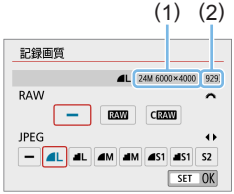
記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEG 画像の記録画質は、**◢L**、**◢L**、**◢M**、**◢M**、**◢S1**、**◢S1**、**S2** です。RAW 画像の記録画質は、**RAW**、**CRAW** です。



1 記録画質を選ぶ

- **[📷]** タブの **[記録画質]** を選び、〈**SET**〉を押します。

➡ **[記録画質]** が表示されます。



2 記録画質を設定する

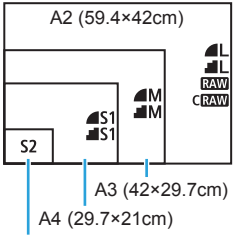
- RAW 画質は〈◌〉を回して、JPEG 画質は〈◀〉〈▶〉で選びます。
- 画面上に表示される「記録画素数」(1) と、「撮影可能枚数」(2) を目安に選び、〈**SET**〉を押します。

- UHS-I 対応のカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりません。
- 記録画質の読み方は、**RAW**（ロウ）、**CRAW**（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、◢（ノーマル）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

? こんなときは

- **印刷する用紙サイズで記録画質を選びたい**

用紙サイズ



図を目安に記録画質を選んでください。撮影後にトリミング（画像の切り抜き）をするときは、記録画素数の多い **L**、**L**、RAW、CRAW をおすすめします。
なお、**S2** は市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。

- **、 の違いは？**
圧縮率による画質の違いを表しています。同じ記録画素数のときは、 の方がきれいです。 を選ぶと画質は少し落ちますが、 よりもカードに多く記録できます。なお、**S2** は （ファイン）の画質です。

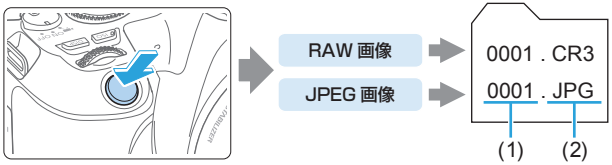
- **表記されている撮影可能枚数よりも多く撮影できた**
撮影条件によっては、表記の枚数よりも多く撮影できることがあります。逆に、撮影できる枚数が少なくなることもありますので、目安としてとらえてください。

- **連続撮影可能枚数（バースト撮影枚数）は、カメラに表示される？**
ファインダー内右端の数字が連続撮影可能枚数です。ただし、**0**～**9** の 1 桁表示なので、連続撮影できる枚数が、8 枚以下になるまで「**9**」表示のままです。なお、この数値はカードが入っていないときにも表示されますので、カードを入れずに撮影しないよう注意してください。

- **RAW、CRAW はどういうときに使うの？**
RAW、CRAW はパソコンで処理が必要な画像です。詳しくは、「RAW 画像と JPEG 画像について」（🕮118）をお読みください。

RAW 画像と JPEG 画像について

- カードに記録される RAW 画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換して記録した「生（ロウ）データ」で、RAW または RAW よりもファイルサイズが小さい CRAW から選ぶことができます。
  RAW 画像は、EOS 用ソフトウェアの Digital Photo Professional で現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映した JPEG 画像などを生成することができます。
- RAW 画像と JPEG 画像の設定を両方【−】にしたときは、◢L に設定されます。
- RAW と JPEG の両方を選んだときは、1 回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2 つの画像は同じ画像番号 (1) で記録されます。拡張子 (2) は JPEG：.JPG、RAW：.CR3 です。



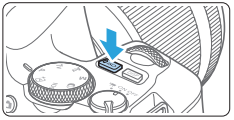
RAW 画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンで RAW 画像を表示するときは、EOS 用ソフトウェアの Digital Photo Professional（以下 DPP）の使用をおすすめします（491）。
- 古いバージョンの DPP Ver.4.x では、このカメラで撮影した RAW 画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンの DPP Ver.4.x がインストールされているときは、キヤノンの Web サイトから、最新の DPP を入手して、アップデート（上書きインストール）してください。なお、Ver.3.x 以前の DPP では、このカメラで撮影した RAW 画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影した RAW 画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

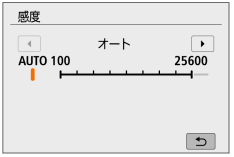
静止画の ISO 感度を設定する

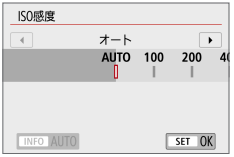
応用

ISO 感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。
かんたん撮影ゾーンでは、ISO 感度が自動設定されます。
なお、動画撮影時の ISO 感度については、🕮218、🕮219、🕮222を参照してください。



1 〈ISO〉ボタンを押す





2 ISO 感度を設定する

- ファインダー内または液晶モニターを見ながら〈◀〉〈▶〉または〈🎛〉で ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。
- ISO 感度は、ISO100 ～ 25600 の範囲で設定することができます。
- **[AUTO]** を選ぶと、ISO 感度が自動設定されます（🕮120）。
- **[📷ISO 感度に関する設定]** の **[ISO 感度]** から設定するときは（左図）、〈INFO〉ボタンを押すと、**[AUTO]** に設定することができます。

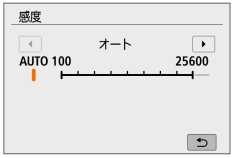
ISO 感度を選ぶときの目安

- ISO 感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO 感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

- **[📷ISO感度に関する設定]**の**[ISO感度]**から設定することもできます。
- **[🔧：カスタム機能（C.Fn）]**の**[ISO感度拡張]**を**[1：する]**に設定すると、「H」（ISO51200相当）も選択できるようになります（📖455）。

- **[📷：高輝度側・階調優先]**を**[する]**[強]に設定すると、ISO100と「H」（ISO51200相当）は選択できなくなります（📖138）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 「H」（ISO51200相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。

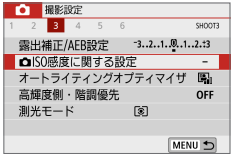
ISO感度の自動設定［AUTO］について



- ISO感度の設定が**[AUTO]**のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が、ファインダー内または液晶モニターに表示されます。
- **[AUTO]**のときのISO感度表示は1段ステップですが、実際はより細かく制御されています。そのため、撮影情報（📖326）でISO感度を確認すると、ISO125や640などと表示されることがあります。

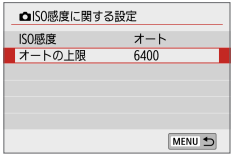
ISO 感度［AUTO］時の上限値設定について

ISO 感度オート時に自動設定される感度の上限値を、ISO400 ～ 25600 の間で設定することができます。



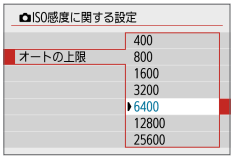
1 ［ISO 感度に関する設定］を選ぶ

- ［］タブの［ISO 感度に関する設定］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［オートの上限］を選ぶ

- ［オートの上限］を選び、〈SET〉を押します。



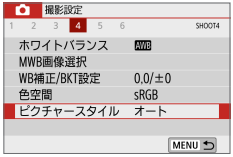
3 ISO 感度を選ぶ

- ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

ピクチャースタイルを選択する

応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。



1 [ピクチャースタイル] を選ぶ

- [📷] タブの [**ピクチャースタイル**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面が表示されます。



2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイルが設定されます。

各スタイルの画像特性について

オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

- [**オート**] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

126 ページの [**色あい**] を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ディテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

- JPEG 画質で撮影した画像を、カラー写真に戻すことはできません。**[モノクロ]** に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。

- **[モノクロ]** 設定時に、ファインダー内に〈**!**〉を表示することができます（📖457）。

ユーザー設定 1 ～ 3

[ポートレート] や **[風景]**、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（📖128）。登録されていないときは、**[オート]** の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の記号は、**[シャープネス]** の **[強さ] [細かさ] [しきい値]** や、**[コントラスト]** などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。





記号の意味

	シャープネス	
		強さ
		細かさ
		しきい値
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果（モノクロ）	
	調色（モノクロ）	

- 動画撮影時、**[シャープネス]** の **[細かさ] [しきい値]** は、ともに「＊」と表示されます。また、**[細かさ] [しきい値]** は動画には反映されません。

ピクチャースタイルを調整する

応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（**[シャープネス]**の**[強さ]**・**[細かさ]**・**[しきい値]**、**[コントラスト]**など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。**[モノクロ]**の調整については、127 ページを参照してください。



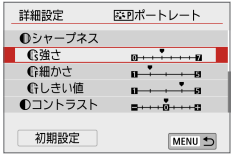
1 [ピクチャースタイル]を選ぶ

- **[📷]**タブの**[ピクチャースタイル]**を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面が表示されます。

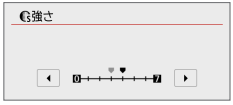
2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- **[シャープネス]**の**[強さ]**などの項目を選び、〈SET〉を押します。
- 設定内容と効果については、126 ページを参照してください。



4 内容を設定する

- 〈◀〉〈▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。



設定内容と効果について

	シャープネス			
		強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
		細かさ *1	1：細かい	5：粗い
		しきい値 *2	1：小さい	5：大きい
	コントラスト		-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ		-4：薄い	+4：濃い
	色あい		-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

*1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

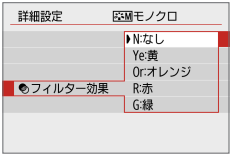
*2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

- 動画撮影時は**【シャープネス】**の**【細かさ】【しきい値】**の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順３で**【初期設定】**を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

「設定内容と効果について」(📖126) で説明した【シャープネス】の【強さ】【細かさ】【しきい値】と【コントラスト】の他に、【フィルター効果】【調色】を設定することができます。

フィルター効果

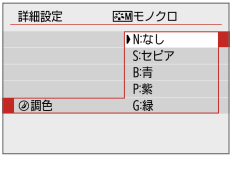


フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N　：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye　：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or　：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R　：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G　：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

- 【コントラスト】をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

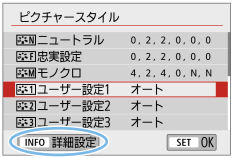


調色を設定して撮影すると、色の付いたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。【N：なし】【S：セピア】【B：青】【P：紫】【G：緑】から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する

応用

[ポートレート] や **[風景]** などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、**[ユーザー設定 1]** から **[ユーザー設定 3]** に登録することができます。設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。
また、EOS 用ソフトウェアの EOS Utility からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。



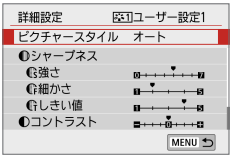
1 [ピクチャースタイル] を選ぶ

- [📷] タブの **[ピクチャースタイル]** を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面が表示されます。

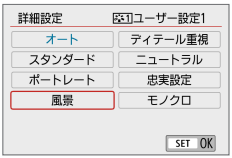
2 [ユーザー設定] を選ぶ

- **[ユーザー設定*]** を選び〈INFO〉ボタンを押します。



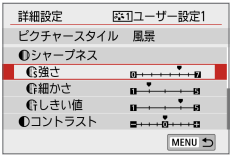
3 〈SET〉を押す

- **[ピクチャースタイル]** が選ばれた状態で〈SET〉を押します。



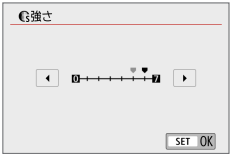
4 基本にするスタイルを選ぶ

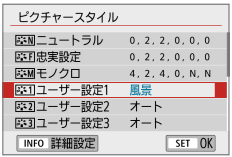
- 基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- EOS 用ソフトウェアの EOS Utility から登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



5 項目を選ぶ

- **[シャープネス]** の **[強さ]** などの項目を選び、〈SET〉を押します。





6 内容を設定する

- 〈◀〉〈▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、「ピクチャースタイルを調整する」（📖125）を参照してください。
- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ **[ユーザー設定＊]** の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

- **[ユーザー設定＊]** にスタイルがすでに登録されているときは、手順４で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- **[🔧：設定解除]** の **[カメラ設定初期化]**（📖273）を行うと、**[ユーザー設定＊]** に設定したスタイルと内容が初期化されます。なお、EOS 用ソフトウェアの EOS Utility から登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、122 ページの手順２で、**[ユーザー設定＊]** を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility 使用説明書を参照してください。

明かりにあわせて撮影する

応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート【AWB】（雰囲気優先）、【AWB W】（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンでは、【AWB】（雰囲気優先）に自動設定されます（〈🍴〉モード時は、【AWB W】（ホワイト優先））。



1 【ホワイトバランス】を選ぶ

- 【📷】タブの【ホワイトバランス】を選び、〈SET〉を押します。
- ➡【ホワイトバランス】が表示されます。



2 ホワイトバランスを選ぶ

- 項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☀〉〈🏠〉〈☁〉〈✳〉〈▦〉を選んだときに表示される「約 ****K」（K：ケルビン）は、設定される色温度です。

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

オートホワイトバランスの設定

[AWB]（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。[AWB W]（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。なお、従来機種のEOSデジタルカメラのオートホワイトバランスに合わせたいときは、[AWB]（雰囲気優先）を選びます。

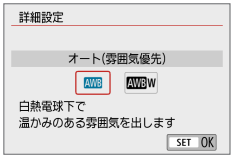
1 [ホワイトバランス]を選ぶ

- [📷]タブの[ホワイトバランス]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡[ホワイトバランス]が表示されます。



2 [AWB]を選ぶ

- [AWB]を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- [オート（雰囲気優先）]または[オート（ホワイト優先）]を選び、〈SET〉を押します。

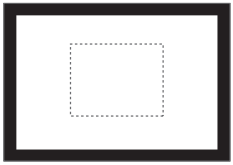
AWB　：オート（雰囲気優先）
AWB W：オート（ホワイト優先）

[AWB W]（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は[AWB]（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

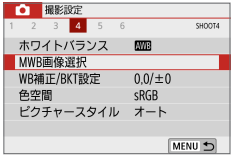
マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



1 白い被写体を撮影する

- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



2 [MWB 画像選択] を選ぶ

- [📷]タブの[MWB 画像選択]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ MWB 画像選択画面が表示されます。



3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順 1 で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。



4 [(マニュアル)] を選ぶ

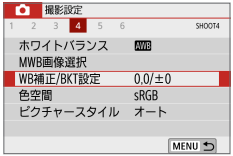
- [📷] タブの [ホワイトバランス] を選び、〈SET〉を押します。
- [(マニュアル)] を選び〈SET〉を押します。

- 手順 1 で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを [モノクロ] に設定して撮影した画像 (📖122)、クリエイティブフィルターで撮影した画像、撮影後にクリエイティブフィルター処理した画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、手順 3 で選択できません。

明かりに対する色あいを補正する　応用

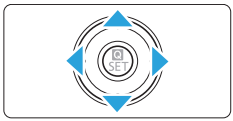
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色９段です。
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

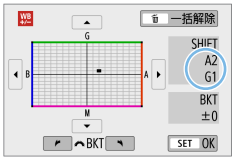


1 [WB 補正 /BKT 設定] を選ぶ

- [📷] タブの [WB 補正 /BKT 設定] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面が表示されます。



設定例：A2, G1



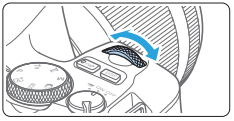
2 ホワイトバランスを補正する

- 〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「SHIFT」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと [WB 補正 /BKT 設定] の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

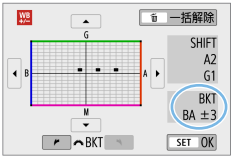
- WB 補正時に、ファインダー内と液晶モニターに〈!〉を表示することができます（📖457）。
- ブルー／アンバー方向の 1 段は、色温度変換フィルターの約 5 ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1 回の撮影で色あいの異なる 3 枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能をホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1 段ステップ± 3 段です。



B/A 方向 ±3 段のとき



補正幅を設定する

- 「ホワイトバランス補正」（📖134）の手順 2 で〈🎛〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3 点）に変わります。
  右に回すと B/A 方向、左に回すと M/G 方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと **[WB 補正 /BKT 設定]** の設定が一括解除されます。
- 〈**SET**〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

記録される順序について

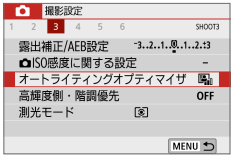
(1) 基準ホワイトバランス (2) ブルー（B）寄り (3) アンバー（A）寄り、または (1) 基準ホワイトバランス (2) マゼンタ (M) 寄り (3) グリーン (G) 寄りの順に画像が記録されます。

- WB ブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約 1/3 になります。
- 1 回の撮影で 3 枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- WB 補正や AEB 撮影と組み合わせることができます。AEB 撮影と組み合わせたときは、合計 9 枚の画像が記録されます。
- ライブビュー撮影時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、**[標準]** に設定されています。
JPEG 画像は、撮影時に補正されます。
かんたん撮影ゾーンでは、**[標準]** に自動設定されます。



1 [オートライティングオプティマイザ] を選ぶ

- **[📷]** タブの **[オートライティングオプティマイザ]** を選び、〈SET〉を押します。



2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

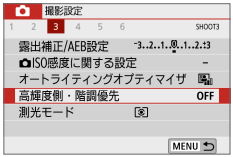
- **[📷:高輝度側・階調優先]** を **[する]** **[強]** に設定したときは、**[オートライティングオプティマイザ]** の設定が自動的に **[しない]** に切り換わります。
- **[しない]** 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、**[しない]** に設定してください。
- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
- **[強め]** 設定時には、連続撮影可能枚数が少なくなったり、カードに記録する時間が長くなることがあります。

- 手順 2 で〈INFO〉ボタンを押して[**マニュアル露出時は OFF**]の[✓]を外すと、〈**M**〉モードでも、オートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります。

高輝度側・階調優先の設定

応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [高輝度側・階調優先] を選ぶ

- [📷] タブの **[高輝度側・階調優先]** を選び、〈SET〉を押します。



2 内容を設定する

- **[する]** を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- **[強]** 設定時は、撮影シーンによって **[する]** 設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

3 撮影する

➡ 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

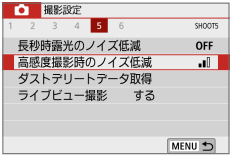
- ノイズが若干増えることがあります。
- 動画撮影時は、**[強]** は選択できません。
- **[強]** に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

ノイズ低減機能を設定する

応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。



1 [高感度撮影時のノイズ低減]を選ぶ

- [📷]タブの[高感度撮影時のノイズ低減]を選び、〈SET〉を押します。



2 レベルを設定する

- 低減レベルを選び〈SET〉を押します。

- [NR：マルチショットノイズ低減機能]

  [強め]よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

  なお、記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときは、[マルチショットノイズ低減機能]は設定できません。

3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

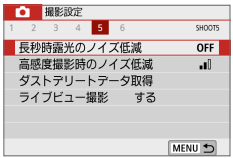
- マルチショットノイズ低減機能設定時に、ファインダー内に〈!〉を表示することができます（📖457）。

［マルチショットノイズ低減機能］設定時について

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4 枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内に「**buSy**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- AEB 撮影、WB ブラケティング撮影はできません。
- **［📷：長秒時露光のノイズ低減］**、AEB 撮影、WB ブラケティング撮影が設定されているときは、**［マルチショットノイズ低減機能］**は設定できません。
- ストロボ撮影はできませんが、暗い場所では AF 補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします。
  なお、AF 補助光は、**［📷：AF 補助光の投光］**の設定に応じて投光されます。
- バルブ撮影時は、**［マルチショットノイズ低減機能］**は設定できません。
- 電源を切ったり、撮影モードをかんたん撮影ゾーンにしたり、バルブ撮影や動画撮影にすると、設定が自動的に**［標準］**になります。
- **［📷：ダストデリートデータ取得］**は設定できません。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間 1 秒以上で撮影した画像に対して、ノイズを低減することができます。



1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

- ［📷］タブの**［長秒時露光のノイズ低減］**を選び、〈**SET**〉を押します。



2 低減内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

- **[自動]**
  露光時間 1 秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。
- **[する]**
  露光時間 1 秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。**[自動]** で検出できないノイズがあったときに **[する]** で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

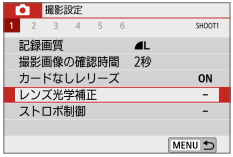
3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- **[自動] [する]** 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ISO1600 以上の感度で撮影すると、**[しない] [自動]** 設定時よりも **[する]** 設定時の方が画像のザラつきが多くなることがあります。
- **[自動] [する]** 設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

レンズの光学特性による影響を補正する 応用

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。**[レンズ光学補正]** の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。



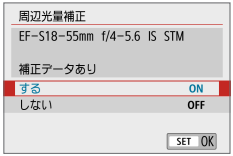
1 [レンズ光学補正] を選ぶ

- [📷] タブの **[レンズ光学補正]** を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。



3 [する] を選ぶ

- 装着しているレンズの名称と、**[補正データあり]** が表示されていることを確認します（ただし、**[回折補正]** 設定時は、**[補正データあり]** は表示されません）。
- **[補正データなし]** や [] マークが表示されたときは、「デジタルレンズオプティマイザ」（📖144）を参照してください。

4 撮影する

- レンズ光学補正が行われた画像が記録されます。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO 感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

- EOS 用ソフトウェアの Digital Photo Professional で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的に周辺光量補正が行われます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

- ゆがみの補正が行われるため、撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- 拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（🕮277）は付加されません。
- ファインダー撮影のときは、再生時に表示される AF フレーム表示は歪量によりわずかにずれる可能性があります。

- 補正用データがカメラに登録されている場合は、〈**SCN**〉モードの〈**🏙**〉では自動的に歪曲収差補正が行われます。

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。
なお、**[デジタルレンズオプティマイザ]** で **[補正データなし]** や **[🚫]** が表示されたときは、EOS Utility を使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility 使用説明書を参照してください。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[しない]** に設定して撮影してください。
- ISO 感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[デジタルレンズオプティマイザ]** は表示されません（補正できません）。

- **[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[する]** に設定したときは、**[色収差補正]** **[回折補正]** は表示されませんが、ともに **[する]** の設定で撮影されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的にデジタルレンズオプティマイザによる補正が行われます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

- **[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[する]** に設定したときは、**[色収差補正]** は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO 感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**【回折補正】**は表示されません（補正できません）。

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- **【デジタルレンズオプティマイザ】**を**【する】**に設定したときは、**【回折補正】**は表示されません。

各補正共通注意事項

- 撮影した JPEG 画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**【補正データあり】**と表示されていても、**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正**【しない】**と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility 使用説明書をあわせて参照してください。

色の再現範囲を設定する

応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを、色空間といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間を sRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGB をおすすめします。
かんたん撮影ゾーンでは、**[sRGB]** に自動設定されます。

1 [色空間] を選ぶ

- **[📷]** タブの **[色空間]** を選び、〈**SET**〉を押します。



2 色空間を設定する

- **[sRGB]** または **[Adobe RGB]** を選び、〈**SET**〉を押します。

Adobe RGB について

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理と Adobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21 以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGB のパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21 以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間を Adobe RGB に設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICC プロファイルは付加されません。ICC プロファイルについては、Digital Photo Professional 使用説明書を参照してください。

撮影目的にあわせた応用撮影



応用撮影ゾーンでは、シャッタースピードや絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内に露出値が約 4 秒間表示されます。
- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

電子ダイヤルガイドについて

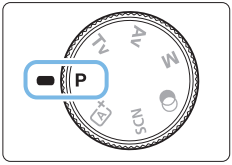


シャッタースピード、絞り数値などを設定するときに表示される〈 〉は、〈 〉を回して設定することを示しています。

プログラム AE 撮影（P モード）

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。これをプログラム AE といいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。
＊ AE は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレーム内の点が一瞬赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショット AF 時）。
- ➡ シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内に表示されます。



3 表示を確認する

- シャッタースピードと絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- 手順 1 で、撮影モードの説明が表示されたときは、〈SET〉を押すと説明が消えます（📖55）。

撮影のポイント

- **ISO 感度を変える。内蔵ストロボを使う**
  被写体や周囲の明るさに応じて ISO 感度（📖119）を変えたり、内蔵ストロボ（📖170）を使います。
- **プログラムを変えることができる（プログラムシフト）**
  シャッターボタンを半押ししたあと、〈☆〉を回すと、シャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変えて撮影することができます。プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。なお、ストロボ使用時はシフトできません。



- シャッタースピードの「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO 感度を上げるか、ストロボを使用してください。



- シャッタースピードの「**4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO 感度を下げてください。

〈P〉と〈A+〉（シーンインテリジェントオート）の違いについて

- 〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AF 動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AF 動作や測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

被写体の動きを表現する（Tv モード）

動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、モードダイヤルの〈**Tv**〉（シャッター優先 AE）を使って撮影します。

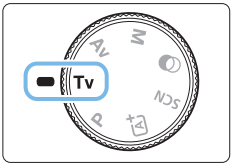
＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



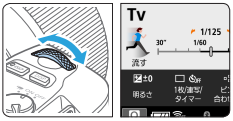
流動感のある写真
（遅いシャッタースピード：1/30 秒）



動きを止めた写真
（速いシャッタースピード：1/2000 秒）



1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッタースピードを設定する

- 「撮影のポイント」（📖151）を参考にしてシャッタースピードを決めます。
- シャッタースピードは、〈〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッタースピードで撮影されます。

シャッタースピードの表示

- 液晶モニターでは、シャッタースピードを分数で表示していますが、ファインダー内では、その分母のみ表示しています。なお、「**0"5**」は 0.5 秒を、「**15"**」は 15 秒を表しています。

撮影のポイント

- **動きの速い被写体が、止まっているような写真にするには**
  動きの速さにもよりますが、シャッタースピードの数値を 1/4000 ～ 1/500 秒に設定します。
- **子どもや動物が走る様子を、躍動感ある写真にするには**
  シャッタースピードの数値を 1/250 ～ 1/30 秒に設定し、被写体をファインダーで追い続けながらシャッターボタンを押します。望遠レンズを使うときは、手ブレしないようにカメラをしっかり構えてください。
- **川の流れや噴水を、流動感ある写真にするには**
  シャッタースピードを、1/30 秒以下の遅い速度に設定します。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影してください。
- **絞り数値が点滅しないシャッタースピードを設定する**
  シャッターボタンを半押しして、絞り数値が表示されている状態でシャッタースピードを変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、絞り数値も一緒に変わります。このとき、絞り数値の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるために絞り数値が点滅します。



  写真が暗くなるときは、小さな絞り数値が点滅します。〈 〉を左に回してシャッタースピードを遅くするか、ISO 感度を上げます。
  写真が明るくなるときは、大きな絞り数値が点滅します。〈 〉を右に回してシャッタースピードを速くするか、ISO 感度を下げます。

内蔵ストロボを使う

自動設定された絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるように、ストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。

ピントの合う範囲を変える（Av モード）

背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う範囲を調整した写真は、モードダイヤルの〈**Av**〉（絞り優先 AE）を使って撮影します。

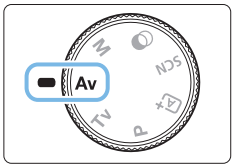
＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。



背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 数値が大きいほどピントの合う範囲が前後に広く（深く）なります。
- 数値は、〈 〉を右に回すと大きくなり（絞る）、左に回すと小さくなります（開ける）。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

絞り数値の表示

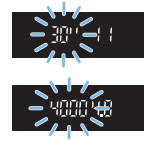
- 数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

撮影のポイント

- **絞り数値を大きくしたときや、暗い場所では手ブレに注意する**
  絞り数値を大きくするほどシャッタースピードが遅くなります。また、暗い場所ではシャッタースピードが最長 30 秒になります。ISO 感度を上げてカメラをしっかり構えて撮影するか、三脚に固定して撮影してください。

- **ピントの合う範囲は、絞り数値だけでなく、使用するレンズと撮影する距離によっても変わる**
  広角レンズはピントが前後方向に合う範囲が広いので、絞り数値をあまり大きくしなくても手前から遠くまでピントの合った写真が撮影できます。逆に望遠レンズでは、ピントの合う範囲が狭くなります。
  また、ピントの合う範囲は、撮影する距離が近くなるほど狭くなり、撮影する距離が遠くなるほど広くなります。

- **シャッタースピードが点滅しない絞り数値を設定する**
  シャッターボタンを半押しして、シャッタースピードが表示されている状態で絞り数値を変えると、露出(撮像素子に入る光の量)を一定にするために、シャッタースピードも一緒に変わります。このとき、シャッタースピードの調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるためにシャッタースピードが点滅します。



  写真が暗くなるときは、「**30"**」(30 秒) が点滅します。〈 〉を左に回して絞り数値を小さくするか、ISO 感度を上げます。
  写真が明るくなるときは、「**4000**」(1/4000 秒)が点滅します。〈 〉を右に回して絞り数値を大きくするか、ISO 感度を下げます。

内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。シャッタースピードは、その場の明るさに応じて自動設定されます（🕮176）。
暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります（自動スローシンクロ撮影）。手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐには三脚の使用をおすすめします。

ピントの合う範囲を確認する

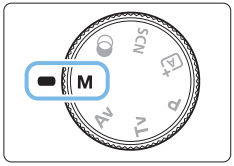
レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影していないときは、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。
〈SET〉ボタンや〈DISP〉ボタンに以下の設定をすると、各ボタンを押して被写界深度を確認することができます。ライブビュー映像を見ながら、〈SET〉ボタンや〈DISP〉ボタンを押したまま絞り数値を変えると、ピントの合う範囲がよく分かります。

- [: カスタム機能 (C.Fn)] の [SET ボタンの機能] を [7: 絞り込み] に設定。
- [: カスタム機能 (C.Fn)] の [DISP ボタンの機能] を [1: 絞り込み] に設定。

露出を自分で決めて撮る（M モード）

シャッタースピードと絞り数値を自由に組み合わせて撮影することができます。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にして、自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

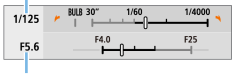
＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO 感度を設定する（📖119）

〈🎛〉



〈Av±〉+〈🎛〉

3 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピードは、〈🎛〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av±〉ボタンを押しながら〈🎛〉を回して設定します。

(1)



(2)

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ ファインダー内に露出値が表示されます。

- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標
(2) 露出レベルマーク

5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±２段を超えるときは、ファインダー内の露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります（液晶モニターの露出レベル表示は、±３段を超えると、〈◀〉または〈▶〉の表示になります）。

- 設定した露出値は、動画撮影には引き継がれません。

ISO オート設定時の露出補正について

マニュアル露出撮影時に ISO 感度を **[AUTO]** に設定したときは、以下の方法で露出補正（📖161）を行うことができます。

- **[📷：露出補正／ AEB 設定]**
- **[🔧：カスタム機能 (C.Fn)]** の **[SET ボタンの機能]** の **[5：露出補正（押しながら 🎛）]**（📖459）
- クイック設定（📖58）

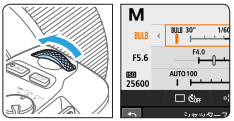
- ISO オート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるように ISO 感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISO オート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

- **[📷：オートライティングオプティマイザ]** で **[マニュアル露出時は OFF]** の **[✓]** を外すと、〈**M**〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります（📖136）。
- ISO オート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO 感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで露出補正（📖161）を行っていたときは、〈**M**〉モード＋ ISO オートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。

内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。なお、設定できるシャッタースピードの範囲は、1/200 秒～ 30 秒、バルブに制限されます。

BULB：長時間露光（バルブ）撮影





バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間だけ露光を行う機能で、打ち上げ花火などの撮影に使用します。

156 ページの手順 3 で〈☁〉を左に回して行くと、〈**BULB**〉（バルブ撮影）ができます。撮影中は液晶モニターに露光経過時間 (1) が表示されます。

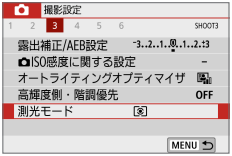
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- ISO オート設定時は ISO400 になります。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影を併用してバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- **[📷：長秒時露光のノイズ低減]** を **[自動]** または **[する]** に設定すると、長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（📖140）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ（別売／📖471）の使用をおすすめします。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／📖471）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。BR-E1 のレリーズボタン（送信ボタン）を押すと、（2 秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。
- 露光経過時間の表示は、〈**INFO**〉ボタンを押すと消すことができます。

明るさの測り方を変える

応用

被写体の明るさの測り方（測光モード）を、４種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます（〈**SCN**：〉〈：〉モード時は、中央部重点平均測光）。



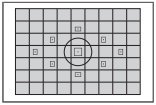
1 [測光モード] を選ぶ

- [📷] タブの [**測光モード**] を選び、〈SET〉を押します。



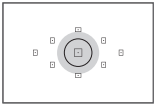
2 測光モードを設定する

- 項目を選び〈SET〉を押します。



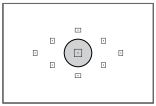
評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



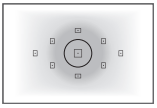
部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光が行われます。



スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光が行われます。上級者向けの測光モードです。



[□] 中央部重点平均測光

画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。経験豊富な上級者向けの測光モードです。

- [◉]（評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます。[⊙]（部分測光）／[•]（スポット測光）／[□]（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。

自分の好みに明るさを調整する

応用

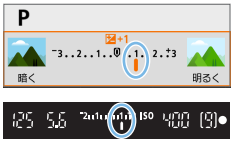
ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈**M**〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。補正できる範囲は、1/3 段ステップ± 5 段 * です。
なお、〈**M**〉モード+ ISO オート設定時の露出補正については、157 ページを参照してください。

＊ ライブビュー撮影時／動画撮影時、または［**：撮影画面表示**］を［**やさしい**］に設定しているときは± 3 段までです。

1 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内または液晶モニターで露出レベル表示を確認します。

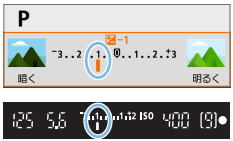
明るく（プラス）補正



2 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは、〈Av〉ボタンを押しながら〈 〉を右に回します（プラス補正）。
- 撮影結果が明るいときは、〈Av〉ボタンを押しながら〈 〉を左に回します（マイナス補正）。

暗く（マイナス）補正



3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈 〉の位置に戻します。

- ［**：オートライティングオプティマイザ**］（📖136）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- 設定した露出補正値は、動画撮影には引き継がれません。

- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、露出補正の設定が解除されます。
- ファインダー内の露出補正表示は± 2 段です。± 2 段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。
- ± 2 段を超える補正を行うときは、**[📷：露出補正／ AEB 設定]**（📖163）で設定することをおすすめします。

明るさを自動的に変えて撮る

応用

露出補正の応用機能で、1/3 段ステップ± 2 段の範囲で、自動的に明るさの異なる 3 枚の写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。

この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。



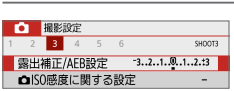
標準露出



暗くなるよう補正
（マイナス補正）



明るくなるよう補正
（プラス補正）





(1)



1 [露出補正／AEB 設定] を選ぶ

- [📷] タブの [露出補正／AEB 設定] を選び、〈SET〉を押します。

2 AEB レベルを設定する

- 〈⚙〉を回すと AEB レベル (1) が設定できます。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと露出補正量が設定できます。AEB と併用するときは、露出補正値を中心に AEB 撮影が行われます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

➡ シャッターボタンを半押しすると、ファインダーに AEB レベルが表示されます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB 撮影の解除

- 手順 1、2 の操作で AEB レベルの表示を消します（ゼロに設定します）。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了などで、AEB 設定が自動解除されます。

撮影のポイント

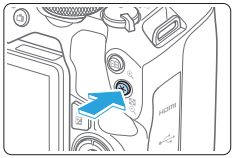
- **連続撮影と組み合わせる**
  ドライブモードを〈□〉〈□S〉（📖113）に設定してシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に 3 枚連続撮影して自動停止します。
- **ドライブモードが 1 枚撮影（□/□S）のときは**
  シャッターボタンを 3 回押して撮影してください。標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- **セルフタイマーやリモコン（別売）と併用できる**
  セルフタイマー（〈Ⓢ10〉〈Ⓢ2〉）、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1〈Ⓢ〉またはリモートスイッチ RS-60E3 を使うと、1 回の撮影操作で、10 秒後または 2 秒後に 3 枚連続撮影されます。なお、〈Ⓢc〉（📖205）に設定したときは、設定した枚数の 3 倍の枚数が連続撮影されます。

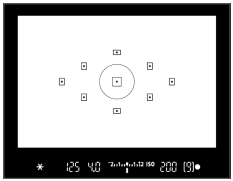
- AEB 撮影中は、ファインダー内の〈✳〉と AEB レベルが点滅します。
- ストロボ使用時、**[マルチショットノイズ低減機能]** 設定時、クリエイティブフィルター撮影時、バルブ撮影時は、AEB 撮影できません。
- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**（📖136）が **[しない]** 以外に設定されていると、AEB 撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

明るさを固定して撮る

応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。





1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す

➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。

- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（📖159）	AFフレーム選択（📖109）	
	自動選択	任意選択
⊡*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
⊙・□	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

- バルブ撮影時は、AEロックできません。

カメラ内部の振動によるブレを防止する 応用

超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

[:カスタム機能 (C.Fn)] の [ミラーアップ撮影] を [1:する] に設定すると、ミラーアップ撮影ができます（📖456）。

1 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

2 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 撮影が終わったら、**[ミラーアップ撮影]** を **[0：しない]** に設定します。

撮影のポイント

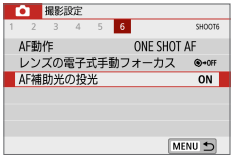
- **セルフタイマー〈$\mathrm{\ddot{O}_{10}}$〉〈$\mathrm{\ddot{O}_{2}}$〉を併用する**
  シャッターボタンを 1 回全押しするとミラーが上がり、10 秒後または 2 秒後にセルフタイマー撮影が行われます。
- **リモコン撮影する**
  カメラに手を触れずに撮影できますので、ミラーアップ撮影と併用することで、より効果的にカメラブレを防止できます（📖471）。
  ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）では、2 秒後レリーズに設定してレリーズボタンを押すとミラーが上がり、2 秒後に撮影されます。
  リモートスイッチ RS-60E3（別売）では、レリーズボタンを全押しするとミラーが上がり、もう一度全押しすると撮影されます。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- セルフタイマーとバルブ撮影を併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時+バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定、メニュー操作などはできません。

- ドライブモードを〈□〉〈□S〉〈⏲c〉に設定していても、1 枚撮影になります。
- **[📷：高感度撮影時のノイズ低減]** が **[マルチショットノイズ低減機能]** に設定されているときは、**[ミラーアップ撮影]** の設定に関係なく、1 回の撮影で 4 枚連続撮影できます。
- ミラーアップしてから約 30 秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／📖471）またはリモートスイッチ RS-60E3（別売／📖471）の使用をおすすめします。

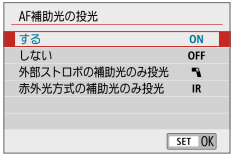
AF 補助光の設定

内蔵ストロボ、または EOS 用の外部ストロボから、AF 補助光の投光を行うかを設定することができます。



1 [AF 補助光の投光] を選ぶ

- [📷] タブの [AF 補助光の投光] を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

- **[ON] する**
  必要に応じて AF 補助光が投光されます。
  内蔵ストロボで AF 補助光を投光するときは、ストロボを上げます。
- **[OFF] しない**
  AF 補助光は投光されません。AF 補助光を投光したくないときに設定します。
- **[🔦] 外部ストロボの補助光のみ投光**
  外部ストロボ使用時のみ、必要に応じて AF 補助光が投光されます。
- **[IR] 赤外光方式の補助光のみ投光**
  赤外光方式の AF 補助光機能を搭載した外部ストロボ使用時は、赤外光による AF 補助光が投光されます。

- 〈[A+]〉〈SCN〉〈🎨〉モードのときは、あらかじめストロボを上げて、[AF 補助光の投光] を [する] に設定することをおすすめします。
- 外部ストロボのカスタム機能で [AF 補助光の投光] が [しない] に設定されているときは、外部ストロボからの AF 補助光は投光されません。

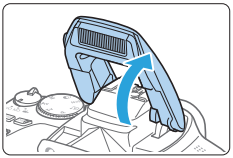
ストロボ撮影

この章では、内蔵ストロボ、または外部ストロボ（EL/EX シリーズスピードライト／別売）を使った撮影、メニュー画面からストロボの設定を行う方法について説明しています。

- ストロボ撮影時は AEB 撮影はできません。

内蔵ストロボを使って撮る

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈**P**〉では、手ブレしにくいシャッタースピード（1/60 ～ 1/200 秒）が自動設定されます。



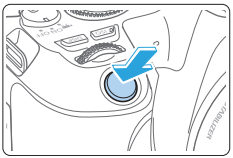
1 ストロボを指で持ち上げる

- 応用撮影ゾーンではストロボを上げると、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「buSy」、液晶モニターに［BUSY］が表示されます。



2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈ϟ〉が表示されていることを確認します。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

- ストロボを上げるときは、アクセサリーシューからアクセサリーを外してください。

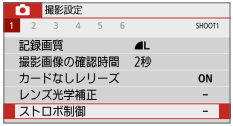
撮影のポイント

- **明るい日中では、ISO 感度を下げる**
  ファインダー内の数値が点滅するときは、ISO 感度の数値を小さくします。
- **レンズのフードを外す。被写体に近づきすぎない**
  レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、写真の下側が暗くなることがあります。大切な撮影のときは、画像を再生して写真の下側が不自然に暗くなっていないか確認してください。

ストロボ調光補正を使って撮影する

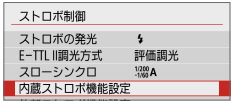
応用

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は 1/3 段ステップ± 2 段です。



1 [ストロボ制御] を選ぶ

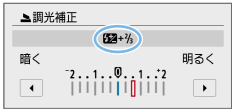
- [📷] タブの [ストロボ制御] を選び、〈SET〉を押します。



2 [内蔵ストロボ機能設定] を選ぶ



3 [調光補正] を選ぶ





4 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは、〈►〉を押します（プラス補正）。
  撮影結果が明るいときは、〈◄〉を押します（マイナス補正）。
- ➡ シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に〈⚡〉が表示されます。
- **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、調光補正を解除します。**

- [📷：**オートライティングオプティマイザ**]（📖136）が、**[しない]** 以外に設定されているときは、露出を暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- 外部ストロボ側（別売／📖174）で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません（クイック設定、外部ストロボ機能設定）。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

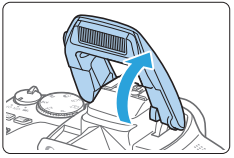
- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

ストロボの発光量を固定して撮る（FE ロック）

応用

画面の端に被写体を置いてストロボ撮影を行うと、背景などの影響により、被写体が明るく／暗く写ることがあります。そのようなときは、FE ロック機能を使います。被写体を適切な明るさにするための発光量を決めたあと、構図を変えて（画面の端に被写体を置いて）撮影することができます。EL/EX スピードライト使用時もこの機能を使うことができます。

＊ FE は、Flash Exposure：フラッシュエクスポージャーの略です。

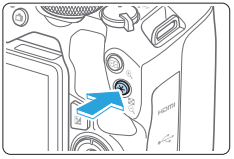




1 ストロボを指で持ち上げる

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる





3 〈✳〉ボタンを押す

- ファインダーの中央に被写体を置いて、〈✳〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。
- ➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ＊〉が点灯します。
- 〈✳〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。



4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

- 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順２～４の操作を行ってください。
- ライブビュー撮影時は、FE ロックできません。

外部ストロボを使って撮る

EOS 用 EL/EX シリーズスピードライト

EL/EX スピードライト（別売）を使用すると、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EL/EX スピードライトの使用説明書を参照してください。

- ストロボ機能設定に対応していない EX スピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

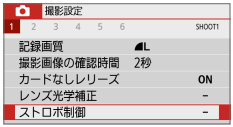
- EL/EX シリーズ以外のキヤノン製スピードライトは、発光しません。
- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常に機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。

ストロボの機能を設定する

内蔵ストロボ、またはストロボ機能設定に対応した EL/EX スピードライト（外部ストロボ）使用時は、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、外部ストロボのカスタム機能を設定することができます。

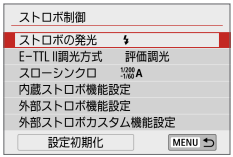
外部ストロボ使用時は、設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

なお、外部ストロボの機能については、各スピードライトの使用説明書を参照してください。



1 [ストロボ制御] を選ぶ

- [📷] タブの [**ストロボ制御**] を選び、〈**SET**〉を押します。



2 項目を選ぶ

- 設定する項目を選び、〈**SET**〉を押します。

ストロボの発光



[ϟA]（かんたん撮影ゾーンまたは **P** モード時）に設定すると、撮影状況に応じて自動発光します。

[ϟ] に設定すると、撮影時に常時発光します。

[⊘]（応用撮影ゾーン時）は、ストロボ発光の禁止や、ストロボでの AF 補助光を利用するときに選びます。

- **[ストロボの発光]** を **[⊘]** に設定しても、暗い場所など AF でピントが合いにくいときは、ストロボが連続的に光ることがあります（「AF 補助光の設定」（🕮168））。ストロボを発光させたくないときは、内蔵ストロボを手で押し下げてください。

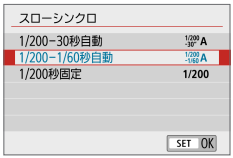
E-TTL II 調光方式



応用

通常は、標準的なストロボ露出が得られる【評価調光】に設定します。【平均調光】に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

スローシンクロ



応用

〈**Av**〉〈**P**〉モードでストロボ撮影を行うときの、ストロボ同調速度を設定することができます。

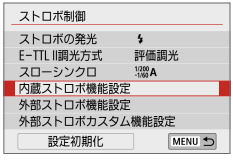
- 【1/200 –30″ A】**1/200-30 秒自動**
  明るさに応じてシャッタースピードが 1/200 ～ 30 秒の範囲で自動設定されます。暗い場所では（撮影状況に応じて）自動的にシャッタースピードが遅くなり、スローシンクロ撮影になります。
- 【1/200 –1/60 A】**1/200-1/60 秒自動**
  暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。
- 【1/200】**1/200 秒固定**
  シャッタースピードが 1/200 秒に固定されるため、【1/200-1/60 秒自動】よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では【1/200-1/60 秒自動】よりも被写体の背景が暗くなります。

- スローシンクロ撮影を行いたいときは、【1/200-30 秒自動】に設定してください。
- 【1/200 秒固定】設定時は、〈**Av**〉〈**P**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

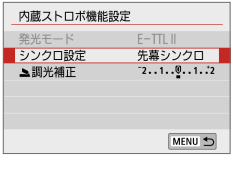
[内蔵ストロボ機能設定] と [外部ストロボ機能設定]

応用

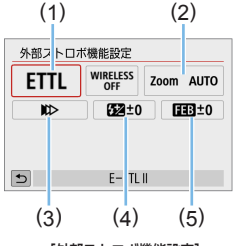
下記の表に示す機能を設定することができます。なお、**[外部ストロボ機能設定]** で表示される機能は、使用するストロボによって異なります。



- **[内蔵ストロボ機能設定]** または **[外部ストロボ機能設定]** を選びます。
- ➡ 機能設定画面が表示されます。**[内蔵ストロボ機能設定]** では、明るく表示されている機能が選択・設定できます。



[内蔵ストロボ機能設定]



(1) 発光モード
(2) ズーム (照射角)
(3) シンクロ設定
(4) 調光補正
(5) FEB

[外部ストロボ機能設定]

[内蔵ストロボ機能設定] と [外部ストロボ機能設定] で設定できる主な機能

機能	[内蔵ストロボ機能設定] 通常発光	[外部ストロボ機能設定]	参照頁
発光モード		○	178
シンクロ設定	○	○	178
FEB*		○	
調光補正	○	○	172
光量比制御		○	
センダー発光		○	
ズーム *		○	

* **[FEB]** (フラッシュエクスポージャーブラケティング)、**[ズーム]** については、それぞれの機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

- **発光モード**

  外部ストロボ使用時は、撮影目的に応じて発光モードを選ぶことができます。





  - **[E-TTL II]** は、ストロボの自動撮影ができる、EL/EX スピードライトの標準的なモードです。
  - **[マニュアル発光]** は、ストロボの **[発光量]**（1/128 ～ 1/1）を自分で決めて撮影する、上級者向けのモードです。
  - そのほかの発光モードについては、その発光モードに対応した外部ストロボの使用説明書を参照してください。

- **シンクロ設定**

  通常は、撮影開始直後にストロボが発光する **[先幕シンクロ]** に設定します。**[後幕シンクロ]** に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッタースピードと組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロと **[E-TTL II]** の組み合わせのときは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計 2 回、ストロボが発光します。また、シャッタースピードが 1/100 秒以上の速い速度のときは、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

  外部ストロボ使用時は、**[ハイスピード]**（ϟ_{H}）も選択できます。詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

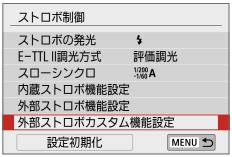
- **調光補正**

  「ストロボ調光補正を使って撮影する」（🕮172）を参照してください。

外部ストロボカスタム機能を設定する

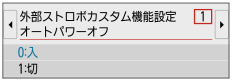
応用

[外部ストロボカスタム機能設定] で表示される内容は、使用するストロボによって異なります。



1 カスタム機能を表示する

- 外部ストロボ撮影ができる状態で **[外部ストロボカスタム機能設定]** を選び、〈SET〉を押します。

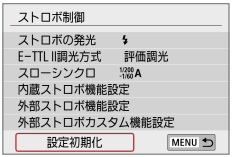


2 カスタム機能を設定する

- 〈◀〉〈▶〉を押して番号を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのカスタム機能の設定と同じです（📖453）。

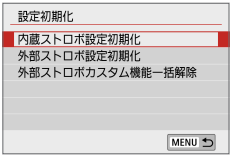
設定初期化／一括解除する

応用



1 [設定初期化] を選ぶ

- **[📷:ストロボ制御]** の **[設定初期化]** を選び、〈SET〉を押します。



2 初期化する内容を選ぶ

- **[内蔵ストロボ設定初期化]** **[外部ストロボ設定初期化]** **[外部ストロボカスタム機能一括解除]** のいずれかを選び、〈SET〉を押します。
- **[OK]** を選ぶとストロボの設定が初期化されます。

- **[ストロボ制御]** の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

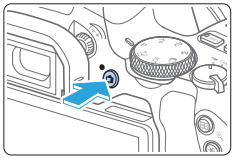
カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

- カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

- EOS 用ソフトウェアの EOS Utility（📖491）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、EOS Utility 使用説明書を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する



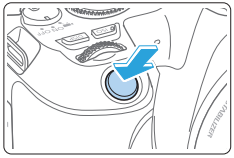
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。〈A+〉モード時は、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（📖185）。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されている AF 方式（📖196）でピント合わせが行われます。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます（📖207）。

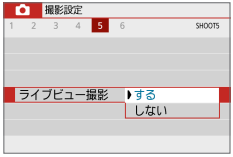


3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈📷〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

- 映像の視野率は、約 100%（記録画質 JPEG ◢L 時、アスペクト比 3:2 時）です。
- 応用撮影ゾーンでは、〈SET〉ボタンや〈DISP〉ボタンに以下の設定をすると、各ボタンを押して被写界深度を確認することができます。
  - **[🔧：カスタム機能 (C.Fn)]** の **[SET ボタンの機能]** を **[7: 絞り込み]** に設定。
  - **[🔧：カスタム機能 (C.Fn)]** の **[DISP ボタンの機能]** を **[1: 絞り込み]** に設定。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）やリモートスイッチ RS-60E3（別売）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます（📖471）。

ライブビュー撮影ができないときは



[📷:ライブビュー撮影] を [する] に設定します。

連続撮影中の表示について

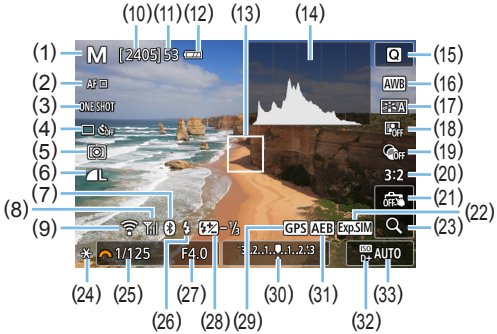
ライブビュー撮影時に、ワンショット AF で〈🖳〉連続撮影を行ったときは、シャッターボタンを全押ししている間、撮影した画像が連続して表示（再生）されます。連続撮影を終了すると（シャッターボタンを半押しに戻すと）、ライブビュー映像が表示されます。

- ストロボ撮影時や長秒時露光を行ったときなど、撮影条件によっては撮影した画像が連続して表示（再生）されないことがあります。
- 〈**SCN**：🖼〉モードで、ライブビュー撮影を行うことはできません。
- 〈**SCN**：🏙〉モードは歪曲収差補正が行われるため、ライブビュー撮影時は、画角がわずかに変化します。
- 〈**SCN**：🖼 🏃〉〈🎨：HDR HDR HDR HDR〉モード設定時は、撮影範囲が狭くなります。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、214 ページ～ 215 ページにまとめて記載しています。**

- ストロボ撮影時は、シャッターが 2 回切れたような音がしますが、撮影枚数は 1 枚です。また、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間が、ファインダー撮影時より長くなります。
- カメラを操作しない状態が続くと、**[🔧：オートパワーオフ]** の設定時間で電源が自動的に切れます（📖263）。**[しない]** に設定されているときは、30 分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- HDMI ケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（📖308）。ただし、音声は出力されません。なお、テレビに映像が表示されないときは、**[🔧：ビデオ方式]** の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

情報表示について

- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、情報表示内容が切り換わります。



(1) 撮影モード
(2) AF 方式
(3) AF 動作
(4) ドライブモード
(5) 測光モード
(6) 記録画質
(7) Bluetooth 機能
(8) Wi-Fi 電波強度
(9) Wi-Fi 機能
(10) 撮影可能枚数
(11) 連続撮影可能枚数
(12) 電池残量
(13) AF フレーム（1 点 AF）
(14) ヒストグラム
(15) クイック設定
(16) ホワイトバランス／ホワイトバランス補正
(17) ピクチャースタイル
(18) オートライティングオプティマイザ
(19) クリエイティブフィルター
(20) 静止画アスペクト比
(21) タッチシャッター
(22) 露出シミュレーション
(23) 拡大
(24) AE ロック
(25) シャッタースピード
(26) ストロボ充電完了／ストロボ発光禁止
(27) 絞り数値
(28) ストロボ調光補正
(29) GPS 接続表示
(30) 露出レベル表示／ AEB レベル
(31) AEB 撮影／ FEB 撮影／マルチショットノイズ低減機能
(32) 高輝度側・階調優先
(33) ISO 感度

- 〈INFO〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示できます。ただし、シャッターボタン全押し中は、ヒストグラムは表示されません。
- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 〈**SCN**：〉モード設定時、マルチショットノイズ低減機能設定時、ストロボ使用時、バルブ設定時は、露出シミュレーションは行われません。〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき、液晶モニターに表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- 〈：〉モード設定時も〈Exp.SIM〉が灰色で表示されます。ヒストグラムは表示されません。

⚠ 警告

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

シーン判別のアイコン一覧

撮影モードが〈A+〉のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影を行うことができます。判別したシーンは画面の左上に表示されます。

被写体 / 背景	人物	人物 動いているとき	人物以外の被写体 自然や屋外シーン	人物以外の被写体 動いているとき	人物以外の被写体 近いとき *1	背景色
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*2				*2	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時	 *3*4	*2	 *3*4	*2		

*1：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*2：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

*3：下記の条件が揃ったときに表示されます。

「撮影シーンが暗いとき」、「夜景撮影時」、「三脚などでカメラを固定しているとき」

*4：下記のレンズ使用時に表示されます。

- EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II
- EF-S55-250mm F4-5.6 IS II
- EF300mm F2.8L IS II USM
- EF400mm F2.8L IS II USM
- EF500mm F4L IS II USM
- EF600mm F4L IS II USM
- 2012 年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

*3+*4：*3 と *4 の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

撮影機能の設定

ライブビュー撮影の機能設定について説明します。

クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定画面が表示されて設定を変更できます。



1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます。
- ➡ 機能の内容と、機能ガイド（📖56）が画面に表示されます。
- 〈◄〉〈►〉を押して設定します。
- 〈SCN〉〈🎨〉モードのときは、画面左上の撮影モードの欄を選び〈SET〉を押して、撮影モードを選びます。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、【AWB】を選んだ状態で〈⊞ ／ 🔍〉ボタンを押します。
- ドライブモードの〈⏲c〉、WB 補正 /WB ブラケティングの設定、ピクチャースタイルやクリエイティブフィルターの詳細設定を行うときは、〈INFO〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈SET〉を押すと設定され、ライブビュー撮影に戻ります。
- 【⮌】を選んで、ライブビュー撮影に戻ることもできます。

- 応用撮影ゾーンでは、〈ISO〉ボタンを押すと ISO 感度を設定できます。
- ⊡（部分測光）、[•]（スポット測光）設定時は、画面の中央に測光範囲を示す円が表示されます。
- ライブビュー撮影時は、ドライブ / セルフタイマーの〈□S〉〈🖳S〉は設定できません。

フィルター効果を付けて撮影する

応用

ライブビュー映像を見ながら、フィルター効果（7 種類：ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風）を付けた画像を撮影することができます。
保存される画像は、フィルター効果ありの画像のみです。フィルター効果なしで撮影を行い、撮影後に画像に効果を付けて別画像として保存することもできます（🕮332）。

1 **モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする**

2 **〈Q〉ボタンを押す**

➡ クイック設定状態になります。



3 **[OFF]を選ぶ**

- 〈▲〉〈▼〉を押して画面の右側に表示された[OFF]（クリエイティブフィルター）を選びます。



4 **フィルター効果を選ぶ**

- 〈◄〉〈►〉を押してフィルター効果（🕮189）を選びます。

➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。



5 **フィルター効果を調整する**

- 〈INFO〉ボタンを押します（🏔を除く）。
- 〈◄〉〈►〉を押して効果を調整し、〈SET〉を押します。

6 撮影する

➡ フィルター効果が付いた画像が撮影されます。

- クリエイティブフィルターを設定したときは、ドライブモードを〈□〉に設定していても 1 枚撮影になります。
- クリエイティブフィルター撮影時、RAW、AEB、ホワイトバランスブラケティング、マルチショットノイズ低減機能は設定できません。

- クリエイティブフィルター撮影時は、ヒストグラムは表示されません。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。
- **魚眼風**
  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。なお、AF フレームは、中央 1 点固定になります。
- **油彩風**
  油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- **水彩風**
  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- **トイカメラ風**
  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

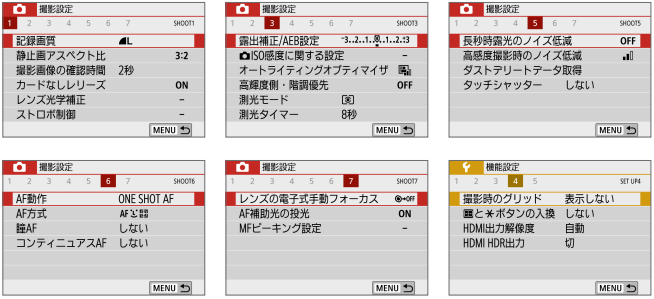
- **ジオラマ風**

  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は「ジオラマ風の操作」（99）を参照してください。AF 方式は 1 点 AF になります。AF フレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。

- ラフモノクロのときは、液晶モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- ソフトフォーカス、ジオラマ風のときは、液晶モニターに表示される映像と撮影した画像のぼかし具合が異なることがあります。なお、〈**SET**〉ボタンや〈**DISP**〉ボタンに以下の設定をすると、各ボタンを押して撮影する画像のぼかし具合を確認することができます。
  - **[: カスタム機能 (C.Fn)]** の **[SET ボタンの機能]** を **[7: 絞り込み]** に設定。
  - **[: カスタム機能 (C.Fn)]** の **[DISP ボタンの機能]** を **[1: 絞り込み]** に設定。

メニュー機能の設定

ライブビュー撮影のときは、[📷] および [🔧] タブにライブビュー撮影特有の項目が表示されます。



- **静止画アスペクト比** 応用

  画像のアスペクト（縦横）比を変えることができます。初期状態では、**[3:2]** に設定されています。**[4:3]** **[16:9]** **[1:1]** のときは、撮影範囲外が黒くマスクされた状態でライブビュー映像が表示されます。

  JPEG 画像は、設定したアスペクト比で保存されます。RAW 画像は、常に **[3:2]** のアスペクト比で保存されます。RAW 画像には、設定したアスペクト比情報が付加され、EOS 用ソフトウェアの Digital Photo Professional で現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。なお、**[4:3]** **[16:9]** **[1:1]** では、再生時にアスペクト比を示した線が表示されますが、この線は撮影画像には記録されません。

記録画質	アスペクト比と記録画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
◢L/◢L	6000 × 4000（2400 万）	5328 × 4000*（2130 万）	6000 × 3368*（2020 万）	4000 × 4000（1600 万）
◢M/◢M	3984 × 2656（1060 万）	3552 × 2664（950 万）	3984 × 2240*（890 万）	2656 × 2656（710 万）
◢S1/◢S1	2976 × 1984（590 万）	2656 × 1992（530 万）	2976 × 1680*（500 万）	1984 × 1984（390 万）
S2	2400 × 1600（380 万）	2112 × 1600*（340 万）	2400 × 1344*（320 万）	1600 × 1600（260 万）
RAW/CRAW	6000 × 4000（2400 万）	6000 × 4000（2400 万）	6000 × 4000（2400 万）	6000 × 4000（2400 万）

- **[4：3]** **[16：9]** **[1：1]** は、ライブビュー撮影時に設定可能です。
- 記録画素数は、1 万、または 1 千の位を四捨五入した値です。
- JPEG は、設定したアスペクト比の画像を生成します。
- RAW は、**[3：2]** の画像を生成して、設定したアスペクト比情報を画像に付加します。
- 「*」印の付いた記録画質は、正確なアスペクト比になりません。

- **測光タイマー** 応用
  露出値の表示時間（AE ロック時の保持時間）を変えることができます。なお、かんたん撮影ゾーンのときは 8 秒固定です。
- **タッチシャッター**（📖207）
  画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影までを自動で行うことができます。
- **AF 方式**（📖196）
  [+追尾優先 AF]、**[スポット 1 点 AF]**、**[1 点 AF]**、**[ゾーン AF]** が選択できます。なお、〈A+〉モードでは、**[+追尾優先 AF]** 固定です。
- **瞳 AF**（📖203）
  AF 方式が **[+追尾優先 AF]** のとき、目にピントが合うように撮影することができます。
- **コンティニュアス AF**（📖204）
  シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

- **MF ピーキング設定** 応用 (212)
  ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをしやすくすることができます。
- **撮影時のグリッド**
  [9 分割] または **[24 分割]** でグリッド (格子線) を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、**[9 分割+対角]** では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

- **[: ダストデリートデータ取得]**、および **[: センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング] [手作業でクリーニング]** を選ぶと、ライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度〈 〉ボタンを押してください。

ピント合わせの動作を変える

応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適な AF 動作が自動設定されます。



1 〈Q〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります。

2 [ONE SHOT]を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して画面の左側に表示された**[ONE SHOT]**（AF 動作）を選びます。

3 AF 動作を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して AF 動作を選び、〈SET〉を押します。
  ONE SHOT：ワンショット AF
  SERVO：サーボ AF

4 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定した AF 動作でピント合わせが行われます。

- ライブビュー撮影時のみ設定できます（動画撮影時は設定できません）。
- ピントが合わないと AF フレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、「ピントが合いにくい撮影条件」（🕮201）を参照してください。

止まっている被写体を撮る：ワンショット AF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると 1 回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影できます。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。

- **[：電子音]** を **[切]** に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：サーボ AF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- ドライブモードが〈連続撮影〉に設定されているときは、被写体追従優先で撮影されます。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。
- 被写体にピントが合うと、AF フレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- **[AF 方式]** が **[+追尾優先 AF]** のときは、エリア AF フレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。

- サーボ AF のときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。

AF でピントを合わせる

AF 方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF 方式を選ぶことができます。AF 方式には、**[顔）+追尾優先 AF]**（📖197）、**[スポット 1 点 AF] [1 点 AF] [ゾーン AF]**（📖198）があります。
なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（📖211）。



AF 方式を選ぶ

- **[📷]** タブの **[AF 方式]** で選びます。
- AF 方式を選び、〈**SET**〉を押します。
- ライブビュー映像表示中に〈**Q**〉ボタンを押すと、クイック設定（📖186）で AF 方式を選ぶこともできます。

- 197 ページ～ 198 ページでは、**[AF 動作]** が **[ワンショット AF]**（📖195）に設定されていることを前提に説明しています。**[サーボ AF]**（📖195）に設定しているときは、被写体にピントが合うと AF フレームが青色に変わります。
- 〈**SCN**：🏃〉モードのときは、自動的にサーボ AF に設定され、ピントが合うと AF フレームが青色に変わり、電子音も鳴ります。
- 4K 動画設定時は **[+追尾優先 AF] [1 点 AF]** のみ設定できます。
- タッチシャッター（タッチ操作による AF と撮影）については、207 ページを参照してください。

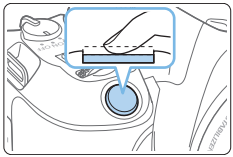
顔＋追尾優先 AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くと AF フレーム〈[ ]〉も動いて顔を追尾します。



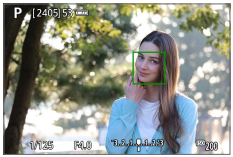
1 AF フレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈[ ]〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈[ ]〉が表示されます。〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい顔に〈[ ]〉を合わせます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ 顔が検知できないときや、画面にタッチしなかったときは、エリア AF フレームの中でピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。



3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（🕮181）。

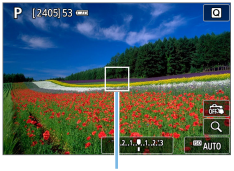
- **人の顔以外にピントを合わせるとき**
  被写体に AF フレーム〈[ ]〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AF フレーム〈[ ]〉も動いて被写体を追尾します。

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（211）、AF を行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- AF フレームは被写体により大きさが変化します。

スポット 1 点 AF ／ 1 点 AF ／ゾーン AF

AF フレーム、またはゾーン AF フレームを任意設定することができます。ここでは、1 点 AF 時の画面を例に説明します。



(1)

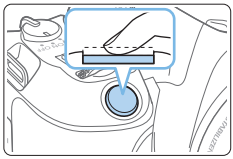
1 AF フレームを確認する

- AF フレーム（1）が表示されます。
- ゾーン AF のときは、ゾーン AF フレームが表示されます。



2 AF フレームを移動する

- 画面にタッチしたり、〈✥〉十字キーで AF フレームを移動することもできます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、AF フレームまたはゾーン AF フレームが画面中央に戻ります。
- 〈🔍〉ボタンを押すと、拡大表示することができます。〈🔍〉ボタンを押すたびに、拡大倍率が切り換わります。





3 ピントを合わせる

- AF フレームに被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しして撮影します（📖181）。

- 外側寄りの AF フレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央の AF フレームを選択してください。

AF に関するおことわり

AF の動作について

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AF 中と AF を行った後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下で AF を行ってください。

- AF でピントが合わないときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行ってください（🕮211）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AF フレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- AF 補助光は投光されません。ただし、LED ライト付き EX スピードライト使用時は、必要に応じて AF 補助用のライトが点灯します。
- 使用するレンズによっては、AF でピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯や LED 照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AF フレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AF フレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピンボケした状態から AF を行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF 中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF 範囲

使用するレンズやアスペクト比、4K 動画、動画電子 IS などの設定によって、AF 可能な範囲は変わります。

拡大表示について



[ʝ+追尾優先 AF] 以外のときに〈🔍〉ボタンを押すか、画面右下に表示された【🔍】にタッチすると、映像を約 5 倍、約 10 倍に拡大してピントを確認することができます。

[ʝ+追尾優先 AF] のときは拡大表示できません。

- AF フレームを移動するときは、〈✥〉十字キーを押すか、拡大したい部分にタッチします。
- 〈🔍〉ボタンを押すか【🔍】にタッチすると、拡大表示枠の位置が拡大表示されます。〈🔍〉ボタンを押す、または【🔍】にタッチするごとに拡大倍率が切り換わります。
- **[スポット 1 点 AF]**【**1 点 AF**】設定時は AF フレームの位置、**[ゾーン AF]** 設定時はゾーン AF フレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、**[スポット 1 点 AF]**【**1 点 AF**】設定時は拡大表示のまま AF が行われます。**[スポット 1 点 AF]**【**1 点 AF**】以外を設定しているときは、通常表示に戻って、AF が行われます。
- サーボ AF 時は、拡大表示した状態で、シャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻して AF を行ってください。
- 通常表示の状態で AF を行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AF の速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、動画サーボ AF（📖254）は行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

人物の目にピントを合わせる

AF 方式が［+追尾優先 AF］のとき、目にピントが合うように撮影することができます。



1 ［瞳 AF］を選ぶ

- ［📷］タブの［瞳 AF］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［する］を選ぶ



3 被写体にカメラを向ける

➡ 目の周囲に AF フレームが表示されます。

- 画面にタッチして、ピントを合わせたい目を選ぶことができます。
  鼻や口などをタッチしたときは顔が選ばれます。ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- 〈[ ]〉または〈[ ]〉が表示されるときは、〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい目または顔を選ぶことができます。

4 撮影する

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

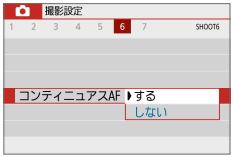
コンティニュアス AF の設定

常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。



1 [コンティニュアス AF] を選ぶ

- [📷] タブの [コンティニュアス AF] を選び、〈SET〉を押します。



2 [する] を選ぶ

- **[する]** 設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

セルフタイマー撮影



1 [ドライブモード] を選ぶ

- [📷] タブの [ドライブモード] を選び、〈SET〉を押します。



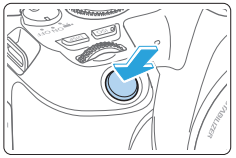
2 セルフタイマーを選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押してセルフタイマーを選び、〈SET〉を押します。

⏲10 / 📡⏲：10秒後に撮影／リモコン撮影
シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影します。
ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用したリモコン撮影も可能です（📖471）。

⏲2：2秒後に撮影
シャッターボタンを押すと、2秒後に撮影します。

⏲C：10秒後、設定した枚数を連続撮影
シャッターボタンを押すと、10秒後に設定した枚数を連続撮影します。
〈▲〉〈▼〉を押して、撮影する枚数（2～10）を設定します。



3 撮影する

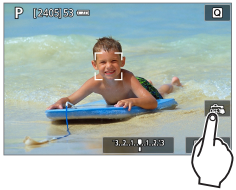
- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 電子音と液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影の 2 秒前に、電子音が速く鳴ります。

- 〈c〉では、記録画質やストロボ撮影などの撮影条件によって、連続撮影の間隔が長くなることがあります。
- ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。そのため、ライブビュー撮影をおすすめします。

- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（102）。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（75）。
- セルフタイマー撮影を開始してから途中で中止するときは、液晶モニターをタッチするか、〈SET〉を押します。

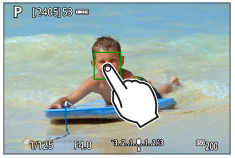
タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。



1 タッチシャッター機能を設定する

- [ ] にタッチします。
  タッチするたびに、[ ] と [ ] が交互に切り換わります。
- [ ]（タッチシャッター：する）
  タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- [ ]（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置にピントを合わせることができます（タッチ AF）。シャッターボタンを全押しして撮影します。



2 画面にタッチして撮影する

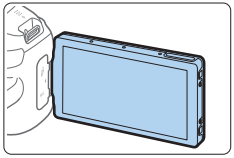
- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- ➡ 設定されている AF 方式（📖196）でタッチした位置でピント合わせが行われます（タッチ AF）。
- ➡ ピントが合うと、AF フレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

- ドライブモードを〈□〉に設定していても、1 枚撮影になります。
- **[AF 動作]** が **[サーボ AF]** に設定されていても、画面にタッチしたときは **[ワンショット AF]** でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- クリエイティブフィルターの魚眼風設定時は、タッチした位置に関わらず、画面中央の AF フレームでピント合わせが行われます。
- クリエイティブフィルターのジオラマ風設定時は、タッチシャッターは機能しません。

- タッチシャッターの機能は、**[📷:タッチシャッター]** で設定することもできます。
- バルブ撮影時は、2 回タッチします。1 回目のタッチで露光を開始し、2 回目のタッチで露光を終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

自分を撮影する（自分撮り）

自分撮り機能では、人物撮影に適した画像処理が行われます。また、背景のぼかしや、明るさ、美肌効果を設定して撮影することができます。



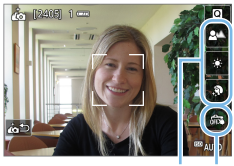
1 液晶モニターを対面状態にする

- 液晶モニターを図のように対面状態にします（🕮40）。



2 画面の［🤳］にタッチする

- 画面の［🤳］にタッチして、自分撮りモードにします。



(1) (2)

3 自分撮り機能を設定する

- 各機能（1）をタッチして選び、効果を設定します。

4 撮影する

タッチシャッターを使用する場合

- **［📷］**（2）をタッチして**［👆］**（タッチシャッター：する）に設定します（🕮207）。
- ピントを合わせたい位置をタッチして撮影します。

シャッターボタンを使用する場合

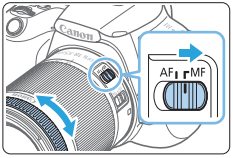
- シャッターボタンを半押してピントを合わせ、全押して撮影します。

- ピントが合ってから撮影が終了するまで、カメラと自分との距離が変わらないようにしてください。
- カメラを落とさないように注意してください。
- ストロボ撮影はできません。暗い場所などでは手ブレに注意してください。

- 自分撮りは、電源スイッチの〈OFF〉または次の操作で終了します。
  - 画面の【】にタッチする
  - 液晶モニターの向きを元に戻す
  - 〈〉ボタンを押す

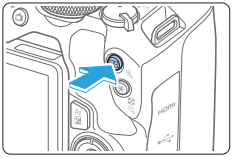
MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



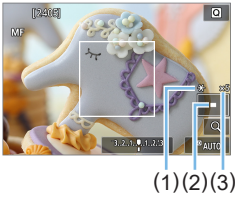
2 拡大表示枠を表示する

- 〈🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示枠が表示されます。
- 画面の【🔍】をタッチして拡大表示することもできます。



3 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい場所に、〈✥〉十字キーで拡大表示枠を移動します。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、画面中央に戻ります。



(1)(2)(3)

4 映像を拡大する

- 〈🔍〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換ります。

通常表示 → 5 倍 → 10 倍

（1）AE ロック
（2）拡大表示位置
（3）拡大率

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈🔍〉ボタンを押して通常表示にします。

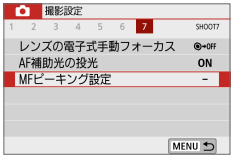
6 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（📖181）。

- 拡大表示中は露出が固定されます（シャッタースピードと絞り数値が赤く表示されます）。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

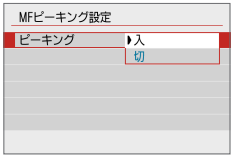
MF ピーキング設定（輪郭強調）

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをしやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます（〈A+〉モードを除く）。



1 [MF ピーキング設定] を選ぶ

- [📷] タブの [MF ピーキング設定] を選び、〈SET〉を押します。



2 [ピーキング] を選ぶ

- [ピーキング] を選び、〈SET〉を押します。
- [入] を選び、〈SET〉を押します。



3 レベル、色を設定する

- 必要に応じて設定します。

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- 高 ISO 感度設定時（特に拡張 ISO 感度設定時など）は、MF ピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じて ISO 感度を下げるか、**[ピーキング]** を **[切]** に設定してください。

- 液晶モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

画質について

- 高 ISO 感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈🔥〉と赤い〈🔥〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🔥〉または赤い〈🔥〉が表示されます。
- 白い〈🔥〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🔥〉は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、ライブビュー撮影を一時休止する、または一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🔥〉または〈🔥〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🔥〉が表示される手前でも、カメラ内部の温度が上昇している状態で高 ISO 感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値が赤く表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
- TS-E レンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO 感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で【：画面の明るさ】を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。
- シャッタースピードが 1 秒以上のときは、液晶モニターに「BUSY」が表示され、露光が終了するまでライブビュー表示は行われません。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります。

レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 2011 年下期 以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 内蔵ストロボ使用時に FE ロックはできません。また、外部ストロボ使用時に FE ロック、モデリング発光はできません。

動画を撮影する



電源スイッチを〈🎥〉にすると、動画撮影ができるようになります。

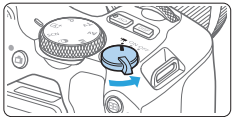
- 動画が記録できるカードについては、7 ページを参照してください。
- カメラを手に持って動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。
- 手持ち撮影時のカメラの持ち方については、76 ページを参照してください。

動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします（🕮308）。

自動露出で撮影する

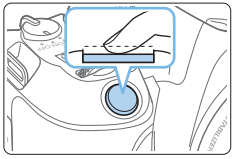
撮影モードが〈**M**〉以外のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。



1 電源スイッチを〈🎥〉にする

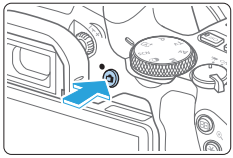
➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

2 モードダイヤルを〈SCN〉〈◎〉〈M〉以外にする



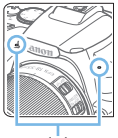
3 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせます（🕮196 ～ 🕮202、🕮211）。
- 初期設定では、**[動画サーボ AF：する]** に設定されていますので、常時ピント合わせが行われます。動画サーボ AF を停止したいときは、🕮254 を参照してください。



4 動画を撮影する

- 〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。



(1)



➡ 動画撮影中は画面右上に「●REC」が表示されます。

➡ 音声は内蔵マイク（1）で記録されます。

- **動画撮影全般に関する注意事項は、📖259 ～ 📖260 にまとめて記載しています。**
- **必要に応じて 📖214 ～ 📖215 の「ライブビュー撮影全般に関する注意事項」もお読みください。**

- 撮影モードが〈**Av**〉〈**Tv**〉のときは、〈**P**〉と同じ設定で撮影されます。
- かんたん撮影ゾーンと応用撮影ゾーンでは、設定できるメニューが異なります。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO 感度は自動設定されます。
- 応用撮影ゾーンのときは、〈✳〉ボタン（📖165）を押すと、露出を固定（AE ロック）することができます。**[📷：測光タイマー]** の設定時間に応じて露出値が表示されます。動画撮影中に AE ロックを行ったときは、〈⊡〉ボタンを押すと、AE ロックを解除することができます（〈⊡〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 応用撮影ゾーンのときは、〈Av⊠〉ボタンを押しながら〈☁〉を回すと、露出補正を行うことができます。
- 自動露出で撮影した動画の画像情報（Exif 情報）には、シャッタースピード、絞り数値、ISO 感度は記録されません。
- このカメラは、自動露出（タイムラプス動画撮影時除く）で動画を撮影する際、暗い場所で LED ライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LED ライトを内蔵した EX スピードライトの使用説明書を参照してください。

かんたん撮影ゾーン時の ISO 感度について

- ISO100 ～ 12800 の範囲で自動設定されます。ただし、4K 動画に設定したときは、ISO 感度が ISO100 ～ 6400 になります。

〈P/Tv/Av〉モード時の ISO 感度について

- ISO100 ～ 12800 の範囲で自動設定されます。なお、上限値は **[📷：ISO 感度に関する設定]** にある **[オートの上限]** の設定によって変わります（📖256）。ただし、4K 動画に設定したときは、ISO 感度が ISO100 ～ 6400 になります。
- **[：カスタム機能 (C.Fn)]** の **[ISO 感度拡張]** が **[1：する]** に設定されているときは、**[オートの上限]** で **[H (25600)]** も選択できるようになります。ただし、4K 動画に設定したときは、ISO 感度が ISO100 ～ 6400 になります。
- **[📷：高輝度側・階調優先]** が **[する]** に設定されているときは、ISO 感度が ISO200 ～ 12800 になります。ただし、4K 動画に設定したときは、ISO 感度が ISO100 ～ 6400 になります。

- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前に ISO 感度の設定を再確認してください。

シーン判別のアイコン一覧

〈A+〉で動画を撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが表示され、そのシーンに応じた撮影が行われます。なお、シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

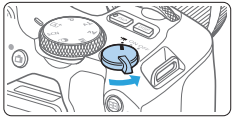
被写体 / 背景	人物	人物以外の被写体		背景色
		自然や屋外シーン	近いとき *1	
明るい				灰色
逆光				
青空を含む				水色
逆光				
夕景	*2		*2	オレンジ色
スポットライト				紺色
暗い				

*1 ：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*2 ：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

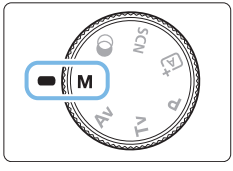
マニュアル露出で撮影する

撮影モードが〈**M**〉のときは、任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO 感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

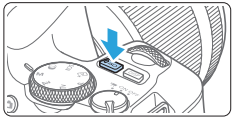


1 電源スイッチを〈🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

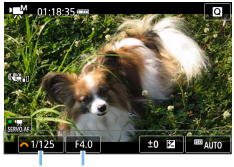


2 モードダイヤルを〈M〉にする



3 ISO 感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押し、〈◄〉〈►〉または〈⚙〉で ISO 感度を選びます。
- ISO 感度については、222 ページを参照してください。



(1) (2)

4 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピード（1）は、〈⚙〉を回して設定します。
- 絞り数値（2）は、〈Av±〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して設定します。

5 ピントを合わせて撮影する

- 「動画を撮影する」（📖217）の手順 3、4 と同じです。

マニュアル露出撮影時の ISO 感度について

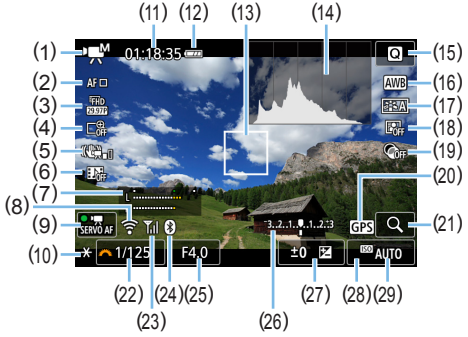
- [AUTO] のときは、ISO100 ～ 12800 の範囲で自動設定されます。なお、上限値は [📷：ISO 感度に関する設定] にある [オートの上限] の設定によって変わります（📖256）。ただし、4K 動画に設定したときは、ISO 感度が ISO100 ～ 6400 になります。
- 手動設定のときは、ISO100 ～ 12800 の範囲で、1 段ステップで設定することができます。[：カスタム機能（C.Fn）] の [ISO 感度拡張] を [1：する] に設定すると、手動設定範囲の上限が拡張され H（ISO25600 相当）も選択できるようになります。ただし、4K 動画に設定したときは、ISO 感度が ISO100 ～ 6400 になります。
- [📷：高輝度側・階調優先] を [する] に設定したときは、ISO 感度が ISO200 ～ 12800 になります。ただし、4K 動画に設定したときは、ISO 感度が ISO100 ～ 6400 になります。

- 動画撮影時の ISO25600 相当は、ノイズが多いことがあるため拡張 ISO 感度になります（「H」表示）。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影中に、シャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯や LED 照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- [：カスタム機能（C.Fn）] の [SET ボタンの機能] の [5：露出補正（押しながら）] に設定すると（📖459）、ISO オート設定時に露出補正を行うことができます。
- ISO オート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO 感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（📖223）で確認することができます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

情報表示について

- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、情報表示内容が切り換わります。



(1) 動画撮影モード／シーン判別アイコン
- : 自動露出（かんたん撮影ゾーン）
- : 自動露出（応用撮影ゾーン）
- : マニュアル露出
- : HDR 動画
- : クリエイティブフィルター
- : タイムラプス動画

(2) AF 方式
- AF : + 追尾優先 AF
- AF : スポット 1 点 AF
- AF : 1 点 AF
- AF[ ] : ゾーン AF

(3) 動画記録サイズ

(4) デジタルズーム

(5) 動画電子 IS

(6) ビデオスナップ

(7) 録音レベル（マニュアル）

(8) Wi-Fi 機能

(9) 動画サーボ AF

(10) AE ロック

(11) 動画撮影可能時間 * ／撮影経過時間

* 1 回の撮影可能時間です。

(12) 電池残量

(13) AF フレーム

(14) ヒストグラム（マニュアル露出時）

(15) クイック設定

(16) ホワイトバランス

(17) ピクチャースタイル

(18) オートライティングオプティマイザ

(19) クリエイティブフィルター

(20) GPS 接続表示

(21) 拡大／デジタルズーム

(22) シャッタースピード

(23) Wi-Fi 電波強度

(24) Bluetooth 機能

(25) 絞り数値

(26) 露出レベル表示（マニュアル露出時）

(27) 露出補正

(28) 高輝度側・階調優先

(29) ISO 感度

- 動画撮影中にグリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

静止画撮影について

動画撮影時に静止画は撮影できません。

静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 動画撮影中にシャッターボタンを半押しして AF を行うと、以下の現象が起きることがあります。
  - 一時的にピントが大きくぼける
  - 動画の明るさが変化して記録される
  - 動画が一瞬停止して記録される
  - レンズの作動音が記録される
- 〈AWB〉〈AWB W〉の設定で動画撮影中に、ISO 感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯や LED 照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。
- 動画撮影中に〈🔍〉ボタンを押しても、拡大表示はできません。
- 内蔵マイク（📖217）を指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中に HDMI ケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- **動画撮影全般の注意事項は、259 ページ～ 260 ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて 214 ページ～ 215 ページの「ライブビュー撮影全般に関する注意事項」もお読みください。**

⚠ 警告

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

動画撮影時共通事項

- 1 回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、4K ／フル HD ／ HD 撮影時ともに約 100%です。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイクでステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子（🕮28）に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先されます。
- ミニプラグ（φ 3.5mm）を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- 2011 年下期以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

撮影機能の設定

動画撮影の機能設定について説明します。

クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、AF 方式／動画記録サイズ／デジタルズーム／動画電子 IS ／ビデオスナップ／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／クリエイティブフィルターの設定を行うことができます。
ただし、かんたん撮影ゾーンのときは、撮影モードにより、設定できない項目があります。



1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます。
- ➡ 機能の内容と、機能ガイド（📖56）が画面に表示されます。
- 〈◀〉〈▶〉を押して設定します。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、[AWB]を選んだ状態で〈⊞ ／ 🔍〉ボタンを押します。
- WB 補正、ピクチャースタイル、クリエイティブフィルターの詳細設定を行うときは、〈INFO〉ボタンを押します。
- 〈SET〉を押すと動画撮影に戻ります。
- [⮌] を選んで、動画撮影に戻ることもできます。

動画記録サイズの設定



[📷:動画記録サイズ] で、動画記録サイズ（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）などを設定することができます。
MP4 形式で記録されます。

- **画像サイズ**

  4K 3840 × 2160

  4K 画質で記録されます。画面の横縦比は 16：9 です。

  FHD 1920 × 1080

  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は 16：9 です。

  HD 1280 × 720

  ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は 16：9 です。

- 4K 動画、FHD 59.94P / 50.00P で撮影した動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。

- 動画記録サイズの画面に表示されるフレームレートは、**[🔧:ビデオ方式]** の【NTSC】【PAL】の設定に応じて変わります。
- **[🔧:ビデオ方式]** の設定を変更したときは、再度動画記録サイズの設定を行ってください。
- VGA 画質の動画を撮影することはできません。

- **4K 動画撮影について**
  - 4K 動画を撮影するには高性能なカードが必要です。
  - 4K 動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。
  - 4K 画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約 830 万画素（3840 × 2160）の JPEG 画像（静止画）としてカードに保存することができます（🕮304）。

- 4K 動画撮影時のフォーカス方式は、コントラスト検出方式になります。フル HD や HD 動画撮影時に比べ、ピントが合うまでに時間がかかったり、ピントが合いにくいことがあります。

- **フレームレート**（fps：frame per second）

  29.97P **29.97fps** ／ 59.94P **59.94fps**

  テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

  25.00P **25.00fps** ／ 50.00P **50.00fps**

  テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

  23.98P **23.98fps**

  主に映画関連で使用します。

- **圧縮方式**

  IPB **IPB**（標準）

  複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。

  IPB **IPB**（軽量）

  さまざまな機器で再生できるように、ビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さくなります。そのため、IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

- **動画記録形式**

  MP4 **MP4**

  このカメラで撮影した動画は、すべて MP4 形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。

ファイルサイズが 4GB を超える動画撮影について

1 回の撮影でファイルサイズが 4GB を超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

- **このカメラで初期化した「SD/SDHC カード」使用時**
  SD/SDHC カードをこのカメラで初期化すると、FAT32 形式でフォーマットされます。
  FAT32 形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが 4GB を超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。
  なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。
- **このカメラで初期化した「SDXC カード」使用時**
  SDXC カードをこのカメラで初期化すると、exFAT 形式でフォーマットされます。
  exFAT 形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1 回の撮影でファイルサイズが 4GB を超える場合でも、（ファイルが分割されず）1 つの動画ファイルに記録されます（4GB を超える動画ファイルが作成されます）。

撮影時間の制限について

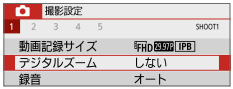
1 回に撮影できる時間は、最長 29 分 59 秒です。29 分 59 秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈📷〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- 4GB を超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utility を使用するか（📖491）、カードリーダーを使用してください（📖495）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GB を超える動画ファイルは取り込まれません。

動画デジタルズームを使う

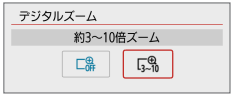
記録サイズが、FHD 29.97P IPB（NTSC）、または FHD 25.00P IPB（PAL）のときに、デジタルズームで約 3 ～ 10 倍の望遠撮影ができます。

1 モードダイヤルを〈SCN〉〈🌀〉以外にする



2 [デジタルズーム] を選ぶ

- [📷] タブの [デジタルズーム] を選び、〈SET〉を押します。



3 [約 3 ～ 10 倍ズーム] を選ぶ

- [約 3 ～ 10 倍ズーム] を選び〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了し、動画撮影状態に戻ります。



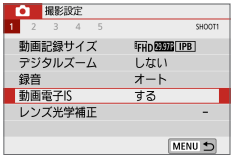
4 デジタルズームを使う

- 〈▲〉〈▼〉を押します。
- ➡ デジタルズームバーが表示されます。
- 〈▲〉を押すと望遠側、〈▼〉を押すと広角側にズームします。
- シャッターボタンを半押しすると、[1 点 AF]（中央固定）でピント合わせが行われます。
- デジタルズームを解除するときは、手順 2 で [しない] を選びます。

- 手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。
- タイムラプス動画、クリエイティブフィルター、動画電子 IS は設定できません。
- 上限感度は ISO6400 になります。
- 拡大表示はできません。
- 動画デジタルズームでは映像をデジタル処理するため、拡大するほど映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- シーン判別のアイコンは表示されません。
- 「ピントが合いにくい撮影条件」（🕮201）も参照してください。

動画電子 IS

動画撮影時の手ブレを、カメラの「動画電子 IS」機能で軽減することができます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズを使用したときでも、動画電子 IS 機能により、手ブレ補正効果が得られます。手ブレ補正機能が搭載されているレンズを使用するときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。



1 [動画電子 IS] を選ぶ

- [📷] タブの **[動画電子 IS]** を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

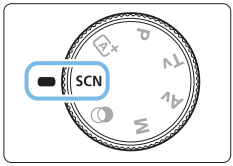
- 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

- **しない（OFF）**
  動画電子 IS による手ブレ補正は行われません。
- **する（）**
  手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。
- **強（）**
  [する] 設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈**OFF**〉のときは、動画電子 IS は機能しません。
- レンズの焦点距離が 800mm を超えるときは、動画電子 IS は機能しません。
- 〈**SCN**〉〈◕〉モード時、動画デジタルズーム、タイムラプス動画、クリエイティブフィルター設定時は、動画電子 IS は設定できません。
- 画角が広くなるほど、手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭くなるほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- TS-E レンズや魚眼レンズ使用時、または他社製レンズ使用時は**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 拡大表示時、動画電子 IS の効果は映像に反映されません。
- 動画電子 IS は映像を拡大しているため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子 IS の効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 動画電子 IS を設定すると、AF フレームの大きさも変わります。
- 三脚使用時は**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 一部のレンズは、この機能に対応していません。詳しくはキヤノンのホームページを参照してください。

HDR 動画を撮影する

明暗差が大きいシーンで、明るいところが白くなりすぎて、見えにくくなる（白とびする）のを緩和して動画を撮影することができます。
記録サイズは、FHD 29.97P IPB（NTSC）、または FHD 25.00P IPB（PAL）で記録されます。



1 モードダイヤルを〈SCN〉にする

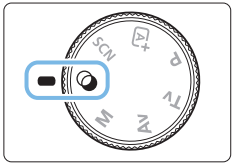


2 HDR 動画を撮影する

- HDR 動画は、複数のフレームを合成して画像を作成するため、映像の一部がゆがむ場合があります。手持ち撮影では、手ブレにより、この現象が目立つことがありますので、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生時には通常の再生時に比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見える場合があります。
- 動画デジタルズーム、タイムラプス動画、動画電子 IS は設定できません。

フィルター効果を付けて動画を撮影する

〈🎨〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果（5 種類: ファンタジー／オールドムービー／メモリー／ダイナミックモノクローム／ジオラマ風動画）を付けて動画を撮影することができます。
記録サイズは、FHD 29.97P（NTSC）、または FHD 25.00P（PAL）に設定できます。



1 モードダイヤルを〈🎨〉にする

2〈Q〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります。



3 [🎬] を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して画面左上の [🎬]（撮影モード）を選び、〈SET〉を押します。



4 フィルター効果を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押してフィルター効果（📖236）を選び〈SET〉を押します。
- ➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。
- ジオラマ風動画のときは、ピントを合わせたい位置に、AF フレームを移動します。AF フレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させて AF フレームの位置に合わせます。



5 フィルター効果の強さを調整する

- 〈Q〉ボタンを押して、**[撮影モード]**の下のアイコン**[フィルター効果の強さ]**を選びます。
- 〈◄〉〈►〉を押して効果を調整し、〈SET〉を押します。
- ジオラマ風動画設定時は、再生時の速度（倍速）を選びます。

6 撮影する

- 拡大表示はできません。
- ヒストグラムは表示されません。
- 動画デジタルズーム、ビデオスナップ、タイムラプス動画、動画電子 IS は設定できません。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。

- 応用撮影ゾーンのときは、クイック設定でクリエイティブフィルターを設定することができます（📖226）。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ファンタジー**
  夢の中にいるような、幻想的でやわらかな雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺にモヤがかかったような動画になります。効果を調整することで、画面周辺のモヤがかかる範囲を変えることができます。
- **オールドムービー**
  映像の揺れや傷、明滅効果で古い映画のような雰囲気になります。画面の上下が黒くマスクされます。効果を調整することで、映像の揺れや傷の具合を変えることができます。

- **メモリー**
  遠い昔の記憶のような雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺の光量を落とした動画になります。効果を調整することで、画面全体の彩度や画面周辺の暗部の範囲を変えることができます。
- **ダイナミックモノクローム**
  黒と白の階調を際立たせ、力強い臨場感のある雰囲気になります。効果を調整することで、粒子のざらついた感じや白黒の感じを変えることができます。
- **ジオラマ風動画**
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の動画が撮影できます。再生時の速さを、選んでから撮影します。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は「ジオラマ風の操作」（99）を参照してください。AF 方式は 1 点 AF になります。AF フレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。撮影中、AF フレーム、ジオラマ枠は表示されません。
  手順 5 で再生速度を、**[5 倍速]**［**10 倍速**］［**20 倍速**］のいずれかに設定してから撮影します。

倍速と再生時間の目安（動画を 1 分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5 倍速	約 12 秒
10 倍速	約 6 秒
20 倍速	約 3 秒

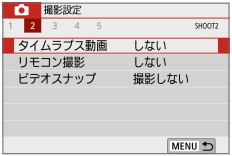
〈 〉（ジオラマ風動画）について
- 音声は録音されません。
- 動画サーボ AF は機能しません。
- 再生時間が 1 秒未満のジオラマ風動画は編集できません（302）。

タイムラプス動画を撮影する

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K 動画またはフル HD 動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長などの定点観測に効果的です。

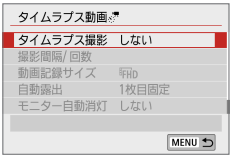
タイムラプス動画は、4K 撮影時：4k 29.97P ALL-I（NTSC）／4k 25.00P ALL-I（PAL）、フル HD 撮影時：FHD 29.97P ALL-I（NTSC）／FHD 25.00P ALL-I（PAL）の設定で、ともに MP4 形式で記録されます。

1 モードダイヤルを〈SCN〉〈◎〉以外にする

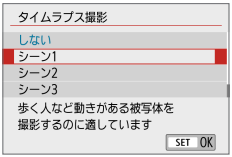


2 [タイムラプス動画] を選ぶ

- [📷] タブの [**タイムラプス動画**] を選び、〈SET〉を押します。



3 [タイムラプス撮影] を選ぶ

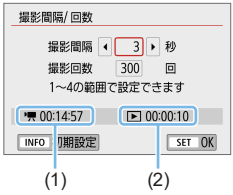


4 シーンを選ぶ

- 撮影シーンに応じて、シーンを選びます。
- 撮影間隔と回数を自由に設定して撮影したいときは [**カスタム**] を選びます。

5 [撮影間隔 / 回数] を選ぶ

- [**撮影間隔 / 回数**] を選び、〈SET〉を押します。

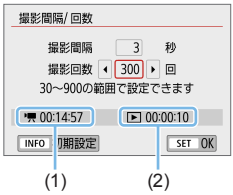


6 撮影間隔を設定する

- **[撮影間隔]**（秒）を選びます。〈◀〉〈▶〉で数値を設定し〈**SET**〉を押します。
- **[🚗:撮影所要時間]**（1）、**[▶:再生時間]**（2）を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

- **[撮影間隔]**（分：秒）を選びます。
- 〈**SET**〉を押して〈☆〉の状態にします。
- 数値を設定し〈**SET**〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- **[OK]** を選ぶと設定されます。



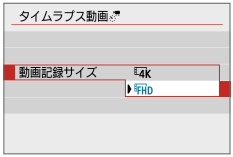
7 撮影回数を設定する

- **[撮影回数]** を選びます。〈◀〉〈▶〉で数値を設定し〈**SET**〉を押します。
- **[🚗:撮影所要時間]**（1）、**[▶:再生時間]**（2）を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

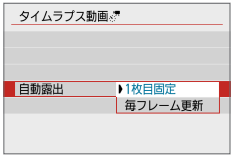
- 項目（桁）を選びます。
- 〈**SET**〉を押して〈☆〉の状態にします。
- 数値を設定し〈**SET**〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- **[▶：再生時間]** が赤く表示されていないことを確認します。
- **[OK]** を選ぶと設定されます。

- **[シーン **]** 設定時は、各シーンに適切な撮影ができるように、設定できる撮影間隔 / 回数が限定されています。
- 撮影回数を 3600 回に設定したときは、NTSC 設定時：約 2 分、PAL 設定時：約 2 分 24 秒のタイムラプス動画になります。



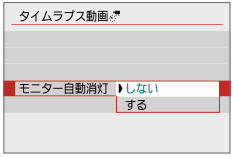
8 動画記録サイズを選ぶ

- **4K（3840 × 2160）**
  4K 画質で記録されます。画面の横縦比は 16：9 です。
  フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式は ALL-I（ALL-I）、動画記録形式は MP4（MP4）で記録されます。
- **FHD（1920 × 1080）**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は 16：9 です。
  フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式は ALL-I（ALL-I）、動画記録形式は MP4（MP4）で記録されます。



9 [自動露出] を設定する

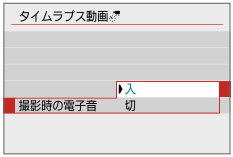
- **1 枚目固定**
  1 枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2 枚目以降は 1 枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1 枚目と同じ設定で撮影されます。
- **毎フレーム更新**
  2 枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、**[オート]** に設定されているときは、2 枚目以降も 1 枚毎に自動更新されます。



10 [モニター自動消灯] を設定する

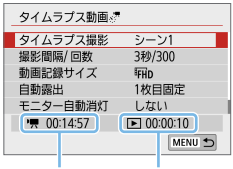
- **しない**
  タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます。撮影開始から約 30 分経過すると、画面が消灯します。
- **する**
  撮影開始から約 10 秒経過すると、画面が消灯します。

- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。



11 電子音を設定する

- **[撮影時の電子音]** を選びます。
- **[切]** に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。



12 設定内容を確認する

(1) 撮影所要時間

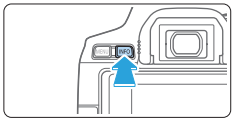
撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24 時間を超えるときは、「*** 日」で表示されます。

(2) 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から 4K 動画、またはフル HD 動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

13 メニューを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押してメニュー画面を消します。

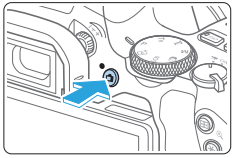


14 撮影所要時間と撮影間隔を再確認する

- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間（1）」「撮影間隔（2）」を再確認します。



(1)(2)



15 タイムラプス動画を撮影する

- 〈📷〉ボタンを押すと、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中は AF は行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、「●REC」が表示されます。
- ➡ 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- **タイムラプス動画撮影を解除するときは、［タイムラプス撮影］を［しない］に設定します。**

- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、**【再生時間】**が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した**【撮影回数】**でファイルサイズが 4GB を超えるときに、カードが exFAT 形式でフォーマットされていないときは（📖68）、**【再生時間】**が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが 4GB に達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMI ケーブルを接続しているときは、タイムラプス動画撮影はできません。
- 動画サーボ AF は機能しません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- **[撮影間隔]** が 3 秒以下で、**[自動露出]** が **[毎フレーム更新]** に設定されているときに、1 フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。
- 動画電子 IS は設定できません。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS 用ソフトウェアの EOS Utility を使用するときは、**[📷：タイムラプス動画]** を **[しない]** に設定してください。**[しない]** 以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈OFF〉などを行ったときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が **[しない]** になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が **[しない]** になります。
  - **[🔧：センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング]**、**[🔧：設定解除]** の **[カメラ設定初期化]** を選んだとき
  - モードダイヤルを回したとき
- 白い〈🔥〉温度上昇警告（📖214）が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い〈🔥〉が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。

- 三脚の使用をおすすめします。
- 映像の視野率は、4K／フル HD タイムラプス動画撮影時ともに約 100%です。
- タイムラプス動画撮影を途中で中止するときは、〈📷〉ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影したタイムラプス動画は、通常の動画と同じようにこのカメラで再生できます。
- 撮影所要時間が 24 時間超～ 48 時間以下のときは 2 日と表示されます。3 日以上のときも同じように 24 時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が 1 秒未満でも動画ファイルが生成されます。そのとき **[再生時間]** は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売／🕮469）の使用をおすすめします。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 使用時

- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 とペアリングを行ってください（🕮416）。
- **[📷：リモコン撮影]** を **[する]** に設定してください。

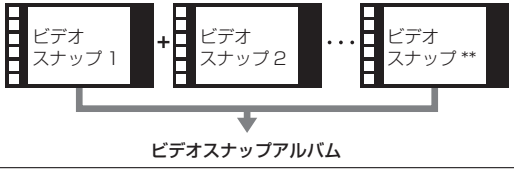
ビデオスナップを撮影する

1 シーンが数秒間の短い動画「ビデオスナップ」（以下スナップ）を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの想い出を、1 つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」（以下アルバム）を作ることができます。

ビデオスナップは、動画記録サイズが FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）のときに設定できます。

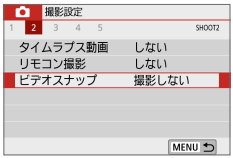
できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（🕮340）。

ビデオスナップアルバムの概念



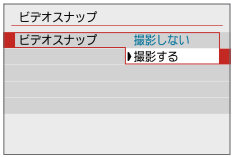
スナップの撮影時間を決める

1 モードダイヤルを〈◎〉以外にする



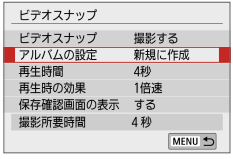
2 [ビデオスナップ] を選ぶ

- [📷] タブの [ビデオスナップ] を選び、〈SET〉を押します。

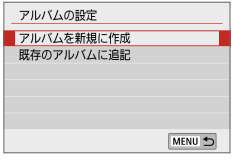


3 [撮影する] を選ぶ

- [ビデオスナップ] を選び、[撮影する] を選びます。

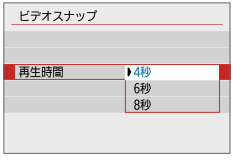


4 [アルバムの設定] を選ぶ



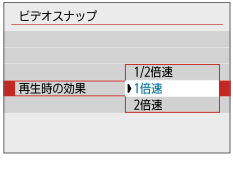
5 [アルバムを新規に作成] を選ぶ

- メッセージを確認して [OK] を選びます。



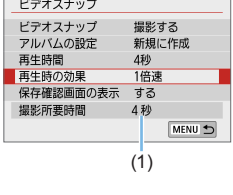
6 再生時間を設定する

- 1 スナップの再生にかかる時間です。



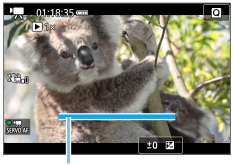
7 再生時の効果を設定する

- アルバムの再生速度です。
- 〈**SCN**〉のときは、**[再生時の効果]** は設定できません。



8 撮影所要時間を確認する

- 再生時間と再生時の効果をもとに、1 スナップの撮影に必要な時間（1）が表示されます。

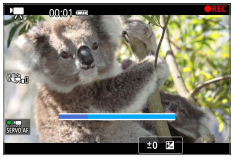


(1)

9 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- ➡ 画面に撮影時間（1）を示す青いバーが表示されます。

スナップを撮影してアルバムを作る



10 最初のスナップを撮影する

- 〈📷〉ボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- ➡ 確認画面が表示されます（📖249）。



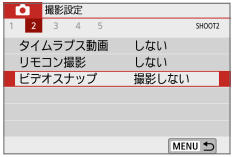
11 アルバムとして保存する

- **［アルバムとして保存］**を選び、〈SET〉を押します。
- アルバムの先頭スナップとして保存されます。



12 続けてスナップを撮影する

- 手順 10 と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- **［アルバムに追加する］**を選び、〈SET〉を押します。
- 別のアルバムを作るときは、**［新しいアルバムとして保存］**を選びます。
- 必要に応じて手順 12 を繰り返します。



13 ビデオスナップ撮影を終了する

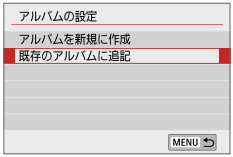
- **[ビデオスナップ]** を **[撮影しない]** に設定します。**通常の動画を撮影するときは、[撮影しない] に設定してください。**
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

手順 11、手順 12 の画面について

項目	内容
アルバムとして保存（手順 11）	アルバムの最初のスナップとして保存します。
アルバムに追加する（手順 12）	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
新しいアルバムとして保存（手順 12）	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
撮影したスナップを再生する（手順 11、手順 12）	いま撮影したスナップを再生します。
アルバムとして保存しない（手順 11） アルバムに追加しないで消去（手順 12）	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で **[OK]** を選びます。

- スナップを撮影したあと、すぐに次のスナップを撮影したいときは、**[📷：ビデオスナップ]** の **[保存確認画面の表示]** を **[しない]** に設定します。この設定にしておくと、撮影直後に確認画面が表示されなくなるため、すぐに次のスナップを撮影することができます。

既存のアルバムに追記する



1 [既存のアルバムに追記] を選ぶ

- 📖247 の手順 5 で **[既存のアルバムに追記]** を選びます。



2 既存のアルバムを選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で既存のアルバムを選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選びます。
- ➡ 一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。

3 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- ➡ ビデオスナップの撮影画面が表示されます。

4 スナップを撮影する

- 「スナップを撮影してアルバムを作る」(📖248) を参照し、スナップを撮影します。

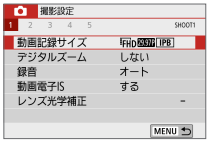
- 他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

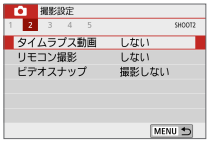
ビデオスナップ撮影全般の注意事項

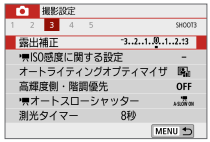
- **[再生時の効果]** で、**[1/2 倍速] [2 倍速]** を選んだときは、音声は記録されません。
- 1 スナップの撮影所要時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

メニュー機能の設定

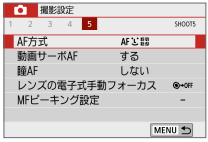
電源スイッチを〈🎥〉にすると、[📷] および [🔧] タブに動画撮影特有の項目が表示されます。

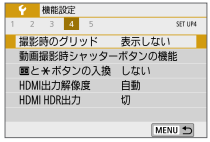






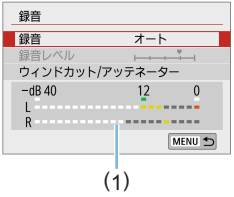






- **動画記録サイズ**（📖227）
  動画記録サイズ（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）を設定することができます。
- **デジタルズーム**（📖230）
  デジタルズームで望遠撮影ができます。

● **録音** 静用



通常は内蔵マイクでステレオ録音されます。外部マイク入力端子（📖28）に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先されます。

（1）レベルメーター

[録音 / 録音レベル] の項目

[オート] ：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

[マニュアル] ：上級者向けの機能です。録音レベルを 64 段階で任意に調整することができます。
[録音レベル] を選び、レベルメーターを見ながら〈◄〉〈►〉を押して、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（− 12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能（約 3 秒間）を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

[しない] ：録音は行われません。

[ウィンドカット]

[オート] に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

[アッテネーター]

音割れを抑制する機能です。**[録音]** を **[オート]** または **[マニュアル]** に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは **[入]** に設定することをおすすめします。

- 外部マイク使用時に Wi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。

- かんたん撮影ゾーンのときは、**[📷:録音]** は **[する / しない]** になります。なお、**[する]** に設定したときは、録音レベルが自動調整され（**[オート]** と同じ）、ウィンドカットが行われます。
- L/R（左 / 右）の音量バランスを調整することはできません。
- L/R ともに、サンプリング周波数 48kHz ／ 16bit で記録されます。

- **動画電子 IS**（📖232）
  動画撮影時の手ブレを軽減することができます。
- **レンズ光学補正** 応用（📖142）
  周辺光量補正、色収差補正を設定することができます。
- **タイムラプス動画**（📖238）
  タイムラプス動画を撮影することができます。
- **リモコン撮影**
  [する] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／📖471）を使用して、動画撮影の開始 / 停止を行うことができます。
  BR-E1 使用時は、撮影タイミング / 動画撮影切り換えスイッチを〈🎥〉の位置にして、レリーズボタンを押します。
- **ビデオスナップ**（📖246）
  ビデオスナップを撮影することができます。
- **🎥ISO 感度に関する設定** 応用（📖256）
  動画撮影時の ISO 感度や、ISO 感度の設定範囲を設定します。
- **🎥 オートスローシャッター** 応用（📖257）
  薄暗い場所で動画を撮影するとき、明るさとなめらかさのどちらを優先するか選ぶことができます。
- **測光タイマー** 応用
  露出値の表示時間（AE ロック時の保持時間）を変えることができます。
- **HDMI 出力時の情報表示** 応用（📖258）
  情報表示のない映像を HDMI 出力することができます。

- **AF 方式**
  「AF でピントを合わせる」（📖196）で説明している AF 方式と同じです。**[+追尾優先 AF]**［**スポット 1 点 AF**］［**1 点 AF**］［**ゾーン AF**］が選択できます。
- **動画サーボ AF**
  動画撮影のときに被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。初期設定では**【する】**に設定されています。

  ［する］設定時
  - シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
  - 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、以下の方法で動画サーボ AF を一時的に停止することができます。
    - 画面左下の【SERVO AF】にタッチする
    - **【カスタム機能 (C.Fn)】**の**【シャッターボタン /AE ロックボタン】**が**【2: AF/AF ロック (AE ロックなし)】**に設定されているときは、〈✱〉ボタンを押している間、動画サーボ AF を停止することができます。〈✱〉ボタンを離すと、動画サーボ AF が再開します。
  - 動画サーボ AF が停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF 方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボ AF が再開します。

  ［しない］設定時
  - シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

[動画サーボ AF：する] 設定時の注意事項

- ピントが合いにくい撮影条件
  - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 「ピントが合いにくい撮影条件」（201）も参照してください。
- 常にレンズが作動して電池を消耗するため、動画撮影できる時間が短くなります。
- レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用することで、低減できる場合があります。なお、一部の USM レンズ（例：EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM）、および一部の STM レンズ（例：EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM）使用時は、レンズの作動音が録音されにくくなっています。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボ AF が一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり / 遠ざかったり、カメラを上下 / 左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。
- 動画サーボ AF 中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、カメラの電源スイッチを〈**ON**〉にしてから操作してください。

- **レンズの電子式手動フォーカス** 応用 （108）
  電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時に、設定することができます。

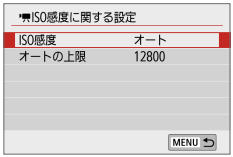
- **撮影時のグリッド**
  [9 分割 ＋] または **[24 分割 ＃]** でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを撮影開始前に確認することができます。また、**[9 分割+対角 ✳]** では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図にすることができます。
  なお、動画撮影中は液晶モニターにグリッドは表示されません。

- **動画撮影時シャッターボタンの機能**
  動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。
  [半押し]
  - **[測光・動画サーボ]** **[測光・ワンショット]** **[測光のみ]** のいずれかに設定できます（4K 動画では **[測光・ワンショット]** を除く）。

  [全押し]
  - **[無効]** **[動画撮影の開始 / 終了]** のいずれかに設定できます。
    なお、全押ししたときの動作に **[動画撮影の開始 / 終了]** を設定すると、〈📷〉ボタン、シャッターボタンの全押しだけでなく、リモートスイッチ RS-60E3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます（📖471）。

> ● **[🔧：カスタム機能（C.Fn）]** の **[シャッターボタン /AE ロックボタン]** でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は **[🔧：動画撮影時シャッターボタンの機能]** の設定が優先されます。

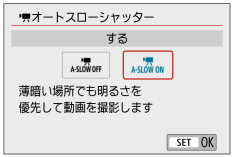
動画撮影時の ISO 感度について 応用



ISO 感度は、静止画撮影時と動画撮影時で、別々に設定することができます。**[📷]** タブの **[ISO 感度に関する設定]** で設定します。

- **[ISO 感度]**
  マニュアル露出時は、ISO 感度を設定できます（📖222）。
- **[オートの上限]**
  ISO 感度オート時に自動設定される感度の上限値を、ISO6400 または ISO12800 に設定することができます。
  [🔧：カスタム機能（C.Fn）] の **[ISO 感度拡張]** が **[1：する]** に設定されているときは、**[H(25600)]** を選択することができます。

動画オートスローシャッターについて 応用

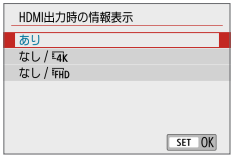


暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、**[しない]** 設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。
この機能は、動画記録サイズのフレームレートが、59.94P、50.00P のときに機能します。

- **[しない]**
  [する] 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、**[する]** 設定時よりも映像が暗くなることがあります。
- **[する]**
  暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に 1/30 秒（NTSC）、または 1/25 秒（PAL）まで遅くして、**[しない]** 設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を撮影することができます。

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、**[しない]** に設定することをおすすめします。

HDMI 出力時の情報表示 応用



HDMI ケーブルで映像を出力するときの情報表示を設定することができます。

- **［あり］**
  HDMI 出力先に、映像および撮影情報や AF フレームなどが表示されます。なお、カメラの画面は消灯します。
  記録した映像はカードに保存されます。
- **［なし /4K］**
  4K 動画の映像のみを HDMI 出力します。カメラの画面には撮影情報や AF フレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi 通信はできません。
- **［なし /FHD］**
  フル HD 動画の映像のみを HDMI 出力します。カメラの画面には撮影情報や AF フレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi 通信はできません。

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇にともなう、赤い〈🔥〉表示について

- 動画撮影時に赤い〈🔥〉が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い〈🔥〉が表示されます。
- 赤い〈🔥〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🔥〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用すると、これらの音を録音しないように低減できる場合があります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MP4 形式に対応していても）再生できないことがあります。

動画撮影全般の注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に 5 段階のインジケーター (1) が表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。



MP4 形式の動画の制約について

- MP4 形式の動画には、一般的に以下の制約事項がありますので、ご了承ください。
  - 最後の約 2 フレームには、音が記録されません。
  - Windows で動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

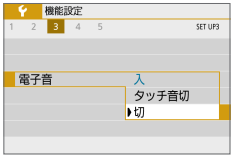
知っていると便利な機能

- 電子音が鳴らないようにする（📖262）
- カードの入れ忘れを防止する（📖262）
- 撮影直後の画像表示時間を設定する（📖263）
- 電源が切れるまでの時間を設定する／オートパワーオフ（📖263）
- 液晶モニターの明るさを調整する（📖264）
- フォルダの作成と選択（📖265）
- 画像番号の付け方を設定する（📖267）
- 著作権情報の設定（📖270）
- 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定（📖272）
- カメラの設定を初期状態に戻す（📖273）
- 液晶モニターの消灯／点灯の設定（📖274）
- 撮像素子の自動清掃（📖275）
- ゴミ消し情報を画像に付加する（📖277）
- 手作業で撮像素子を清掃する（📖279）
- HDMI 出力時の解像度（📖281）
- HDR 対応テレビでの RAW 画像の表示（📖282）

普段使う上で便利な機能

電子音が鳴らないようにする

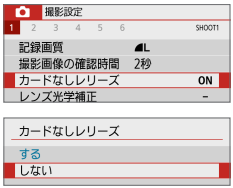
ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時、画面にタッチして操作したときに、電子音が鳴らないようにすることができます。



［🔧］タブの［**電子音**］を選び、〈SET〉を押します。［**切**］を選び〈SET〉を押します。
画面にタッチしたときの電子音だけを鳴らないようにするときは［**タッチ音切**］を選びます。

カードの入れ忘れを防止する

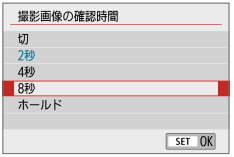
カードが入っていないときに、撮影ができないようにすることができます。



［📷］タブの［**カードなしレリーズ**］を選び、〈SET〉を押します。［**しない**］を選び〈SET〉を押します。
カードを入れないでシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**Card**」が表示されてシャッターが切れません。

撮影直後の画像表示時間を設定する

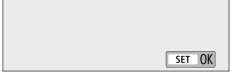
撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を変更することができます。**[切]** に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。**[ホールド]** に設定すると、**[オートパワーオフ]** の時間まで画像が表示されます。
なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと、表示が終了します。



[📷] タブの **[撮影画像の確認時間]** を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

電源が切れるまでの時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置すると、節電のため設定されている時間で電源が自動的に切れます。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。
[しない] に設定したときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP〉ボタンを押して液晶モニターの表示を消すことをおすすめします。
なお、[しない] の設定でもカメラを約 30 分放置すると、液晶モニターが消灯します。液晶モニターを点灯するときは、〈DISP〉ボタンを押してください。

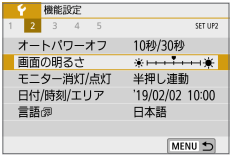


[⚡] タブの **[オートパワーオフ]** を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

- **[10秒/30秒]** 設定時は約 10 秒放置すると、電源が切れます。なお、機能設定時、ライブビュー撮影時、動画撮影時、再生時などは、電源が切れるまでの時間が約 30 秒になります。

液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。



[🔧] タブの **[画面の明るさ]** を選び、〈**SET**〉を押します。調整画面で〈◄〉〈►〉を押して明るさを調整し、〈**SET**〉を押します。

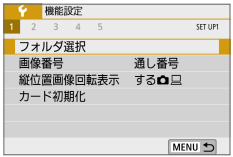


露出を確認するときは、目盛を 4 の位置にして、なるべく周りの光の影響を受けないようにしてください。

フォルダの作成と選択

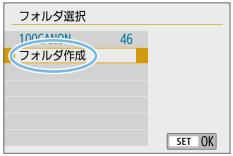
画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。
なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成



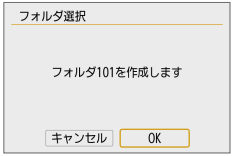
1 **［フォルダ選択］を選ぶ**

- **［**🔧**］**タブの**［フォルダ選択］**を選び、〈SET〉を押します。



2 **［フォルダ作成］を選ぶ**

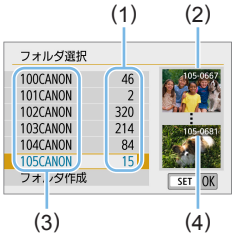
- **［フォルダ作成］**を選び〈SET〉を押します。



3 **フォルダを作成する**

- **［OK］**を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が 1 つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択



- フォルダ選択画面が表示された状態で、フォルダを選び〈**SET**〉を押します。

➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。

- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

（1）フォルダ内画像数
（2）最小番号画像
（3）フォルダ名
（4）最大番号画像

フォルダについて

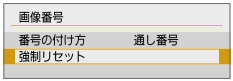
- フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭 3 桁の数字（フォルダ番号）と、5 文字の英数字で構成されています。1 つのフォルダには、画像が最大 9999 枚保存されます（画像番号 0001 ～ 9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が 1 つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（🕮269）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは 100 ～ 999 まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次に DCIM フォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず 100 ～ 999 までの 3 桁の番号に続けて、5 文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベット A ～ Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

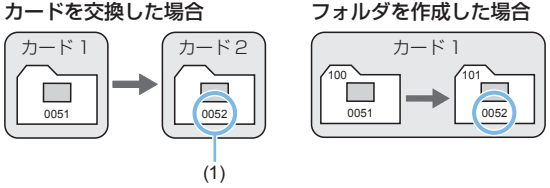
画像番号の付け方を設定する

画像番号は、撮影した順に 0001 ～ 9999 の番号が付けられて、1 つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。
画像番号は、パソコンでは **IMG_0001.JPG** というような形で表示されます。



[🔧] タブの **[画像番号]** の **[番号の付け方]** を選び、〈**SET**〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈**SET**〉を押します。

- **[通し番号]：カードの交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき**
  カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号 9999 の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった 0001 ～ 9999 までの画像を、パソコンで 1 つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。
  ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

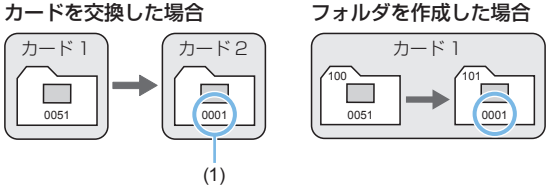


(1) 続きの画像番号

- **[オートリセット]：カードの交換やフォルダ作成で、画像番号を 0001 にしたいとき**

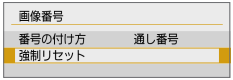
  カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号 0001 から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

  ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001 から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



(1) 画像番号リセット

- **[強制リセット]：任意に画像番号を 0001 にしたり、新しいフォルダで画像番号 0001 から撮影したいとき**



[📷]タブの**[画像番号]**の**[強制リセット]**を選び、確認画面で **[OK]** を選びます。

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号 0001 から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示は行われません）。

- フォルダ番号 999 のフォルダに画像番号 9999 の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

- ファイル名の先頭は、JPEG 画像、RAW 画像はともに「IMG_」、動画は「MVI_」になります。拡張子は、JPEG 画像は「.JPG」、RAW 画像は「.CR3」、動画は「.MP4」になります。

著作権情報の設定

応用

著作権情報の設定を行うと、その内容が Exif（イグジフ）情報として画像に付加されます。



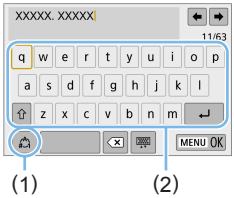
1 [著作権情報] を選ぶ

- [ ] タブの [**著作権情報**] を選び、〈SET〉を押します。



2 設定する項目を選ぶ

- [**作成者名入力**] または [**著作権者名入力**] を選び、〈SET〉を押します。



3 文字を入力する

- 〈✣〉十字キーで□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 最大 63 文字入力できます。
- [⌫] を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押すと、1 文字消去されます。
- [⏏] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 画面右上の [⬅] [➡] を選ぶか、〈◌〉を回すと、入力位置を移動できます。
- 入力をキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押して [**キャンセル**] を選びます。

（1）入力モード
（2）文字パレット

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して【OK】を選びます。

➡ 設定した内容が保存されます。

著作権情報の確認

応用



手順２で【著作権情報の表示】を選ぶと、入力した【作成者】【著作権者】の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順２で【著作権情報の消去】を選ぶと、【作成者】【著作権者】の情報が消去されます。

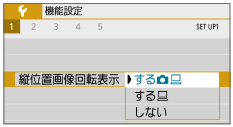
- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、【著作権情報の表示】を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

- EOS 用ソフトウェアの EOS Utility（491）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定



縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。



[🔧]タブの**[縦位置画像回転表示]**を選び、〈**SET**〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈**SET**〉を押します。

- **[する 📷 🖵]**：カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **[する 🖵]**　：パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **[しない]**　：自動回転させたくないとき

? こんなときは

- **撮影直後に表示される画像が回転表示されない**
〈▶〉ボタンを押して、画像を再生したときに回転表示が行われます。
- **[する 📷 🖵] にして再生しても回転表示されない**
[しない] の設定で撮影した画像は回転表示されません。また、カメラを上や下に向けて撮影すると、回転表示が正しく行われないことがあります。その場合は、「回転させる」（📖290）の操作で画像を回転させることができます。
- **[する 🖵] で撮影した画像をカメラで回転表示させたい**
[する 📷 🖵] に設定して再生すると、回転表示が行われます。
- **パソコンの画面で回転表示されない**
回転表示に対応していないソフトウェアです。EOS 用ソフトウェアを使用してください。

カメラの設定を初期状態に戻す

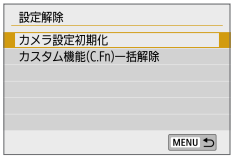
応用

カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。この操作は、応用撮影ゾーンで行うことができます。



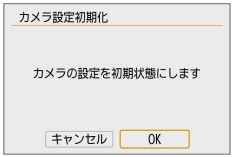
1 [設定解除]を選ぶ

- [ ]タブの[設定解除]を選び、〈SET〉を押します。



2 [カメラ設定初期化]を選ぶ

- [カメラ設定初期化]を選び〈SET〉を押します。



3 [OK]を選ぶ

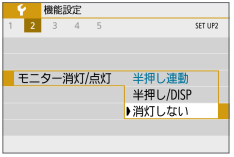
- [OK]を選び〈SET〉を押します。

? こんなときは

- **すべての設定を初期状態に戻したい**
  上記操作を行ったあと、[:設定解除]で[カスタム機能(C.Fn)一括解除]を選ぶと、設定されているカスタム機能をすべて解除できます(453)。

液晶モニターの消灯／点灯の設定

シャッターボタンの半押し（または〈✱〉ボタンを押す）に連動して、液晶モニターが消えたり点いたりしないようにすることができます。



[🔧]タブの**[モニター消灯 / 点灯]**を選び、〈**SET**〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈**SET**〉を押します。

- **[半押し連動]**　：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。
- **[半押し /DISP]**：半押しすると表示が消え、指を離しても表示されません。〈DISP〉ボタンを押すと表示されます。
- **[消灯しない]**　：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈DISP〉ボタンを押します。

撮像素子の自動清掃

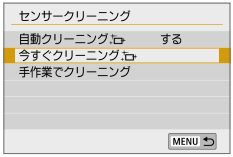
このカメラは、電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する



1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。



2 [今すぐクリーニング] を選ぶ

- [今すぐクリーニング] を選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- マルチショットノイズ低減機能が設定されているときは [今すぐクリーニング] を選択できません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、[今すぐクリーニング] が一時的に選べなくなります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点」が生じることがあります。[今すぐクリーニング] を行うと、輝点の発生が改善することがあります（484）。

自動清掃を行わないようにする

- 手順２で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。
  ➡ 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

ゴミ消し情報を画像に付加する

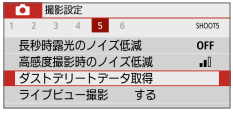
応用

通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS 用ソフトウェアの Digital Photo Professional（491）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

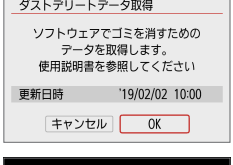
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を 50mm 以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する



1 [ダストデリートデータ取得] を選ぶ

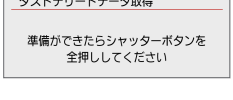
- [📷] タブの [**ダストデリートデータ取得**] を選び、〈**SET**〉を押します。

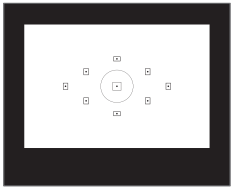


2 [OK] を選ぶ

- [**OK**] を選び〈**SET**〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。







3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。

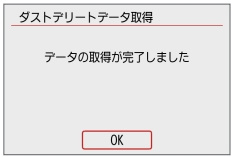
➡ 絞り優先 AE、絞り数値 F22 で撮影されます。

- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。

[OK] を選ぶと、メニューに戻ります。

- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。「事前準備」（📖277）の内容を確認し、[OK] を選んだあと、もう一度撮影します。



ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべての JPEG 画像、RAW 画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS 用ソフトウェアの Digital Photo Professional による自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional 使用説明書を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

- 未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS 用ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

手作業で撮像素子を清掃する

応用

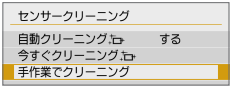
撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。



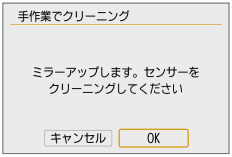
1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。



2 [手作業でクリーニング] を選ぶ

- [手作業でクリーニング] を選び〈SET〉を押します。



3 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。

4 撮像素子を清掃する

5 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

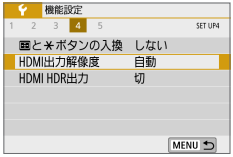
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。

- 家庭用電源アクセサリー（別売／📖469）の使用をおすすめします。

- マルチショットノイズ低減機能が設定されているときは **[手作業でクリーニング]** を選択できません。
- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  - **電源スイッチを〈OFF〉にする**
  - **電池を取り出す／入れる**
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

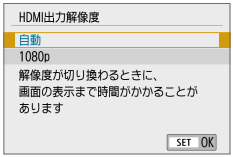
HDMI 出力時の解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMI ケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。



1 [HDMI 出力解像度] を選ぶ

- [ ] タブの [HDMI 出力解像度] を選び、〈SET〉を押します。



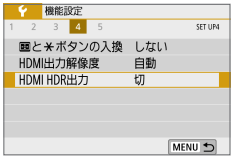
2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

- **自動**
  接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- **1080p**
  1080p の解像度で出力します。解像度が切り換わるときの表示や時間が気になるときに選びます。

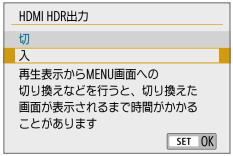
HDR 対応テレビでの RAW 画像の表示

HDR 対応テレビにカメラをつないで、RAW 画像を HDR 表示で見ることができます。



1 [HDMI HDR 出力] を選ぶ

- [ ] タブの [HDMI HDR 出力] を選び、〈SET〉を押します。



2 [入] を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して [入] を選びます。

- HDR 対応テレビの設定が、HDR 入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDR テレビに表示しているときは、画像の効果や一部の情報が表示されないことがあります。

画像の再生

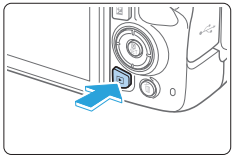
この章では、「かんたん撮影と画像確認」（📖70）で説明した再生方法の応用的な使い方や、撮影した画像（静止画／動画）をカメラで再生・消去する方法、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について
他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

見たい画像を素早く探す

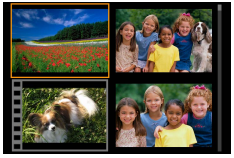
一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に 4 枚／ 9 枚／ 36 枚／ 100 枚の画像を表示することができます。



1 画像を再生する

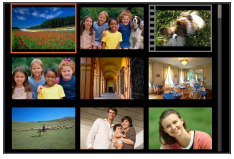
- 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。



2 インデックス表示にする

- 〈■·🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 4 枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- さらに〈■·🔍〉ボタンを押すと、9 枚→ 36 枚→ 100 枚表示になります。
- 〈🔍〉ボタンを押すと、100 枚→ 36 枚→ 9 枚→ 4 枚→ 1 枚表示になります。



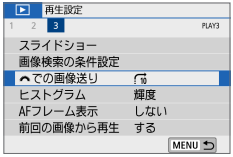


3 画像を選ぶ

- 〈✣〉十字キーで、オレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈◠〉を回すと、1 画面分先、または前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が 1 枚表示されます。

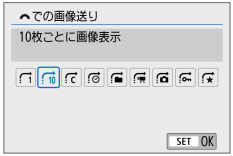
画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1 枚表示のときに〈☁〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。



1 [☁での画像送り]を選ぶ

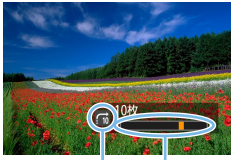
- [▶]タブの[☁での画像送り]を選び、〈SET〉を押します。



2 ジャンプ方法を選ぶ

- 〈✥〉十字キーで、ジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。
  - 1 : **1 枚ずつ画像表示**
  - 10 : **10 枚ごとに画像表示**
  - C : **指定した枚数ごとに画像を表示**
  - 📅 : **撮影日を切り換えて画像を表示**
  - 📁 : **フォルダを切り換えて画像を表示**
  - 🎬 : **動画だけを表示**
  - 📷 : **静止画だけを表示**
  - 🔒 : **プロテクト画像だけを表示**
  - ★ : **指定したレーティングの画像を表示**（📖291）
    〈☁〉を回して選びます。

- **[指定した枚数ごとに画像を表示]**は、〈☁〉を回して、ジャンプする枚数（1 ～ 100 枚まで）を選ぶことができます。
- **[撮影日]**は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- **[フォルダ]**は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- **[動画][静止画]**は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- **[レーティング]**で対象となる画像がないときは、〈☁〉を回しても画像送りは行われません。



3 画像送りをする

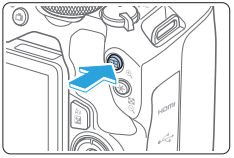
- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1 枚表示の状態で〈 〉を回します。

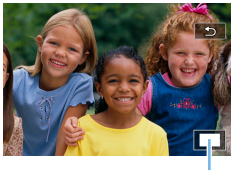
➡ 設定した方法で画像が送られます。

(1) ジャンプ方法
(2) 再生位置

拡大して見る

撮影した画像を、約 1.5 倍～ 10 倍に拡大して表示することができます。

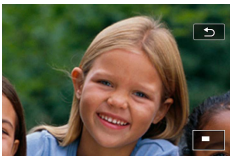




1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈🔍+〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。画面右下に拡大位置（1）が表示されます。
- 〈🔍+〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈🔍-〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1 枚表示まで連続的に小さくなります。





2 表示位置を移動する

- 〈✥〉十字キーを押した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1 枚表示になります。

- 〈⚙〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 動画は拡大表示できません。

画面にタッチして再生する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生を行うことができます。**まず、〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。**

画像を送る

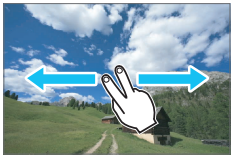




指 1 本でドラッグする

- 1 枚表示のときは「**指 1 本**」で液晶モニターに触れます。指を左または右に動かすと 1 枚ずつ画像が送られます。
  左に動かすと新しい画像、右に動かすと古い画像が表示されます。
- インデックス表示のときも「**指 1 本**」で液晶モニターに触れます。指を上または下に動かすと 1 画面ずつ画像が送られます。
  上に動かすと新しい画像、下に動かすと古い画像が表示されます。
  画像を選んで、オレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1 枚表示になります。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）



指 2 本でドラッグする

液晶モニターに「**指 2 本**」で触れます。指を左または右に動かすと、**[▶] タブの [での画像送り]** で設定されている方法で、画像を飛ばして表示することができます。

画像を縮小表示する（インデックス表示）



2 本の指を閉じる

指 2 本を広げた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに、1 枚表示からインデックス表示になります。
- 画像を選んでオレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1 枚表示になります。

画像を拡大表示する



2 本の指を開く

指 2 本を閉じた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに、拡大されます。
- 最大約 10 倍に拡大できます。

ダブルタップする

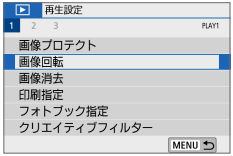
- 指でダブルタップすると、タッチした位置を中心に、記録画像の画素を約 100% で表示します。
- もう一度ダブルタップすると、1 枚表示に戻ります。

- インデックス表示時は、ダブルタップでの拡大表示はできません。

- 指を動かすと、表示位置を移動することができます。
- 指を閉じると縮小します。
- [⮌] をタッチすると、1 枚表示に戻ります。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。



1 [画像回転] を選ぶ

- [▶] タブの **[画像回転]** を選び、〈SET〉を押します。



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して、回転する画像を選びます。
- インデックス表示（📖284）にして選ぶこともできます。



3 画像を回転する

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順 2、3 を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

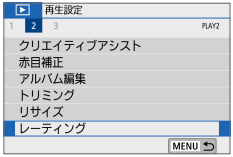
- **[🔧：縦位置画像回転表示]** を **[する 📷 🖵]**（📖272）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、**[🔧：縦位置画像回転表示]** を **[する 📷 🖵]** に設定します。
- 動画は回転できません。

お気に入りのレベルを設定する

撮影した画像（静止画 / 動画）に、5 種類のお気に入りマーク（[•]/[•]/[•]/[•]/[•]）を付加することができます。この機能をレーティングといいます。

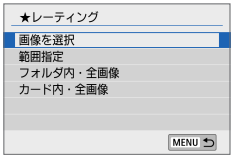
* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。

1 枚ずつ設定する



1 [レーティング] を選ぶ

- [▶] タブの [**レーティング**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [画像を選択] を選ぶ

➡ 画像が表示されます。



3 レーティングする画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して、お気に入りマークを付ける画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、3 画像表示にして選ぶことができます。〈🔍〉ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。

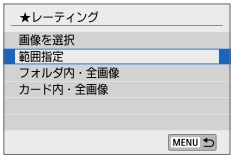


4 レーティングを設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して、お気に入りマークを選びます。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティング設定したい画像があるときは、手順 3、4 を繰り返します。

範囲を指定する

画像の範囲を指定して、まとめて設定することができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶：レーティング] の [範囲指定] を選び、〈SET〉を押します。

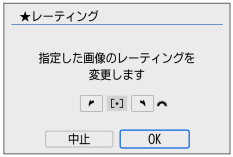


2 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び〈SET〉を押します。
- 最後の画像（終点）を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像に [✓] が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 終点を選んでいない状態で〈MENU〉ボタンを押すと、[✓] が外れます。

3 範囲を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

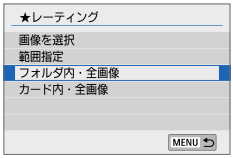


4 レーティングを設定する

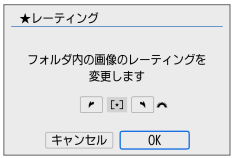
- 〈 〉を回して、お気に入りマークを選び、**[OK]** を選びます。

フォルダ内／カード内の全画像を指定する

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティング設定することができます。



- **[▶：レーティング]** で **[フォルダ内・全画像]** または **[カード内・全画像]** を選ぶと、その中のすべての画像が指定されます。



- 〈 〉を回して、お気に入りマークを選び、**[OK]** を選びます。
- 解除するときは、お気に入りマークの **[OFF]** を選びます。

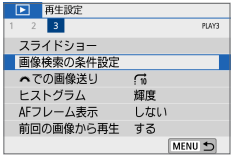
- お気に入りマークの横にある数値は、3 桁（999 枚）までしか表示されません。1000 枚を超えると、**[###]** と表示されます。

レーティングの利用方法

- **[▶： での画像送り]** で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- パソコンの OS によっては、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、お気に入りマークを確認することができます（JPEG 画像のみ）。

再生する画像を絞り込む

指定した条件で画像を検索し、目的の画像を絞り込んで表示することができます。また、検索した画像をまとめてスライドショーで再生したり、プロテクトをかけたり、消去することもできます。



1 [画像検索の条件設定]を選ぶ

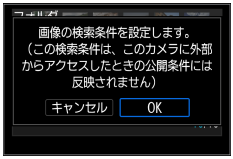
- [▶]タブの**[画像検索の条件設定]**を選び、〈SET〉を押します。



2 検索条件を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して、条件を選びます。
- 〈◄〉〈►〉を押して、内容を設定します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、指定が解除されます。
- すべての条件を設定することもできます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、すべての指定が解除されます。

条件	内容
★ レーティング	選んだお気に入りマークが付いた画像を表示します。
日付	選んだ撮影日の画像を表示します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある画像を表示します。
プロテクト	カード内のプロテクト「あり」「なし」画像を表示します。
ファイルの種類	選んだ種類の画像ファイルを表示します。 設定できるファイルの種類は、[静止画]、[(RAW)]、[(RAW,RAW+JPEG)]、[(RAW+JPEG)]、[(RAW+JPEG,JPEG)]、[(JPEG)]、[動画]です。



3 検索条件を確定する

- 〈SET〉を押します。

➡ 表示されるメッセージを確認して【OK】を選びます。



4 検索した画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。

➡ 設定した条件の画像が黄色の枠の中に表示されます。

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順 2 の画面で〈SET〉を押しても【OK】できません（手順 3 に進めません）。

- 【：オートパワーオフ】を【4 分】以下に設定していても、検索条件の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間は約 6 分になります。
- 検索した画像の表示中は、検索した画像だけをまとめて操作（プロテクト、消去、印刷指定、フォトブック指定、レーティング、スライドショー）することもできます。
- 下記の操作を行うと、検索した画像の表示は自動解除されます。
  - 撮影を行ったとき
  - オートパワーオフ機能が作動したとき
  - 電源スイッチを〈OFF〉にしたとき
  - SD カードをフォーマットしたとき
  - 画像が追加されたとき（撮影済みの画像にフィルター効果を施したり、リサイズしたり、トリミングして、新規保存したときなど）
  - 検索条件に一致する画像がなくなったとき

再生時のクイック設定

再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら【：画像プロテクト】【：画像回転】【★：レーティング】【：クリエイティブフィルター】【：リサイズ（JPEG画像のみ）】【：トリミング】【：での画像送り】【：画像の検索】【：スマートフォンへ画像を送信 *】【：クリエイティブアシスト（RAW画像のみ）】の設定を行うことができます。

なお、**動画のときは**【：画像プロテクト】【★：レーティング】【：での画像送り】【：画像の検索】【：スマートフォンへ画像を送信 *】【▶：動画再生】**のみ**設定できます。

*【：WiFi設定】の【Wi-Fi】が【使わない】に設定されているときは選択できません。



1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。

➡ クイック設定の項目が表示されます。



2 項目を選んで設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して、項目を選びます。

➡ 選んだ項目の名称と設定内容が、画面下側に表示されます。

- 〈◀〉〈▶〉を押して設定します。
- 画像プロテクト（📖310）、レーティング（📖291）は、〈INFO〉を押すと複数の画像を選択できます。
- クリエイティブフィルター（📖332）、リサイズ（📖341）、トリミング（📖343）、画像の検索（📖294）、スマートフォンへ画像を送信（📖366）、クリエイティブアシスト（📖335）は、さらに〈SET〉を押して設定します。

- での画像送り（285）：画像送りする枚数の指定、レーティング（291）は、〈INFO〉を押して設定します。
- キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈SET〉を押すと、クイック設定が終了します。

- 画像回転（290）を行うときは、**[縦位置画像回転表示]**を**[する 📷 🖵]**に設定してください。**[縦位置画像回転表示]**が**[する 🖵]** **[しない]**に設定されているときは、**[画像回転]**で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の 3 つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する（📖308）

HDMI ケーブルでカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMI ケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- USB ケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。
- MP4 形式の動画ファイルの再生に対応していない機器で、動画を再生することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する（📖299 ～ 📖306）

カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

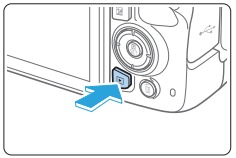
- パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する

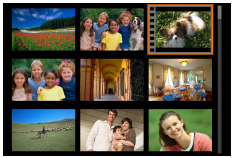
カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、（カメラで撮影した動画の記録形式に対応した）OS 標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアで、動画の再生・編集を行うことができます。

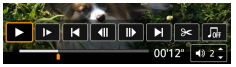
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MP4 形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

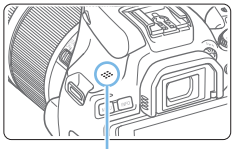
動画を再生する











1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して再生する動画を選びます。
- 1 枚表示のときに、画面左上に〈SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して 1 枚表示にします。**

3 1 枚表示の状態で〈SET〉を押す

4 動画を再生する

- **[▶]**（動画再生）を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。
- 再生中に〈▲〉〈▼〉を押すと、音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、300 ページを参照してください。

(1) スピーカー

- 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 前スキップ	〈SET〉を押すたびに約 4 秒戻します。
◀II フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに 1 コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに 1 コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 次スキップ	〈SET〉を押すたびに約 4 秒送ります。
✂ 編集	編集画面を表示します（🕮302）。
フレーム切り出し	4K 動画／ 4K タイムラプス動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG 画像）として保存することができます（🕮304）。
♫ BGM 選択	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（🕮340）。
▬▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー（🕮299）の音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと、1 枚表示の状態に戻ります。

動画再生パネル（ビデオスナップアルバム）

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 前のチャプター	前のスナップの先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに 1 コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに 1 コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 次のチャプター	次のスナップの先頭画面を表示します。
🗑 チャプター消去	再生中のスナップを削除します。
✂ 編集	編集画面を表示します（📖302）。
♫ BGM 選択	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（📖340）。
▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー（📖299）の音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと、1 枚表示の状態に戻ります。

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（📖308）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈▲〉〈▼〉を押しても音量は変わりません）。
- カードの読み取り速度が遅いときや、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

タッチパネルで再生する



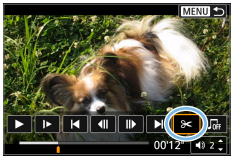
画面中央の［▶］をタッチする

➡ 動画再生が始まります。

- 画面左上の〈SET〉をタッチすると、クイック設定画面が表示されます。
- 再生中に画面をタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。

動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約 1 秒単位で削除することができます。



1 動画を再生して一時停止させる

➡ 動画再生パネルが表示されます。

2 動画再生画面で［✂］を選ぶ

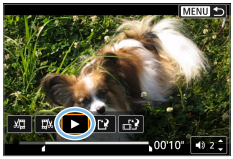
➡ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。





3 削除する範囲を指定する

- ［前部を削除］か、［後部を削除］を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。上部に白く表示された範囲が残ります。



4 編集内容を確認する

- 【▶】を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押し、確認画面で【OK】を選びます。



(1)(2)

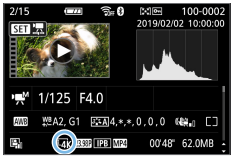
5 保存する

- 【[↱]】(1)を選んで〈SET〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは【新規保存】、編集前の動画を残さないときは【上書き保存】を選択して、〈SET〉を押します。
- 【[↱]】(2)を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存します。4K動画はフルHD動画に変換して圧縮されます。
- 確認画面で【OK】を選び〈SET〉を押すと、編集した動画が保存され、動画再生画面に戻ります。

- 約1秒単位(画面下部に【✂】が表示される位置)で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、【新規保存】は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、動画編集はできません。フル充電した電池を使用してください。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。

4K 動画／ 4K タイムラプス動画からのフレームの切り出し

4K 動画、4K タイムラプス動画から任意のフレームを選び、約 830 万画素（3840 × 2160）の静止画（JPEG 画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4K フレームキャプチャー）」と言います。



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 4K 動画または 4K タイムラプス動画を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で選びます。
- 撮影情報表示の画面（📖329）で［4k］と表示されている画像が 4K 動画／ 4K タイムラプス動画です。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して 1 枚表示にします。

3 1 枚表示の状態で〈SET〉を押す

4 動画を再生して、一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。



5 切り出すフレームを選ぶ

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法については、📖300 を参照してください。



6 [🎞] を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で選びます。



7 保存する

- **[OK]** を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG 画像）として保存されます。

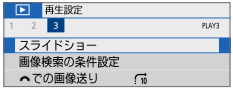
8 表示する画像を選ぶ

- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。
- **[元の動画]** または **[切り出した静止画]** を選びます。

- フル HD 動画やフル HD タイムラプス動画、他のカメラで撮影した 4K 動画／4K タイムラプス動画からは、フレーム切り出しはできません。

自動再生する（スライドショー）

カードに記録されているすべての画像を自動的に連続再生します。





1 [スライドショー] を選ぶ

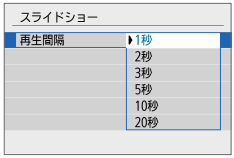
- [▶] タブの **[スライドショー]** を選び、〈SET〉を押します。

2 [設定] の内容を設定する

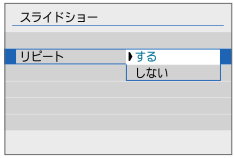
- 〈▲〉〈▼〉を押して **[設定]** を選び、〈SET〉を押します。
- 静止画の **[再生間隔]** と **[リピート]**（繰り返し再生）、**[切り換え効果]**（画像を切り換える際の演出効果）、**[BGM 選択]** を設定します。
- BGM 選択の設定方法は、340 ページを参照してください。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

（1）再生する枚数

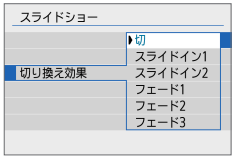
[再生間隔]



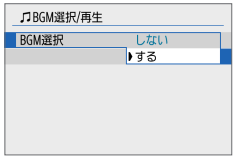
[リピート]



[切り換え効果]



[BGM 選択]





3 スライドショーを開始する

- 〈▲〉〈▼〉を押して**[スタート]**を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ **[画像読み込み中...]**が表示されたあと、スライドショーが始まります。

4 スライドショーを終了する

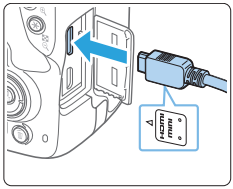
- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に**[II]**が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。画面にタッチして、一時停止することもできます。
- 自動再生中に〈INFO〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます（🕮102）。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉と、音量を調節することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◀〉〈▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、308ページを参照してください。
- **[▶：画像検索の条件設定]**で、絞り込み再生をしているときは、その画像をスライドショーで再生することができます。

テレビで見る

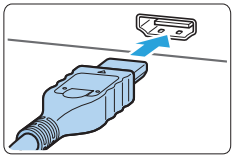
カメラとテレビを HDMI ケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMI ケーブルは、別売の HTC-100 の使用をおすすめします。

なお、テレビに映像が表示されないときは、[🔧:ビデオ方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMI ケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈▲ HDMI MINI〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

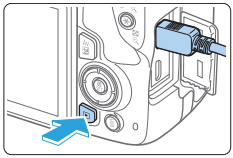


2 テレビに HDMI ケーブルを接続する

- HDMI ケーブルを、テレビの HDMI 入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

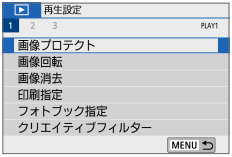
- ➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、299 ページを参照してください。

- 動画再生時の音量は、テレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。

保護する（プロテクト）

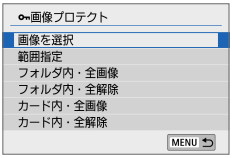
大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクト（保護）することができます。

1 枚ずつプロテクト



1 [画像プロテクト] を選ぶ

- [▶] タブの **[画像プロテクト]** を選び、〈SET〉を押します。



2 [画像を選択] を選ぶ

➡ 画像が表示されます。



3 プロテクトする画像を選ぶ

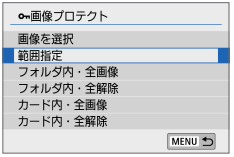
- 〈◀〉〈▶〉を押してプロテクトする画像を選びます。

4 プロテクトする

- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、〈⚿〉（1）が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⚿〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順 3、4 を繰り返します。

プロテクトする範囲を指定

画像の範囲を指定して、まとめてプロテクトすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶:画像プロテクト] の [範囲指定] を選び、〈SET〉を押します。

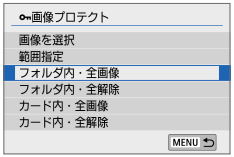


2 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び〈SET〉を押します。
- 最後の画像（終点）を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 画像がプロテクトされ、〈🔑〉が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



[▶：画像プロテクト]で**[フォルダ内・全画像]**または**[カード内・全画像]**を選ぶと、その中のすべての画像にプロテクトがかかります。
解除するときは**[フォルダ内・全解除]**または**[カード内・全解除]**を選びます。

- **カードを初期化すると（📖67）、プロテクトされた画像も消去されます。**

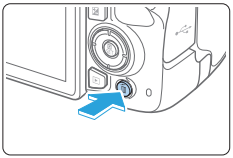
- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（📖315）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

消去する

不要な画像を 1 枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（🕮310）をかけた画像は消去されません。

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEG で撮影した画像は、両方消去されます。

1 枚ずつ消去



1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 消去メニューが表示されます。

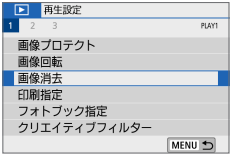


3 消去する

- **[消去]** を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

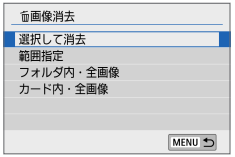
チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 **[画像消去]** を選ぶ

- **[▶]** タブの **[画像消去]** を選び、〈SET〉を押します。



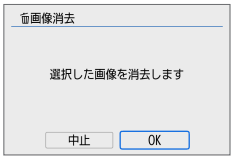
2 [選択して消去] を選ぶ

➡ 画像が表示されます。



3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して消去したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 〈⊡·🔍〉ボタンを押すと、3 画像表示にして選ぶことができます。〈🔍〉ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。
- 他に消去したい画像があるときは、手順 3 を繰り返します。

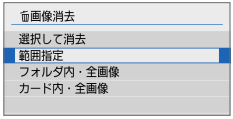


4 消去する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

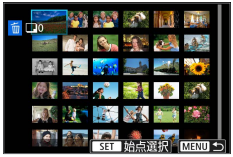
消去する範囲を指定

画像の範囲を指定して、まとめて消去することができます。



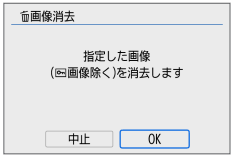
1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶:画像消去] の [範囲指定] を選び、〈SET〉を押します。



2 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び〈SET〉を押します。
- 最後の画像（終点）を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像に [✓] が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。



3 消去する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 確認画面で [OK] を選んで〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。[▶:画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

- プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（📖67）。

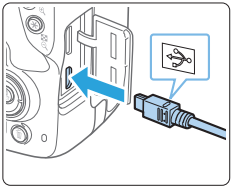
印刷の準備をする

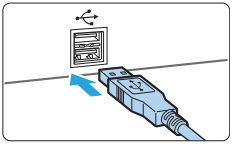
ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います。**

カメラとプリンターを接続する

1 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。





2 カメラとプリンターを接続する

- インターフェースケーブル（別売）で接続します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⇠〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すアイコンが表示されます。



- プリンターに PictBridge 用の接続端子があることをあらかじめ確認してください。
- 動画は印刷できません。
- 「CP ダイレクト」または「Bubble Jet ダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 手順 4 で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（📖395）。

- このカメラで撮影した RAW 画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源に DC カプラー DR-E18（別売）と AC アダプター AC-E6N（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。



(1)

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上にアイコンが表示されていることを確認します。
- 〈◀〉〈▶〉を押して印刷する画像を選びます。

（1）プリンター接続表示

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

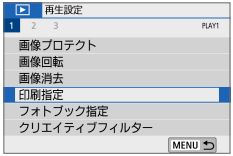
- 設定の詳細は、「印刷の設定」（🕮391）を参照してください。

画像を印刷指定する／DPOF

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

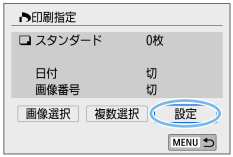
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 [印刷指定]を選ぶ

- [▶]タブの**[印刷指定]**を選び、〈SET〉を押します。

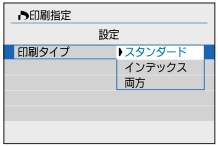


2 [設定]を選ぶ

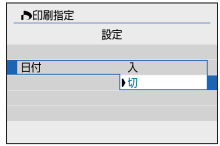
3 項目の内容を設定する

- **[印刷タイプ][日付][画像番号]**の内容を設定します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［印刷タイプ］



［日付］



［画像番号］



印刷タイプ		スタンダード	用紙 1 枚に 1 画像を印刷します。
		インデックス	用紙 1 枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	**［入］**にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	**［入］**にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

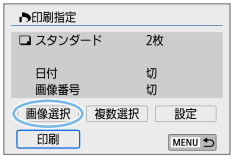
4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の**［画像選択］［複数選択］**で、印刷する画像を指定します。

- RAW 画像と動画は印刷指定できません。
- **［日付］［画像番号］**を**［入］**にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- **［インデックス］**に設定したときは、**［日付］**と**［画像番号］**を同時に**［入］**にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像を指定する

画像選択



画像を 1 枚ずつ選んで指定します。
〈▪▪·🔍〉ボタンを押すと、3 画像表示にして選ぶことができます。〈🔍〉ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。
〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



(1) (2)

- **[スタンダード] [両方]**
  〈▲〉〈▼〉を押して、表示されている画像の印刷枚数を指定します。
  (1) 指定枚数
  (2) 総指定枚数

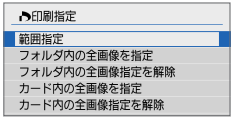


(3) (4)

- **[インデックス]**
  〈SET〉を押して、[✓] を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。
  (3) チェックマーク
  (4) インデックスマーク

複数選択

- 範囲を指定



1 [範囲指定] を選ぶ

- **[複数選択]** の **[範囲指定]** を選び、〈SET〉を押します。



2 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び〈SET〉を押します。
- 最後の画像（終点）を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像に【✓】が表示されます。指定したすべての画像が、1 画像 1 枚で印刷指定されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

- **フォルダ内の全画像**

[フォルダ内の全画像を指定] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1 画像 1 枚で印刷指定されます。なお、**[フォルダ内の全画像指定を解除]** を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

- **カード内の全画像**

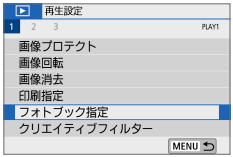
[カード内の全画像を指定] を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1 画像 1 枚で印刷指定されます。なお、**[カード内の全画像指定を解除]** を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- **[複数選択]** でまとめて画像を指定しても、RAW 画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridge に対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を 400 画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

フォトブックにする画像を指定する

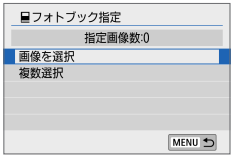
フォトブックにする画像を指定（最大 998 枚）することができます。EOS 用ソフトウェアの EOS Utility を使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

1 枚ずつ指定



1 [フォトブック指定] を選ぶ

- [▶] タブの [**フォトブック指定**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [画像を選択] を選ぶ

➡ 画像が表示されます。

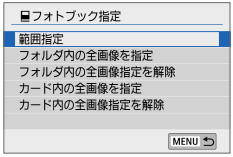


3 指定する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して、指定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 画像を複数選ぶときは、この操作を繰り返します。画面の左上に、指定した枚数が表示されます。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、3 画像表示になります。〈🔍〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
- もう一度〈SET〉を押すと、指定が解除されます。

範囲を指定する

画像の範囲を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶:フォトブック指定] の [複数選択] で [範囲指定] を選び、〈SET〉を押します。

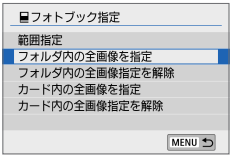


2 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び〈SET〉を押します。
- 最後の画像（終点）を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像に【✓】が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することもできます。



[▶：フォトブック指定]の**[複数選択]**で**[フォルダ内の全画像を指定]**または**[カード内の全画像を指定]**を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。
解除するときは**[フォルダ内の全画像指定を解除]**または**[カード内の全画像指定を解除]**を選びます。

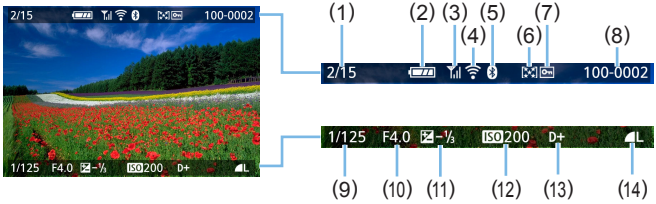
- RAW 画像と動画は指定できません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

撮影情報の内容

表示される内容は、撮影モードや設定によって異なります。

静止画の例

- **簡易情報表示**

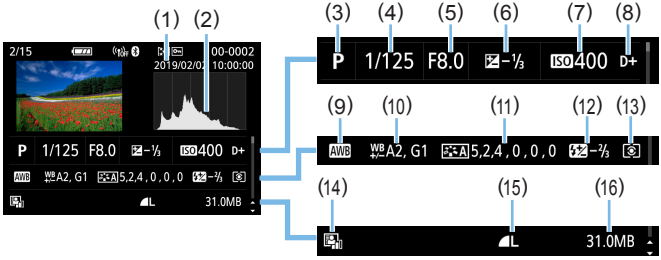


(1) 再生番号／総記録画像数
(2) 電池残量
(3) Wi-Fi 電波強度
(4) Wi-Fi 機能
(5) Bluetooth 機能
(6) レーティング
(7) 画像プロテクト
(8) フォルダ番号－画像番号
(9) シャッタースピード
(10) 絞り数値
(11) 露出補正量
(12) ISO 感度
(13) 高輝度側・階調優先
(14) 記録画質

- **AF フレーム表示について**
  [▶：AF フレーム表示] を **[する]** に設定すると、ピント合わせを行った AF フレームが赤い枠で表示されます。なお、AF フレーム自動選択のときは、AF フレームが複数同時に表示されることがあります。

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

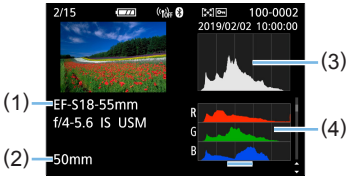
- 撮影情報表示
  - 詳細情報



(1) 撮影日時
(2) ヒストグラム（輝度 /RGB）
(3) 撮影モード
(4) シャッタースピード
(5) 絞り数値
(6) 露出補正量
(7) ISO 感度
(8) 高輝度側・階調優先
(9) ホワイトバランス
(10) ホワイトバランス補正量
(11) ピクチャースタイル設定内容
(12) ストロボ調光補正量／マルチショットノイズ低減
(13) 測光モード
(14) オートライティングオプティマイザ
(15) 記録画質
(16) ファイルサイズ

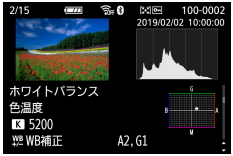
* RAW と JPEG の両方を選んで撮影した画像は、RAW のファイルサイズが表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈⚡〉が表示されます。
* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、〈NR〉が表示されます。
* クリエイティブフィルター機能で撮影した画像、画像加工（リサイズ処理、クリエイティブフィルター、クリエイティブアシスト）を行って保存した画像は、〈🖼〉が表示されます。
* トリミングを行って保存した画像は、〈🖼〉と〈✂〉が表示されます。

- レンズ／ヒストグラム情報

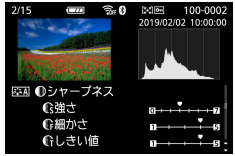


（1）レンズ名
（2）焦点距離
（3）ヒストグラム（輝度）
（4）ヒストグラム（RGB）

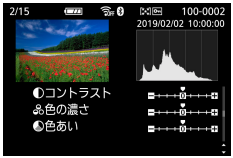
- ホワイトバランス情報



- ピクチャースタイル情報 1



- ピクチャースタイル情報 2



- 色空間／ノイズ低減情報



- レンズ光学補正情報

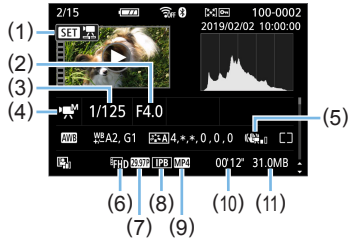


- 画像の送信履歴



- GPS レシーバー GP-E2 またはスマートフォンを使用して、画像に GPS 情報が記録されているときは、「GPS 情報」の画面も表示されます。

動画の例



(1) 再生
(2) 絞り数値
(3) シャッタースピード
(4) 動画撮影モード／タイムラプス動画
(5) 動画電子 IS
(6) 動画記録サイズ
(7) フレームレート
(8) 圧縮方式
(9) 動画記録形式
(10) 撮影時間・再生時間
(11) 動画ファイルサイズ

* シャッタースピード、絞り数値、ISO 感度（任意設定時）は、マニュアル露出で撮影したときに表示されます。
* ビデオスナップ撮影を行った動画のときは、〈🎞〉が表示されます。

- 動画再生時、**【ピクチャースタイル】**の**【シャープネス】**の**【細かさ】【しきい値】**は、「*, *」と表示されます。

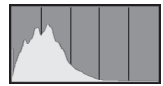
- **ハイライト警告表示について**
  撮影情報表示にしたときに、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

- **ヒストグラムについて**
  ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できる RGB 表示があります。表示の切り換えは、**[▶：ヒストグラム]** で行います。

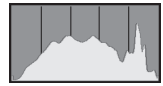
[輝度] 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

[RGB] 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／ G（緑）／ B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGB のヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

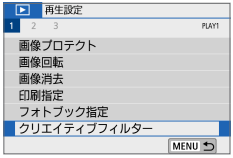
撮影した画像を加工する

撮影後、画像にフィルター効果を施したり、JPEG 画像をリサイズ（画素数を少なく）したり、JPEG 画像の一部をトリミング（切り抜く）ことができます。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

画像にフィルター効果を付ける

撮影した静止画に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。



1 [クリエイティブフィルター] を選ぶ

- [▶] タブの [**クリエイティブフィルター**] を選び、〈SET〉を押します。

➡ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- フィルター処理を行う画像を選びます。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 フィルター効果を選ぶ

- 〈SET〉を押すと、フィルターの種類が表示されます（📖333）。
- フィルター効果を選び、〈SET〉を押します。

➡ フィルター効果が反映された画像が表示されます。



4 フィルター効果を調整する

- フィルター効果を調整し、〈SET〉を押します。
- ジオラマ風は〈▲〉〈▼〉を押して、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させ、〈SET〉を押します。



5 保存する

- 【OK】を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して【OK】を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順２～５を繰り返します。

- RAW＋JPEGで撮影した画像は、RAW画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- アスペクト比を設定して撮影したRAW画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。
- 魚眼風のフィルター処理を行った画像には、ダストデリートデータ（🕮277）は付加されません。

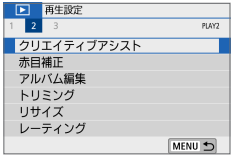
各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。
- **魚眼風**
  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順４でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

- **油彩風**
  油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- **水彩風**
  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- **トイカメラ風**
  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。
- **ジオラマ風**
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順で〈INFO〉ボタンを押す（または画面の［⿻］をタッチする）と、はっきり見せたい部分（白枠）の横／縦を切り換えることができます。

好みの効果を付ける（クリエイティブアシスト）

RAW 画像を現像して、好みの効果をつけた JPEG 画像を作成することができます。



1 [クリエイティブアシスト] を選ぶ

- [▶] タブの [クリエイティブアシスト] を選び、〈SET〉を押します。



2 画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で現像する画像を選び、〈SET〉を押します。



3 効果を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で効果を選びます。



- [プリセット] を選んで〈SET〉を押すと、[VIVID] や [SOFT] など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1] [AUTO2] [AUTO3] は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。



- **[明るさ] [コントラスト]** などは、〈**SET**〉を押して〈◀〉〈▶〉で効果を選びます。
- 調整が終了したら〈**SET**〉を押します。



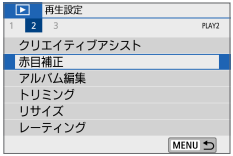
- 〈✳〉ボタンを押すと効果がリセットされます。
- 〈⊡〉ボタンを押して効果を確定します。



4 [OK] を選んで保存する

赤目補正

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正します。別画像として保存できます。



1 [赤目補正] を選ぶ

- [▶] タブの **[赤目補正]** を選び、〈**SET**〉を押します。



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して画像を選びます。

3 補正する

- [👁]をタッチするか、〈**SET**〉を押します。
- ➡ 補正された部分に枠が表示されます。

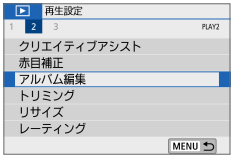


4 [OK] を選ぶ

- 別画像として保存されます。

- 画像によっては正しく補正されないことがあります。

ビデオスナップアルバムの編集



1 [アルバム編集] を選ぶ

- [▶] タブの [アルバム編集] を選び、〈SET〉を押します。



2 編集するアルバムを選ぶ

- 〈SET〉を押して [✓] を付けます。
- 選び終わったら〈MENU〉ボタンを押します。



3 [OK] を選ぶ



4 編集する項目を選ぶ

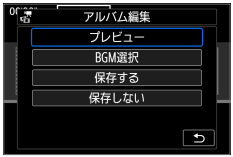
- 〈◀〉〈▶〉を押して編集項目を選び、〈SET〉を押します。

項目	内容
⇄ ビデオスナップ並べ換え	〈◀〉〈▶〉で移動したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈◀〉〈▶〉で移動し〈SET〉を押します。
🗑 ビデオスナップ削除	〈◀〉〈▶〉で削除したいスナップを選び、〈SET〉を押します。選択したスナップに、[🗑]が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、選択が解除され[🗑]が消えます。
▶ ビデオスナップ再生	〈◀〉〈▶〉で再生したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈▲〉〈▼〉で音量が調整できます。



5 編集を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して編集を終了します。
- [⍰]（編集完了）を選び、〈SET〉を押します。



6 保存する

- アルバムの再生時にBGMを一緒に再生するときは、**[BGM選択]**でBGMを選択します（340ページ）。
- 編集結果を確認するときは**[プレビュー]**を選びます。
- **[保存する]**を選ぶと編集したアルバムが新規アルバムとして保存されます。

- 編集後のアルバムを再度編集することはできません。

BGM を選択する

EOS 用ソフトウェアの EOS Utility を使用して、BGM をカードにコピーすると、アルバム再生時やスライドショー時に BGM を再生することができます。



1 [BGM 選択] を選ぶ

- [BGM 選択] で [する] を選びます。

2 音楽を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉で音楽を選び、〈SET〉を押します。[スライドショー] では、音楽を複数選ぶことができます。

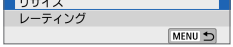
3 試聴する

- 〈INFO〉ボタンを押すと、試聴することができます。
- 〈▲〉〈▼〉で音量が調整できます。再度〈INFO〉ボタンを押すと、停止します。
- 音楽を削除するときは、〈▲〉〈▼〉で音楽を選び、〈🗑〉ボタンを押します。

- BGM をカードにコピーする方法については、EOS Utility 使用説明書を参照してください。

JPEG 画像をリサイズする

撮影した JPEG 画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEG の **L** ／ **M** ／ **S1** で撮影した画像で行うことができます。**JPEG の S2 と RAW で撮影した画像は、リサイズできません。**



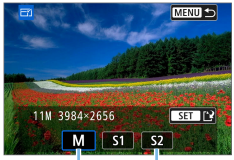
1 [リサイズ] を選ぶ

- [▶] タブの [**リサイズ**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- リサイズする画像を選びます。
- 〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



(1)

3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ (1) を選び、〈SET〉を押します。



4 保存する

- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順 2 ～ 4 を繰り返します。

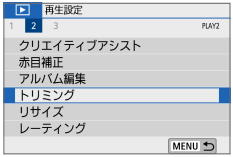
撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ		
	M	S1	S2
L	○	○	○
M		○	○
S1			○

- リサイズとアスペクトの組み合わせによっては、画像の周辺部分が少しトリミングされることがあります。

JPEG 画像をトリミングする

撮影した JPEG 画像の必要な部分を切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEG で撮影した画像で行うことができます。
RAW で撮影した画像は、トリミングを行うことができません。



1 [トリミング] を選ぶ

- [▶] タブの [**トリミング**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- トリミングを行う画像を選びます。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 トリミング枠の大きさ、アスペクト比、位置、傾き補正を設定する

- 〈SET〉を押すと、トリミング枠が表示されます。
- ➡ 枠で囲まれた範囲をトリミングできます。

トリミング枠の大きさを変える

- 〈🔍〉〈▪·🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

トリミング枠のアスペクト比を変える

- 〈☆〉を回し [▭] を選びます。
- ➡〈SET〉を押すたびに、枠のアスペクト比が切り換わります。
- ➡横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにトリミングすることもできます。

トリミング枠を移動する

- 〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押します。
- ➡枠が上下左右に移動します。
- トリミング枠にタッチしたままドラッグして、枠の位置を移動することもできます。

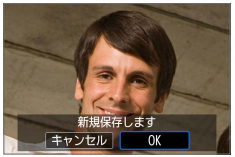
傾きを補正する

- 〈☆〉を回し、[△] を選びます。
- ➡表示されるグリッドで傾きを確認し、〈☆〉を回して傾きを補正します。
  傾きは± 10°の範囲で、0.1°単位で補正できます。
- ➡画面左上の[↱][↰]をタッチして補正するときは0.5°単位になります。
- 〈SET〉を押します。



4 トリミングした部分を全画面表示する

- 〈☆〉を回し、[▭] を選びます。
- ➡トリミングした画像を確認できます。
- もう一度〈SET〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。



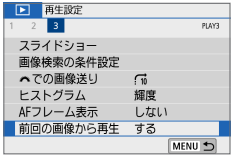
5 保存する

- 〈☆〉を回し、[💾] を選びます。
  〈SET〉を押して [OK] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順２～５を繰り返します。

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を、再度トリミングすることはできません。また、リサイズや、クリエイティブフィルター処理を行うこともできません。
- トリミングを行った画像には、AF フレーム表示用の情報（📖326）、ダストデリートデータ（📖277）は付加されません。

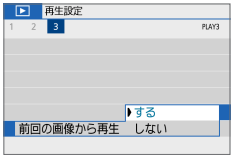
再生開始時に最初に表示する画像を設定する

画像の再生を開始したときに、画面に最初に表示する画像を設定することができます。



1 [前回の画像から再生] を選ぶ

- [▶] タブの **[前回の画像から再生]** を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

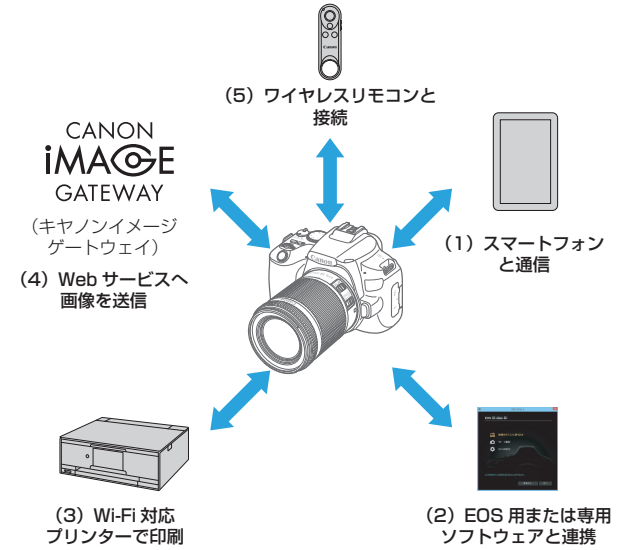
- 〈▲〉〈▼〉を押して内容を選びます。

- **[する]** を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- **[しない]** を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

無線通信機能

この章では、Bluetooth® 機能や Wi-Fi® 機能を使用して、カメラとスマートフォンや Web サービスなどと無線接続して画像を送信する方法や、パソコンやワイヤレスリモコンでカメラを操作する方法について説明しています。

無線通信機能でできること

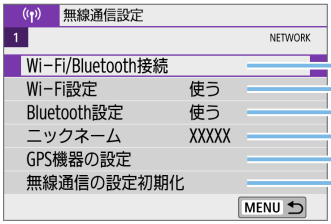


必ずお読みください

このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

メニュー目次：無線タブ



350
422
423
424
425
432

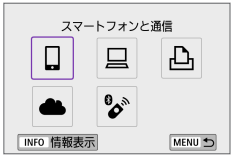
- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、無線通信機能を使用することはできません。
- Wi-Fi 接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。
- カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi 接続できません（【凵】は除く）。また、【凸】および Web サービスでは、カードに画像が記録されていないときも、Wi-Fi 接続できません。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カード／バッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi 接続を終了します。
- Wi-Fi 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

Wi-Fi/Bluetooth 接続の選択



1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 カメラと接続する項目を選ぶ

(1) スマートフォンと通信 (📖352)

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）に Wi-Fi 接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

(2) EOS 用または専用ソフトウェアと連携 (📖378)

パソコンに Wi-Fi 接続して、EOS 用ソフトウェアの EOS Utility を使ってカメラをリモート操作することができます。また、専用ソフトウェアの Image Transfer Utility 2 を使って、カメラの画像をパソコンに自動送信することができます。

(3) Wi-Fi 対応プリンターで印刷 (📖386)

Wi-Fi で使える PictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターに Wi-Fi 接続して、画像を印刷することができます。

(4) Web サービスへ画像を送信 (📖396)

キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON iMAGE GATEWAY (登録無料) を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまな Web サービスを利用した画像共有を行うことができます。

(5) ワイヤレスリモコンと接続

別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 と Bluetooth 接続して、リモコン撮影を行うことができます (📖416)。

スマートフォンと通信

カメラと Bluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）対応スマートフォンを Bluetooth 接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作による Wi-Fi 接続（🕮354）
- 電源オフ中のカメラとの Wi-Fi 接続（🕮359）
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加（🕮427）
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作（🕮358）

また、カメラとスマートフォンを Wi-Fi 接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存（🕮358）
- スマートフォンでのカメラのリモート操作（🕮358）
- カメラからスマートフォンへの画像の送信（🕮366）

スマートフォンの Bluetooth 機能と Wi-Fi 機能を ON にする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth 機能と Wi-Fi 機能を ON にしておきます。なお、スマートフォンの Bluetooth 機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。



- アクセスポイントを使用して Wi-Fi 接続するときは、「アクセスポイントを使用した Wi-Fi 接続」（🕮411）を参照してください。

スマートフォンに Camera Connect をインストールする

Android または iOS がインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションの Camera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンの OS は、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connect は、Google Play または App Store からインストールすることができます。Google Play または App Store は、スマートフォンとのペアリング時や Wi-Fi 接続時に表示される QR コードからもアクセスできます。

- Camera Connect が対応している OS のバージョンについては、Camera Connect のダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートや Camera Connect、Android、iOS などのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

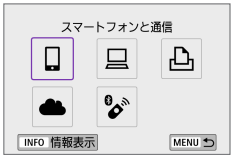
Bluetooth 対応スマートフォンと Wi-Fi 接続する

カメラ側の操作 -1

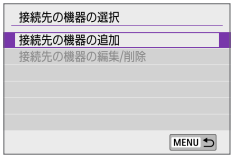


1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

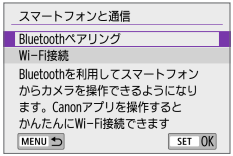


3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



4 項目を選ぶ

- Camera Connect をインストール済みのときは [表示しない] を選びます。
- Camera Connect がインストールされていないときは、[Android] または [iOS] を選んで表示される QR コードをスマートフォンで読み取り、Google Play または App Store にアクセスして Camera Connect をインストールします。



5 [Bluetooth ペアリング] を選ぶ

- 〈SET〉を押すと、ペアリングが開始されます。



- 2 台目以降のスマートフォンとペアリングするときは、左の画面で [OK] を選び、〈SET〉を押します。

スマートフォン側の操作 -1



6 Camera Connect を起動する



7 ペアリングするカメラをタッチする

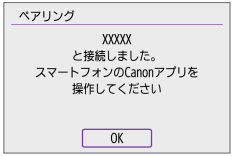
➡ Android の場合は手順 9 に進みます。



8 [ペアリング] をタッチする（iOS のみ）

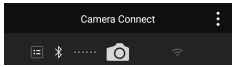


9 [OK] を選んで〈SET〉を押す



10 〈SET〉を押す

- ペアリングが完了して、スマートフォンと Bluetooth 接続されます。
  Camera Connect のトップ画面に Bluetooth 接続中の図が表示されます。



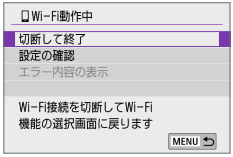
- 2 台以上の機器と同時に Bluetooth 接続することはできません。Bluetooth 接続するスマートフォンを切り換えるときは、🕮430 を参照してください。
- Bluetooth 接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

ペアリングできないとき

- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンの Bluetooth 設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

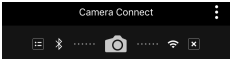
- Bluetooth 接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます（🕮366）。





11 Camera Connect の機能を選んでタッチする

- iOS の場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら【接続】をタッチします。
- Camera Connect の機能については 358 を参照してください。
- Wi-Fi 接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。
- カメラの液晶モニターに【Wi-Fi 動作中】の画面が表示されます。
- Camera Connect のトップ画面に Bluetooth および Wi-Fi 接続中の図が表示されます。



これで Bluetooth 対応スマートフォンとの Wi-Fi 接続は完了です。

- Wi-Fi 接続を終了する方法は、「Wi-Fi 接続の終了」（373）を参照してください。
- Wi-Fi 接続を終了すると Bluetooth 接続に切り換わります。
- 再度 Wi-Fi 接続するときは、Camera Connect を起動して、使用したい機能をタッチします。

【Wi-Fi 動作中】の画面について

切断して終了

- Wi-Fi 接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi 接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

Camera Connect の機能

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信するときに(🕮365)、カメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetooth リモートコントローラー

- Bluetooth 接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi 接続中は使用できません。
- Bluetooth リモートコントローラーをお使いのときは、あらかじめオートパワーオフの時間を長めに設定することをおすすめします。

位置情報

- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

電源オフ中のカメラとの Wi-Fi 接続

カメラとスマートフォンが Bluetooth 接続中であれば、カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態でも、スマートフォンを操作して Wi-Fi 接続することができます。



1 [Bluetooth 設定] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Bluetooth 設定] を選び、〈SET〉を押します。



2 [電源オフ中の通信] で [する] を選ぶ



- カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態で、Camera Connect のメニューから **[カメラ内の画像一覧]** をタッチすると、Wi-Fi 接続が開始されます。
- iOS の場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら **[接続]** をタッチします。
  Wi-Fi 接続が完了すると、カメラ内の画像の一覧が表示されます。

- Camera Connect を操作して、スマートフォンへの画像の保存、カメラ内の画像の削除を行うことができます。
- Wi-Fi 接続を終了するときは、Camera Connect のトップ画面で [×] をタッチします（📖373）。

- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

ペアリングの解除

スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。



1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の編集 / 削除] を選ぶ

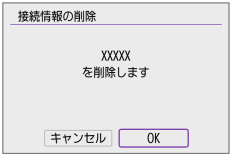


4 ペアリングを解除するスマートフォンを選ぶ

- ペアリング中のスマートフォンは [] が表示されます。



5 [接続情報の削除] を選ぶ



6 [OK] を選んで〈SET〉を押す

7 スマートフォン側の登録を解除する

- スマートフォンの Bluetooth 設定画面で、カメラの登録を解除します。

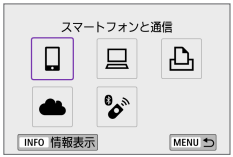
Bluetooth 機能を使用せず Wi-Fi 接続する

カメラ側の操作 -1



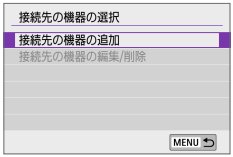
1 **[Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ**

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 **[スマートフォンと通信] を選ぶ**

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。

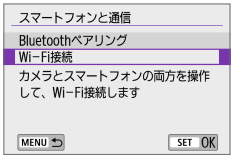


3 **[接続先の機器の追加] を選ぶ**

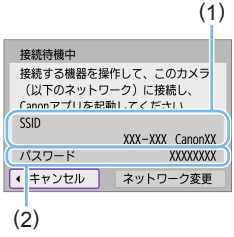


4 **項目を選ぶ**

- Camera Connect をインストール済みのときは **[表示しない]** を選びます。



5 [Wi-Fi 接続] を選ぶ



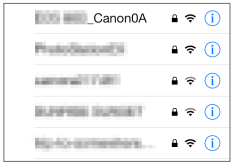
6 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラの液晶モニターに表示される SSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- [(ᵞ)：Wi-Fi 設定] → [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります（🕮422）。

- 手順 6 で [ネットワーク変更] を選ぶと、アクセスポイント経由で Wi-Fi 接続することができます（🕮411）。

スマートフォン側の操作

スマートフォンの画面例

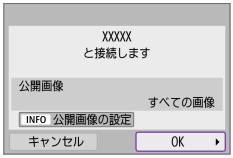


7 スマートフォンを操作して Wi-Fi 接続する

- スマートフォンの Wi-Fi 機能を ON にして、手順 6 で確認した SSID（ネットワーク名）をタッチします。
- パスワード欄には、手順 6 で確認したパスワードを入力します。



8 Camera Connect を起動して Wi-Fi 接続するカメラをタッチする



9 **[OK] を選ぶ**

- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。📖374の手順 5 を参照して設定してください。



- スマートフォンに、Camera Connect のメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとの Wi-Fi 接続は完了です。

- Camera Connect を使用してカメラを操作します（📖358）。

- Wi-Fi 接続を終了する方法は、「Wi-Fi 接続の終了」（📖373）を参照してください。
- 2 回目以降の Wi-Fi 接続については、「2 回目以降の Wi-Fi 接続」（📖419）を参照してください。

- Wi-Fi 接続中に、再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます（📖366）。

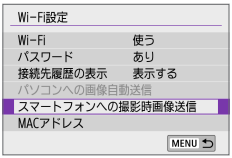
撮影画像の自動送信

撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンを Wi-Fi 接続しておきます。

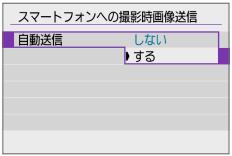


1 [Wi-Fi 設定] を選ぶ

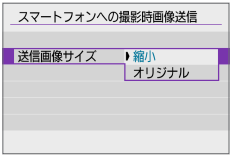
- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi 設定] を選び、〈SET〉を押します。



2 [スマートフォンへの撮影時画像送信] を選ぶ



3 [自動送信] で [する] を選ぶ

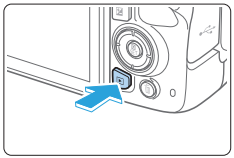


4 [送信画像サイズ] を設定する

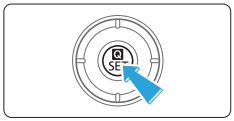
5 撮影する

カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。



1 画像を再生する



2〈Q〉ボタンを押す



3［］を選ぶ

- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

4 送信方法を選んで送信する

(1) 1 枚ずつ送信



1 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- **[送信画像サイズ]** で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で、送信する動画の画質を選ぶことができます。

(2) 複数の画像を選んで送信



1 〈SET〉を押す



2 [選んで送信] を選ぶ



3 送信する画像を選ぶ

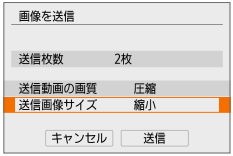
- 〈◀〉〈▶〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。



- 〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、3 枚表示にして選ぶことができます。1 枚表示に戻すときは〈🔍〉を押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

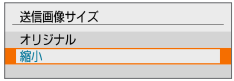
4 画像指定を完了する

- [OK] を選びます。

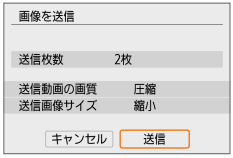


5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で画質を選びます。



6 [送信] を選ぶ

(3) 範囲を指定して送信する場合



1 〈SET〉を押す



2 [範囲指定で送信]を選ぶ

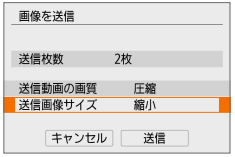


3 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

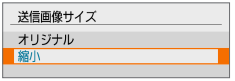
4 範囲を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押し、[OK]を選びます。

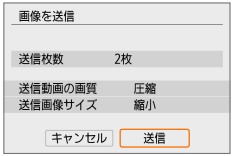


5 [送信画像サイズ]を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]**で画質を選びます。

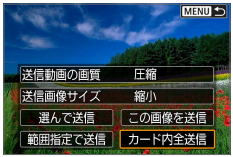


6 [送信] を選ぶ

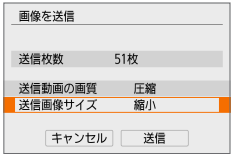
(4) カード内の画像をすべて送信



1 〈SET〉を押す

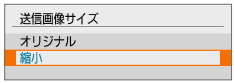


2 [カード内全送信] を選ぶ

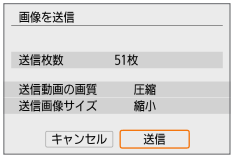


3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で画質を選びます。



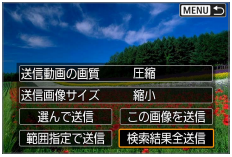
4 [送信] を選ぶ

(5) 検索条件が設定された画像を送信

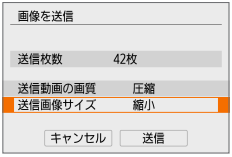
[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。**[画像検索の条件設定]** については、「再生する画像を絞り込む」(🕮294) を参照してください。



1 〈SET〉を押す

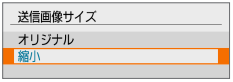


2 [検索結果全送信] を選ぶ

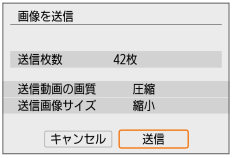


3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で画質を選びます。



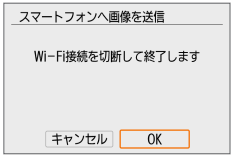
4 [送信] を選ぶ

画像の送信の終了

Bluetooth 接続中にカメラを操作して画像を送信した場合（Android のみ）



- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。



- 左の画面で【OK】を選ぶと、画像の送信と Wi-Fi 接続を終了します。

Wi-Fi 接続中にカメラを操作して画像を送信した場合



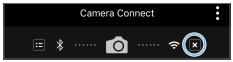
- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi 接続を終了するときは「Wi-Fi 接続の終了」（🕮373）を参照してください。

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

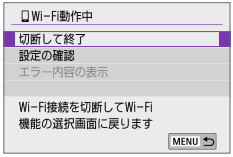
- Wi-Fi 接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、**S2** サイズの静止画は縮小されません。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

Wi-Fi 接続の終了

下記のいずれかの操作を行ってください。



Camera Connect の画面で [×] をタッチする



[Wi-Fi 動作中] の画面で [切断して終了] を選ぶ

- **[Wi-Fi 動作中]** の画面が表示されていないときは、**[((ᵖ))]** タブの **[Wi-Fi/Bluetooth 接続]** を選びます。
- **[切断して終了]** を選び、確認画面で **[OK]** を選びます。

スマートフォンに公開する画像の設定

Wi-Fi 接続を終了してから設定します。



1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。

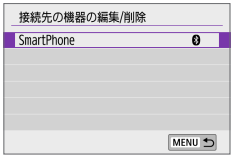


2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の編集 / 削除] を選ぶ

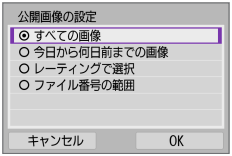


4 スマートフォンを選ぶ

- 画像を公開するスマートフォンの名称を選びます。



5 [公開画像の設定] を選ぶ



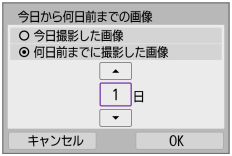
6 項目を選ぶ

- [OK] を選ぶと、設定画面が表示されます。

[すべての画像]

カード内のすべての画像を公開します。

[今日から何日前までの画像]

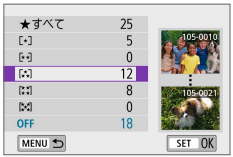


撮影日で公開する画像を指定します。最大で 9 日前までの画像を指定できます。

- **[何日前までに撮影した画像]** のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。〈▲〉〈▼〉で日数を指定し、〈SET〉を押して確定します。
- [OK] を選ぶと、公開する画像が設定されます。

- **[公開画像の設定]** で **[すべての画像]** 以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

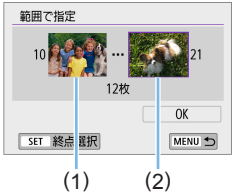
[レーティングで選択]



レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。

- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

1. 〈SET〉を押して、画像の選択画面を表示します。
   〈◄〉〈►〉で画像を選びます。
   〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
2. 始点（1）の画像を選びます。
3. 〈►〉で終点（2）の画像を選びます。
4. [OK] を選びます。

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi 接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - 電源スイッチが〈🎥〉のときは、動画撮影が継続します。
  - 電源スイッチが〈ON〉のときは、動画撮影が終了します。
- 電源スイッチが〈ON〉のときに、Camera Connect の操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- スマートフォンと Wi-Fi 接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF 速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラの液晶モニターが消灯することがあります。

- Wi-Fi 接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

パソコンと Wi-Fi 接続

ここでは、カメラとパソコンを Wi-Fi 接続して EOS 用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてから Wi-Fi 接続の設定を行ってください。
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utility でカメラを操作

EOS 用ソフトウェアの EOS Utility を使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作 -1



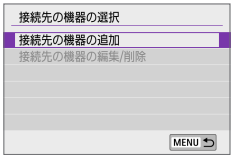
1 **[Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ**

- **[(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続]** を選び、〈**SET**〉を押します。

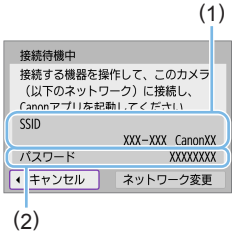


2 **[EOS Utility でリモート操作] を選ぶ**

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 **[接続先の機器の追加] を選ぶ**



4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラの液晶モニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[(ᯤ)：Wi-Fi 設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、422 を参照してください。

パソコン側の操作 -1

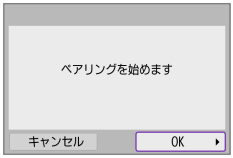
パソコンの画面例



5 SSIDを選んでパスワードを入力する

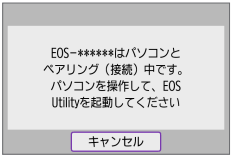
- パソコンのネットワークの設定画面から、手順４で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順４で確認したパスワードを入力します。

カメラ側の操作 -2



6 [OK] を選ぶ

➡ 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「******」は、接続しようとしているカメラの MAC アドレス下 6 桁です。



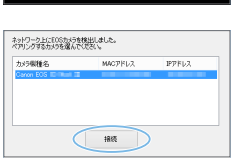
パソコン側の操作 -2

7 EOS Utility を起動する



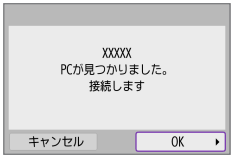
8 EOS Utility の［Wi-Fi/LAN 接続ペアリング］をクリックする

- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、**[はい]** を選びます。



9 [接続] をクリックする

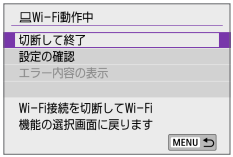
- 接続するカメラを選んで、**[接続]** をクリックします。



10 Wi-Fi 接続を確立する

- [OK] を選びます。

[Wi-Fi 動作中] の画面について



切断して終了

- Wi-Fi 接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi 接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

これでパソコンとの Wi-Fi 接続は完了です。

- パソコンの EOS Utility でカメラを操作します。
- 2 回目以降の Wi-Fi 接続については、「2 回目以降の Wi-Fi 接続」(📖419) を参照してください。

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi 接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - 電源スイッチが〈🎥〉のときは、動画撮影が継続します。
  - 電源スイッチが〈ON〉のときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、EOS Utility の操作で動画モードにしたときは、カメラを操作することはできません。
- EOS Utility と Wi-Fi 接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF 速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブルでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

カメラ内の画像の自動送信

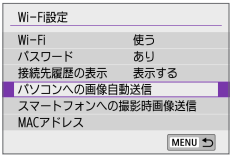
専用ソフトウェアの Image Transfer Utility 2 を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます。

パソコン側の操作 -1

1 パソコンとアクセスポイントを接続して Image Transfer Utility 2 を起動する

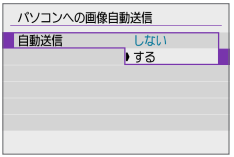
- はじめて Image Transfer Utility 2 を起動したときは、画面の手順にしたがって操作を行うとペアリングを設定する画面が表示されます。

カメラ側の操作 -1

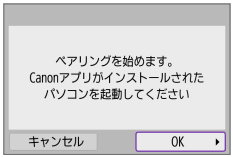


2 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

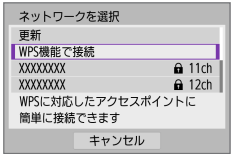
- [(ψ)] タブの [Wi-Fi 設定] を選び、〈SET〉を押します。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。



3 [自動送信] で [する] を選ぶ

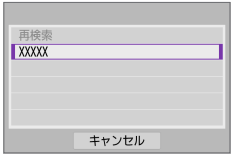


4 [OK] を選ぶ



5 アクセスポイントと Wi-Fi 接続する

- パソコンと接続しているアクセスポイントとカメラを Wi-Fi 接続します。接続方法は「アクセスポイントを使用した Wi-Fi 接続」(🕮411) を参照してください。

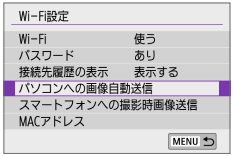


6 カメラとペアリングするパソコンを選ぶ

パソコン側の操作 -2

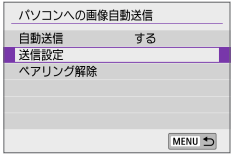
7 カメラとパソコンをペアリングする

- カメラを選んで、**[ペアリング]** をクリックします。



8 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

- [(ψ)] タブの [Wi-Fi 設定] を選び、〈SET〉を押します。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。



9 [送信設定] を選ぶ



10 送信する対象を選ぶ

- [送信対象範囲] で [選択画像のみ] を選んだときは [送信画像選択] の画面で送信する画像を設定します。
- 設定が終了したらカメラの電源を切ります。

パソコンが起動した状態で、アクセスポイントの通信範囲内でカメラの電源を入れると、カメラ内の画像がパソコンに自動送信されます。

- 自動送信が始まらないときは、カメラの電源を入れなおしてください。

プリンターと Wi-Fi 接続

ここでは、カメラと Wi-Fi で使える PictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターを直接 Wi-Fi 接続して画像を印刷する方法について説明しています。プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。



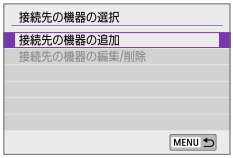
1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。

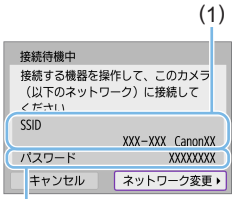


2 [Wi-Fi 対応プリンターで印刷] を選ぶ

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ

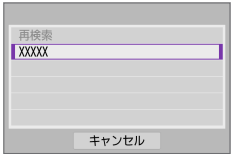


4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラの液晶モニターに表示されている SSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- [(ᯤ) : Wi-Fi 設定] で [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります（📖422）。

5 プリンターを操作する

- お使いのプリンターの Wi-Fi に関する設定メニューから、確認した SSID を選びます。
- パスワード欄には、手順 4 で確認したパスワードを入力します。



6 プリンターを選ぶ

- 検出されたプリンターの一覧から、Wi-Fi 接続するプリンターを選びます。
- 接続したいプリンターが表示されない場合、**[再検索]** を選択することで表示されることがあります。

- アクセスポイントを使用して Wi-Fi 接続するときは、「アクセスポイントを使用した Wi-Fi 接続」（🕮411）を参照してください。

画像の印刷

1 枚ずつ印刷



1 印刷する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で印刷する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を印刷] を選ぶ



3 印刷する

- 印刷の設定方法は、📖391 を参照してください。
- **[印刷]** を選び、**[OK]** を選ぶと印刷が始まります。

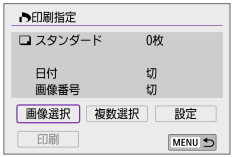
画像を指定して印刷



1 〈SET〉を押す

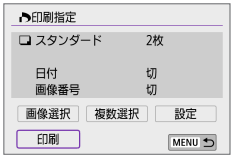


2 [印刷指定]を選ぶ



3 印刷内容を設定する

- 設定方法は、「画像を印刷指定する／DPOF」(📖319)を参照してください。
- Wi-Fi 接続前に印刷指定をしているときは、手順 4 に進んでください。



4 [印刷]を選ぶ

- **[印刷]**は、画像が選択され、印刷できる状態になっていないと選択できません。

5 [用紙設定]の内容を設定する (📖391)



6 印刷する

- 【OK】を選ぶと印刷が始まります。

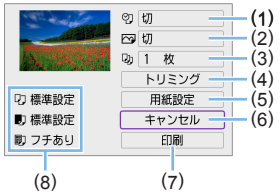
- プリンターと Wi-Fi 接続中は撮影できません。
- 動画は印刷できません。
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- **【フチあり】**にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
- RAW 画像は**【印刷指定】**を選んで印刷することはできません。印刷するときは、**【この画像を印刷】**を選んで印刷してください。

- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、**【印刷】**を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、**【中止】**が表示されている間に〈SET〉を押して【OK】を選びます。
- **【印刷指定】**で印刷するときに、途中で印刷を中止してから残りの画像を印刷するときは、**【再開】**を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
  - 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  - インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
- 印刷中に問題が発生したときは、🕮395 を参照してください。

印刷の設定

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

印刷設定画面



(1) 日付や画像番号の印刷を設定します（📖393）
(2) 印刷効果を設定します（📖393）
(3) 印刷枚数を設定します（📖393）
(4) 印刷範囲を設定します（📖394）
(5) 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します（📖392）
(6) 画像の選択画面に戻ります
(7) 印刷を開始します
(8) 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

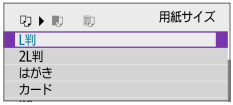
*** プリンターの機種により、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

用紙設定



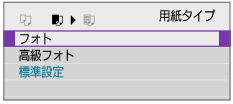
- **[用紙設定]**を選びます。

[ ] 用紙サイズの設定



- プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

[ ] 用紙タイプの設定



- プリンターにセットされている用紙のタイプを選びます。

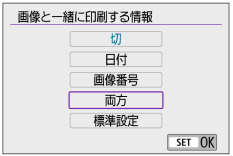
[ ] レイアウトの設定



- 印刷レイアウトを選びます。

- 用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、解像度が低く印刷されることがあります。

日付／画像番号印刷の設定



- 【[印]】を選びます。
- 印刷内容を選びます。

印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定



- 【[画]】を選びます。
- 印刷効果を選びます。

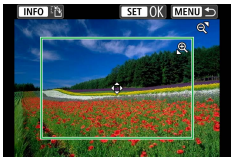
- ISO 感度「**H**」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO 感度が適切な値で印刷されないことがあります。
- 印刷効果などの選択肢にある**【標準設定】**は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。**【標準設定】**の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。

印刷枚数の設定



- 【[部]】を選びます。
- 印刷枚数を選びます。

トリミング（印刷範囲）の設定



トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、**［用紙設定］**の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈🔍+〉〈🔍-〉で枠の大きさが変わります。

枠を移動する

〈✥〉十字キーで枠が上下左右に移動します。

枠の縦 / 横を切り換える

〈INFO〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど解像度が低く印刷されます。

プリンターエラー発生時の操作について

- プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、**[続行]** を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

- 印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

- 用紙が正しくセットされていることを確認してください。

インクエラー

- インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

- 用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

- 選択した画像は印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

Web サービスへ画像を送信

ここでは、Web サービスを利用して画像を送信する方法について説明しています。

Web サービスの情報の登録

パソコンまたはスマートフォンを使って、利用する Web サービスの情報をカメラに登録します。

- CANON iMAGE GATEWAY をはじめとする各種 Web サービスの設定には、インターネットに接続できるパソコンまたはスマートフォンおよびブラウザーが必要です。
- CANON iMAGE GATEWAY に接続する際にお使いいただくブラウザー（Microsoft Internet Explorer など）のバージョンや設定条件については、CANON iMAGE GATEWAY のサイトで確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAY のサービスに対応している国／地域の情報は、弊社 Web サイト（http://www.canon.com/cig/）で確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAY での操作や設定については、CANON iMAGE GATEWAY のヘルプをご確認ください。
- CANON iMAGE GATEWAY 以外の Web サービスも利用するときは、その Web サービスのアカウントが必要です。詳しくは、各 Web サービスの Web サイトを確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

CANON iMAGE GATEWAY の登録

CANON iMAGE GATEWAY とカメラを連携できるように、CANON iMAGE GATEWAY をカメラに登録します。
パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスが必要です。

カメラ側の操作 -1

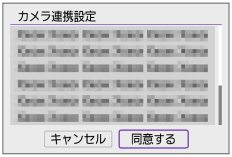


1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

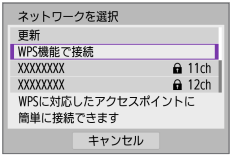
- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 [☁ Web サービスへ画像を送信] を選ぶ

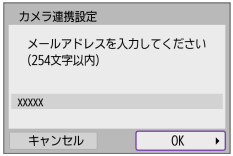


3 [同意する] を選ぶ



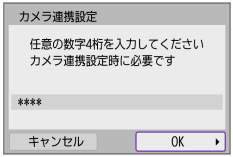
4 Wi-Fi 接続する

- アクセスポイントと Wi-Fi 接続します。
412 の手順 7 に進みます。



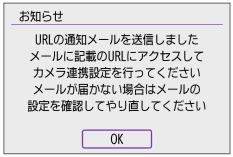
5 メールアドレスを入力する

- メールアドレスを入力して［OK］を選びます



6 4桁の数字を入力する

- 任意の4桁の数字を入力し［OK］を選びます。



7 ［OK］を選ぶ

➡［☁］が［☁］になります。



パソコンまたはスマートフォン側の操作

8 カメラ連携を設定する

- 受信した通知メールの URL にアクセスします。
- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。

カメラ側の操作 -2



9 CANON iMAGE GATEWAY を送信先に追加する

- [☁] を選びます。
  CANON iMAGE GATEWAY が追加されます。



他の Web サービスの登録

パソコンまたはスマートフォン側の操作

1 利用する Web サービスの設定をする

- CANON iMAGE GATEWAY の Web サイトにアクセスして、カメラ連携設定のページを表示します。
- 画面の指示にしたがって、利用する Web サービスの設定をします。

カメラ側の操作



2 設定した Web サービスを送信先に追加する

- [(ψ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。
- [ ] を選びます。

画像の送信

撮影した画像を家族や友人と共有できるよう、登録したWebサービスへカメラ内の画像を送信したり、オンラインアルバムのリンク先を送信できます。

Webサービスとの Wi-Fi 接続



1 **[Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ**

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 **Web サービスを選ぶ**

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- Web サービスの種類や設定によって、送信先の選択画面が表示されることがあります（📖414）。

1 枚ずつ送信



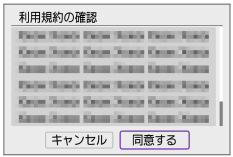
1 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈⚄·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- **[送信画像サイズ]** で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi 接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

複数の画像を選んで送信



1 〈SET〉を押す

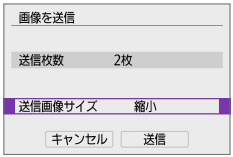


2 [選んで送信]を選ぶ



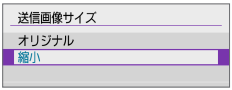
3 送信する画像を選ぶ

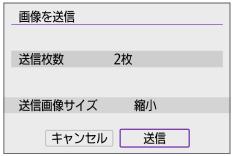
- 〈◄〉〈►〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは、〈🔍〉ボタンを押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。



4 [送信画像サイズ] を選ぶ

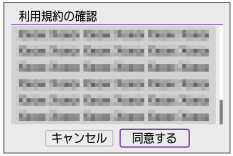
- 送信先が YouTube のときは、**[送信画像サイズ]** は表示されません。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





5 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi 接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

範囲を指定して送信

画像の範囲を指定して、まとめて送信します。



1 〈SET〉を押す



2 [範囲指定で送信]を選ぶ



3 画像の範囲を指定する

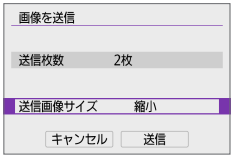
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。

➡ 画像が選択され、[✓]が表示されます。

- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

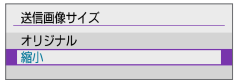
4 範囲を確定する

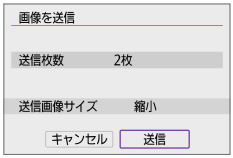
- 〈MENU〉ボタンを押します。



5 [送信画像サイズ]を選ぶ

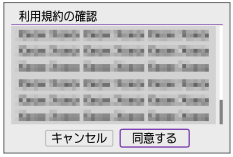
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





6 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi 接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

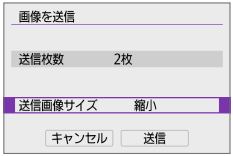
カード内の画像をすべて送信



1 〈SET〉を押す

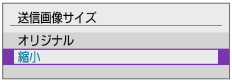


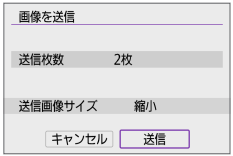
2 [カード内全送信] を選ぶ



3 [送信画像サイズ] を選ぶ

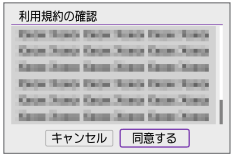
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi 接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

検索条件が設定された画像を送信

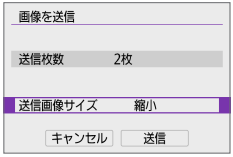
[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。
[画像検索の条件設定] については、「再生する画像を絞り込む」（🕮294）を参照してください。



1 〈SET〉を押す

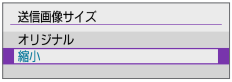


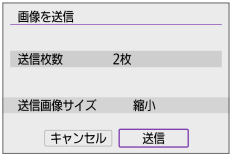
2 [検索結果全送信] を選ぶ

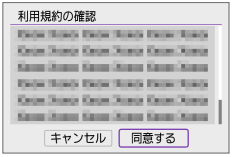


3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。







4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi 接続を終了します。

- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

- Web サービスに Wi-Fi 接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- CANON iMAGE GATEWAY 以外の Web サービスへ画像を送信した場合、その Web サービスへ送信できていないのに、送信エラーが表示されないことがあります。このような場合の送信エラーは、CANON iMAGE GATEWAY のサイトで確認できますので、エラーの内容をご確認の上、再度送信してください。

- Web サービスによっては送信できる画像の種類や数、動画の時間が制限されます。
- **【範囲指定で送信】**、**【カード内全送信】**または**【検索結果全送信】**で、一部の画像が送信できないことがあります。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画や **S2** サイズの静止画は縮小されません。
- **【縮小】**が有効になるのは、このカメラと同じ機種のカメラで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された静止画は、サイズを縮小せずに送信します。
- CANON iMAGE GATEWAY にアクセスすると、画像を送信した Web サービスの送信履歴が確認できます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

アクセスポイントを使用した Wi-Fi 接続

ここでは、WPS(PCB 方式）に対応したアクセスポイントを利用した Wi-Fi 接続の方法について説明しています。
あらかじめ、WPS 用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。
Wi-Fi 接続の開始から完了まで 1 分程度かかる場合があります。



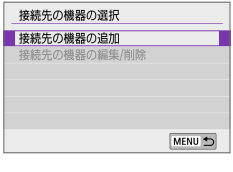
1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

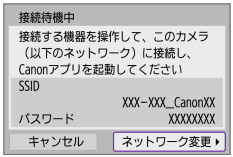
- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ

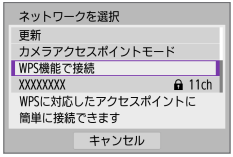


- [スマートフォンと通信] を選んだときは左の画面が表示されます。Camera Connect をインストール済みのときは [表示しない] を選びます。
- 次に表示される [スマートフォンと通信] の画面では [Wi-Fi 接続] を選んで〈SET〉を押します。



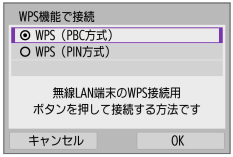
4 [ネットワーク変更] を選ぶ

- [□] [□] [□] を選んだときに表示されます。



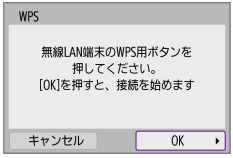
5 [WPS 機能で接続] を選ぶ

- 手順 5 の画面で表示される [カメラアクセスポイントモード] については、414 を参照してください。



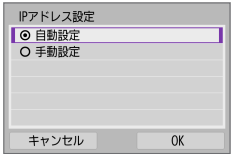
6 [WPS（PBC 方式）] を選ぶ

- [OK] を選びます。



7 アクセスポイントに Wi-Fi 接続する

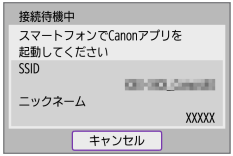
- アクセスポイントの WPS 用ボタンを押します。
- [OK] を選びます。



8 [自動設定] を選ぶ

- [OK] を選ぶと、Wi-Fi 機能に応じた設定画面が表示されます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、435 を参照してください。

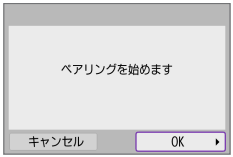
9 Wi-Fi 機能に応じた設定を行う



[スマートフォンと通信]

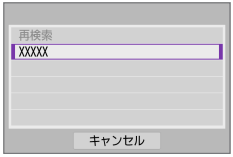
- スマートフォンの Wi-Fi 機能で、モニターに表示された SSID（ネットワーク名）をタッチして、接続するアクセスポイントのパスワードを入力します。

363 の手順 8 に進みます。



[EOS Utility でリモート操作]

380 の手順 7 または手順 8 に進みます。



[Wi-Fi 対応プリンターで印刷]

387 の手順 6 に進みます。

CANON iMAGE GATEWAY を登録する

398 の手順 5 に進みます。

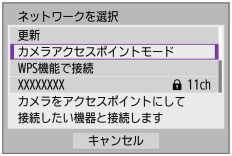
送信先画面

Web サービスによっては、送信先の選択画面が表示されることがあります。送信先の登録や送信時の設定は、パソコンで行います。設定方法については、EOS Utility の使用説明書を参照してください。



- **[送信先]** の画面が表示されることがあります。
- 登録した送信先の一覧から、送信先を選びます。
- 接続設定や画像の送信方法は、他の Web サービスと同じです。

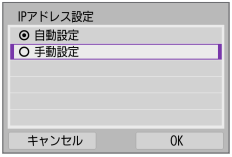
カメラアクセスポイントモード



カメラアクセスポイントモードは、カメラと各機器を直接 Wi-Fi 接続する方法です。**[(ᯤ):Wi-Fi/Bluetooth 接続]** で、**[📱]** **[💻]** **[🖨]** を選んだときに表示されます。

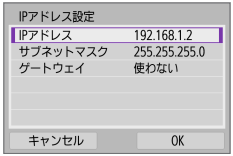
IP アドレスの手動設定

表示される項目は Wi-Fi 機能によって異なります。



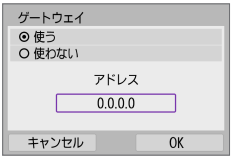
1 [手動設定] を選ぶ

- **[OK]** を選びます。



2 項目を選ぶ

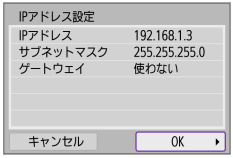
- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイを使う場合は、**【使う】**を選んでから**【アドレス】**を選びます。





3 数値を入力する

- 〈☁〉で上側の入力場所を選び、〈◀〉〈▶〉で入力する数値を選びます。〈SET〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順２の画面に戻ります。



4 【OK】を選ぶ

- 必要な項目の設定が完了したら**【OK】**を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、「ネットワークの設定を確認する」(📖449)を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

ワイヤレスリモコンと接続

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／📖471）と Bluetooth 接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。

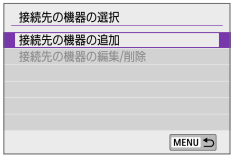


1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

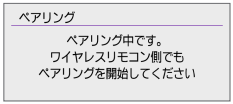
- [(ψ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



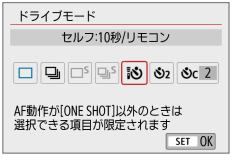
4 ペアリングする

- [ペアリング] の画面が表示されたら、BR-E1 の〈W〉ボタンと〈T〉ボタンを同時に 3 秒以上押します。
- 「****（BR-E1 の個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈SET〉を押します。

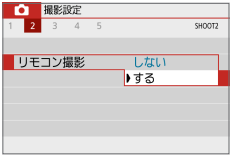
5 リモコン撮影できるように設定する

- [📷] タブの [ドライブモード] で [📡] を選びます（📖113）。

静止画撮影時



動画撮影時



- [📷] タブの [リモコン撮影] で [する] を選びます。

- このあとの操作は、BR-E1 の使用説明書を参照してください。

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth 接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

- Bluetooth 機能を使わないときは、手順 1 で [使わない] に設定することをおすすめします。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約 2 分になります。

ペアリング解除

他の BR-E1 とペアリングするときは、接続中のリモコンの登録を解除します。

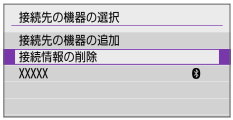


1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



3 [接続情報の削除] を選ぶ



4 [OK] を選ぶ

2 回目以降の Wi-Fi 接続

一度 Wi-Fi 接続して接続設定が登録された機器や Web サービスに、再度 Wi-Fi 接続する方法です。



1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

- 表示された履歴から、Wi-Fi 接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。
- [接続先履歴の表示] を [表示しない] に設定しているときは履歴は表示されません (422)。

3 接続先の機器を操作する

[] スマートフォンの場合

- Camera Connect を起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントに Wi-Fi 接続するように設定し直します。

  カメラとスマートフォンを直接 Wi-Fi 接続するときは、SSID の末尾に「_CanonOA」と表示されます。

[] パソコンの場合

- パソコンで EOS 用ソフトウェアを起動します。
- パソコンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントに Wi-Fi 接続するように設定し直します。

  カメラとパソコンを直接 Wi-Fi 接続するときは、SSID の末尾に「_CanonOA」と表示されます。

[🖶] プリンターの場合

- プリンターの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントに Wi-Fi 接続するように設定し直します。
  カメラとプリンターを直接 Wi-Fi 接続するときは、SSID の末尾に「_CanonOA」と表示されます。

複数の接続設定の登録

無線通信機能全体で、接続設定を 10 個まで登録することができます。



1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。
- [スマートフォンと通信] は「スマートフォンと通信」（📖352）を参照してください。
- [EOS Utility でリモート撮影] は「パソコンと Wi-Fi 接続」（📖378）を参照してください。
- [Wi-Fi 対応プリンターで印刷] は「プリンターと Wi-Fi 接続」（📖386）を参照してください。
- Web サービスへ画像を送信するときは「Web サービスへ画像を送信」（📖396）を参照してください。

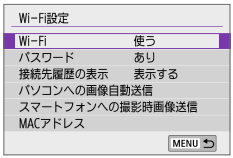
- 接続設定を削除するときは、📖430 を参照してください。

Wi-Fi 機能の設定



1 [Wi-Fi 設定] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの **[Wi-Fi 設定]** を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

- **Wi-Fi**
  飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**[使わない]** に設定してください。
- **パスワード**
  [なし] に設定すると、Wi-Fi 接続時のパスワードの入力を省略することができます（アクセスポイントとの Wi-Fi 接続時を除く）。
- **接続先履歴の表示**
  Wi-Fi 接続した機器の履歴を **[表示する]** ／ **[表示しない]** が設定できます。
- **パソコンへの画像自動送信**
  専用ソフトウェアの Image Transfer Utility 2 を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます（🕮383）。
- **スマートフォンへの撮影時画像送信**
  撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます（🕮365）。
- **MAC アドレス**
  カメラの MAC アドレスの確認ができます。

Bluetooth 機能の設定



1 [Bluetooth 設定] を選ぶ

- [(ᛒ)] タブの [Bluetooth 設定] を選び、〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

- **Bluetooth**
  Bluetooth 機能を使わないときは **[使わない]** を選びます。
- **接続先情報の確認**
  ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。
- **Bluetooth アドレス**
  カメラの Bluetooth アドレスを確認できます。
- **電源オフ中の通信**
  カメラとスマートフォンをペアリングすると表示されます。
  [する] を選ぶと、スマートフォンと電源オフ中のカメラを Wi-Fi 接続して、カメラ内の画像の閲覧などができます（🕮359）。

ニックネームの変更

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラのニックネームを変更することができます。



1 [ニックネーム] を選ぶ

- [(ψ)] タブの [ニックネーム] を選び、〈SET〉を押します。

2 仮想キーボード（📖434）で文字を入力する

- 入力が終了したら〈MENU〉ボタンを押し、[OK] を選びます。

GPS 機器を使用した位置情報の付加

GPS レシーバー GP-E2（別売）や Bluetooth 対応スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

GP-E2

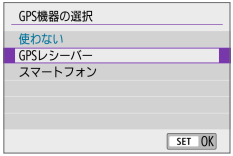
1 GP-E2 をカメラに取り付ける

- GP-E2 をカメラのアクセサリーシューに取り付けて電源を入れます。詳しくは GP-E2 の使用説明書を参照してください。



2 [GPS 機器の設定] を選ぶ

- [(ᵞ)] タブの [GPS 機器の設定] を選び、〈SET〉を押します。



3 [GPS 機器の選択] で [GPS レシーバー] を選ぶ

4 撮影する

- [設定] について、詳しくは GP-E2 の使用説明書を参照してください。

GP-E2 を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- GP-E2 のファームウェアを Ver.2.0.0 以上にアップデートしてください。ファームウェアをアップデートする際は、インターフェースケーブルが必要です。アップデートの方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- このカメラと GP-E2 を、ケーブルで接続して使用することはできません。
- このカメラでは撮影方位は記録されません。

スマートフォン

スマートフォンに専用アプリケーションの Camera Connect をインストール（📖353）してから設定を行ってください。

1 スマートフォンの位置情報機能をオンにする

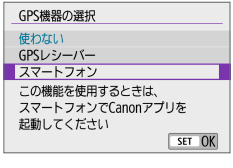
2 Bluetooth 接続する

- カメラとスマートフォンを Bluetooth 接続します（📖354）。



3 [GPS 機器の設定] を選ぶ

- 【(ᯤ)】タブの【**GPS 機器の設定**】を選び、〈**SET**〉を押します。



4 [GPS 機器の選択] で［スマートフォン］を選ぶ

- 設定後に Camera Connect を起動します。

5 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS 接続表示

静止画撮影画面（🕮183）または動画撮影画面（🕮223）の GPS 接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

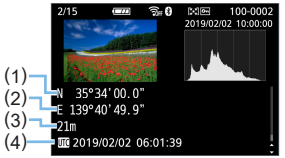
なお、GP-E2 使用時の GPS 接続表示については、GP-E2 の使用説明書を参照してください。

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPS アイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面（🕮102）で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



(1) 緯度
(2) 経度
(3) 標高
(4) 協定世界時

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth 接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
  - ワイヤレスリモコンと Bluetooth 接続する
  - カメラの電源を切る
  - Camera Connect を終了する
  - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
  - カメラの電源が切れる
  - Bluetooth 接続が終了する
  - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

接続設定の変更／削除

接続設定の変更や削除は、Wi-Fi 接続を終了してから行います。



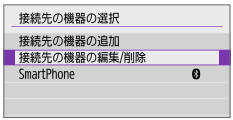
1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



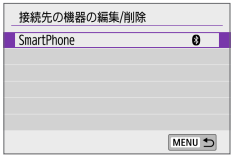
2 項目を選ぶ

- 履歴（📖419）が表示されたときは、〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の編集 / 削除] を選ぶ

- [ᛒ] がグレーで表示されたスマートフォンを選ぶと、Bluetooth 接続を切り換えることができます。[スマートフォンと通信] の画面が表示されたら [Bluetooth 接続] を選び、次の画面で〈SET〉を押します。



4 接続設定の変更や削除を行う機器を選ぶ



5 項目を選ぶ

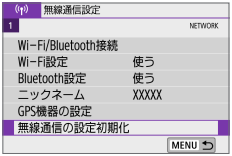
- 表示される画面で接続設定の変更や削除を行います。

- **ニックネームの変更**
  ニックネームを仮想キーボード（📖434）で変更できます。
- **公開画像の設定（📖374）**
  [📱 スマートフォンと通信] を選んだときに表示されます。設定した内容が画面の下側に表示されます。
- **接続情報の削除**
  ペアリング中のスマートフォンの接続設定を削除したときは、スマートフォンのカメラの登録も解除してください（📖360）。

- Web サービスの接続設定は、CANON iMAGE GATEWAY の Web サイトで削除します。

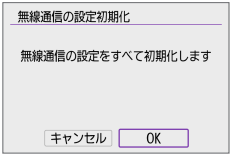
無線通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。



1 [無線通信の設定初期化] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの **[無線通信の設定初期化]** を選び、〈SET〉を押します。



2 [OK] を選ぶ

- **[🔧：カメラ設定初期化]** を行っても、無線通信の設定情報は削除されません。
- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンの Bluetooth 設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

情報表示画面

エラーの内容とカメラの MAC アドレスを確認することができます。



1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選ぶ

- [(ᯤ)] タブの [Wi-Fi/Bluetooth 接続] を選び、〈SET〉を押します。



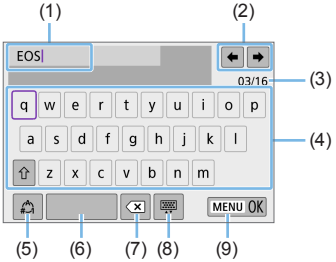
2 〈INFO〉ボタンを押す

➡ [情報表示] の画面が表示されます。



- エラーが発生しているときに〈SET〉を押すと、エラーの内容が表示されます。

仮想キーボードの操作方法



(1) 文字を入力するエリア（入力エリア）	(6) スペース
(2) 入力エリアでのカーソルの移動	(7) 入力エリアでの文字の削除
(3) 入力した文字数 / 入力できる文字数	(8) キーボードの種類の変更
(4) キーボード	(9) 入力の終了
(5) 入力モードの切り換え	

- (2)、(4) ～ (8) は〈✣〉十字キーで移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈SET〉を押します。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- **[情報表示]** の画面で〈SET〉を押す（📖433）。
- **[Wi-Fi 動作中]** の画面で **[エラー内容の表示]** を選ぶ。

下記のエラー番号のページをクリックすると該当ページにジャンプします。

11 (📖436)	12 (📖436)	21 (📖437)	22 (📖438)
23 (📖439)	61 (📖440)	63 (📖441)	64 (📖441)
65 (📖442)	66 (📖442)	67 (📖442)	68 (📖443)
69 (📖443)	91 (📖443)	121 (📖443)	125 (📖444)
126 (📖444)	127 (📖444)	141 (📖444)	142 (📖444)
151 (📖445)	152 (📖445)		

- エラーが発生したときは、**[(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth 接続]** の画面の右上に **[Err**]** と表示されます。カメラの電源を〈OFF〉にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- 【📱】の場合、Camera Connect は起動していますか？
  ➡ Camera Connect から接続操作を行ってください（📖363）。
- 【💻】の場合、EOS 用ソフトウェアは起動していますか？
  ➡ EOS 用ソフトウェアを起動して、再度接続操作を行ってください（📖380）。
- 【🖨】の場合、プリンターの電源は入っていますか？
  ➡ プリンターの電源を入れてください。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  ➡ 暗号化の認証方式が **【オープン】** の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。
  大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（📖434）。

12：接続先が見つかりません

- 接続先の機器とアクセスポイントの電源は入っていますか？
  ➡ 接続先の機器とアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCP サーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- カメラの設定が IP アドレス【**自動設定**】になっています。この設定で間違いありませんか？
  - ➡ DHCP サーバーを使用していない場合は、カメラを IP アドレス【**手動設定**】にして設定を行ってください（📖414）。

DHCP サーバーの確認内容

- DHCP サーバーの電源は入っていますか？
  - ➡ DHCP サーバーの電源を入れてください。
- DHCP サーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
  - ➡ DHCP サーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
  - ➡ DHCP サーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCP サーバーは正常に機能していますか？
  - ➡ DHCP サーバーの設定を確認して、DHCP サーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DHCP サーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

22：DNS サーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- カメラに設定している DNS サーバーの IP アドレスは合っていますか？
  - ➡ IP アドレス【手動設定】にして、使用する DNS サーバーと同じ IP アドレスをカメラに設定してください（📖414、📖449）。

DNS サーバーの確認内容

- DNS サーバーの電源は入っていますか？
  - ➡ DNS サーバーの電源を入れてください。
- DNS サーバーに IP アドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
  - ➡ DNS サーバーに IP アドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNS サーバーは正常に機能していますか？
  - ➡ DNS サーバーの設定を確認して、DNS サーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DNS サーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- Wi-Fi 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（📖414、📖449）。
  - ➡ カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：ネットワーク上に同じ IP アドレスの機器が存在します

カメラの確認内容

- カメラと同じネットワークに Wi-Fi 接続している機器が、カメラと同じ IP アドレスを使用していませんか？
  - ➡ カメラの IP アドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器と IP アドレスが重複しないようにしてください。または、IP アドレスが重複している他の機器の IP アドレスを変更してください。
  - ➡ DHCP サーバーを使用するネットワーク環境で、カメラが IP アドレス **【手動設定】** の設定になっているときは、IP アドレス **【自動設定】** の設定にしてください（📖412）。

エラー 20 番台の対応について

- エラー 21 ～ 23 が表示された場合は、下記の確認も行ってください。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**
  - 暗号化の認証方式が **【オープン】** の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（📖434）。

61：同じ SSID の無線 LAN ネットワークがみつかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  ➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動してください（🕮446）。

カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じ SSID を設定していますか？
  ➡ アクセスポイントの SSID を確認して、同じ SSID をカメラに設定してください。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
  ➡ アクセスポイントの電源を入れてください。
- MAC アドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  ➡ 使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録してください。MAC アドレスは **[情報表示]** の画面（🕮433）で確認できます。

63：無線 LAN の認証に失敗しました

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証方式を設定していますか？
  ➡ カメラで設定できる認証方式は、**[オープン]**、**[共有キー]**、**[WPA/WPA2-PSK]** です。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。
- MAC アドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  ➡ 使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録してください。MAC アドレスは **[情報表示]** の画面（📖433）で確認できます。

64：無線 LAN 端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
  ➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AES です。
- MAC アドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  ➡ 使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録してください。MAC アドレスは **[情報表示]** の画面（📖433）で確認できます。

65：無線 LAN の接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  ➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください（📖446）。
- 何らかの理由で、Wi-Fi 接続が切れ、再接続できない状態になっています。
  ➡ アクセスポイントにほかの機器からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz 帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます（📖446）。

66：無線 LAN のパスワードが違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。

67：無線 LAN の暗号方式が違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
  ➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AES です。
- MAC アドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  ➡ 使用しているカメラの MAC アドレスをアクセスポイントに登録してください。MAC アドレスは **[情報表示]** の画面（📖433）で確認できます。

68：無線 LAN 端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- アクセスポイントの WPS（Wi-Fi Protected Setup）ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押し続けましたか？
  ➡ WPS ボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押し続けてください。
- アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？
  ➡ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線 LAN 端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかのアクセスポイントが WPS（Wi-Fi Protected Setup）の PBC 方式（プッシュボタン接続方式）で接続操作を行っています。
  ➡ しばらく待ってから接続操作を行ってください。

91：その他のエラー

- エラー 11 ～ 69 以外の異常が発生しました。
  ➡ カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- 送信先 Web サーバーの空き容量が不足しています。
  ➡ Web サーバー内の不要な画像を削除し、Web サーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
  ➡ ネットワークの接続状態を確認してください。

126：サーバーと接続できませんでした

- CANON iMAGE GATEWAY がメンテナンス中か、一時的に負荷が集中しています。
  ➡ しばらくしてから Web サービスの接続をやり直してください。

127：エラーが発生しました

- Web サービスの接続中に、エラー 121 ～ 126 以外の異常が発生しました。
  ➡ Web サービスの Wi-Fi 接続をやり直してください。

141：プリンターは処理中です。もう一度接続してください

- プリンターが印刷中ではありませんか？
  ➡ 印刷が終わってから Wi-Fi 接続をやり直してください。
- プリンターにほかのカメラが Wi-Fi 接続していませんか？
  ➡ ほかのカメラの Wi-Fi 接続を終了してから、Wi-Fi 接続をやり直してください。

142：プリンター情報の取得に失敗しました。もう一度接続してください

- プリンターの電源は入っていますか？
  ➡ プリンターの電源を入れてから、Wi-Fi 接続をやり直してください。

151：送信を中止しました

- 何らかの理由で、パソコンへの画像の自動送信が中断されました。
  ➡ カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから再度〈ON〉にすると、自動送信が再開されます。

152：カードのスイッチが書き込み禁止位置になっています

- カードの書き込み禁止スイッチが、書き込み禁止位置になっていませんか？
  ➡ カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み可能位置にしてください。

無線通信機能での注意事項

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth 接続は可能でも Wi-Fi 接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけて Wi-Fi 接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響で Wi-Fi の通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラの IEEE 802.11b/g/n は、2.4GHz 帯の電波を使用して Wi-Fi の通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用する Bluetooth 機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うと Wi-Fi の通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1 つのアクセスポイントに複数のカメラを Wi-Fi 接続するときは、カメラの IP アドレスが重複しないよう注意してください。
- 1 つのアクセスポイントに複数のカメラを Wi-Fi 接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz 帯）のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fi のチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように 5 チャンネル分、間を開けてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 の使用について

- カメラとスマートフォンが Bluetooth 接続されているときは、BR-E1 を使用することはできません。【(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth 接続】の【 ワイヤレスリモコンと接続】で、カメラの接続先をワイヤレスリモコンに変更してください。

セキュリティーについて

セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- **通信の傍受**
  悪意ある第三者によって Wi-Fi の電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- **ネットワークへの不正アクセス**
  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難･改ざん･破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティーを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

- **Windows の場合**
  Windows の【コマンドプロンプト】を開き、ipconfig/all と入力して〈Enter〉キーを押します。
  パソコンに割り当てられている IP アドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバーの情報が表示されます。
- **Mac OS の場合**
  Mac OS Xの【ターミナル】を開き、ifconfig -aと入力して〈Return〉キーを押します。【en0】項目【inet】の ***.***.***.*** がパソコンに割り当てられている IP アドレスです。
  * 【ターミナル】については、Mac OS X のヘルプを参照してください。

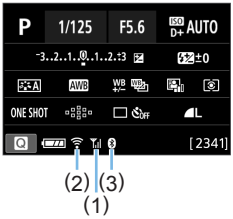
なお、📖414 でカメラに割り当てる IP アドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器と IP アドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例）192.168.1.10

無線通信機能の接続状態

液晶モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。

クイック設定画面



再生時の情報表示画面



(1) 電波強度
(2) Wi-Fi 機能
(3) Bluetooth 機能

通信状態		液晶モニター	
		Wi-Fi 機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない	OFF	消灯
	Wi-Fi：使う	OFF	
接続開始		（点滅）	
接続中			
送信中		（←→）	
接続エラー		（点滅）	

Bluetooth 機能の表示

Bluetooth 機能	接続状態	液晶モニター
[使わない] 以外	Bluetooth 接続中	
	Bluetooth 未接続	
[使わない]	Bluetooth 未接続	非表示

- スマートフォンとの Wi-Fi 接続時、またはパソコンへの画像の自動送信時は「Bluetooth 接続中」になります。
- パソコン、プリンター、Web サービスとの Wi-Fi 接続時は「Bluetooth 未接続」になります。

カメラの機能を自分好みに変更する

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。カスタム機能は、応用撮影ゾーンで設定・機能します。



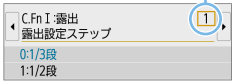
カスタム機能の設定方法

応用



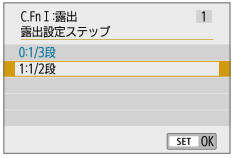
1 [カスタム機能（C.Fn）]を選ぶ

- [ ] タブの [**カスタム機能（C.Fn）**] を選び、〈SET〉を押します。



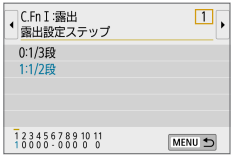
2 カスタム機能番号（1）を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。



3 設定を変更する

- 〈▲〉〈▼〉を押して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順 2、3 を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。



4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順 1 の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

[：**設定解除**] で [**カスタム機能（C.Fn）一括解除**] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます（273）。

カスタム機能一覧

C.Fn I：露出

			LV 撮影	動画撮影
1	露出設定ステップ	455	○	○
2	ISO 感度拡張	455	○	○
3	セイフティシフト	456		
4	露出補正の自動解除	456	○	○

C.Fn II：ドライブ

5	ミラーアップ撮影	456		

C.Fn III：操作・その他

6	ファインダー内 ❗ 警告の項目	457		
7	シャッターボタン /AE ロックボタン	458	○	○
8	SET ボタンの機能	459	○ （3 を除く）	○ （4、5 のみ *）
9	DISP ボタンの機能	460	○ （4 を除く）	○ （1 を除く）
10	電源〈ON〉時のモニター点灯	460		
11	電源オフ時のレンズ収納	461	○	○

* 動画撮影中は、4 の設定は機能しません。

- ▭ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

カスタム機能で変更できる内容

応用

カスタム機能は、機能ごとに 3 つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：ドライブ」、「C.Fn III：操作・その他」）に分類されています。

C.Fn I：露出

C.Fn-1 露出設定ステップ

0：1/3 段

1：1/2 段

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを 1/2 段ステップにすることができます。1/3 段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

- ファインダー内表示では、1 設定時の露出レベル表示は図のようになります。



C.Fn-2 ISO 感度拡張

0：しない

1：する

ISO 感度を設定するときに、静止画撮影時：「**H**」（ISO51200 相当）、動画撮影時：「**H**」（ISO25600 相当）が選択できるようになります。なお、**[📷：高輝度側・階調優先]** を **[する]** **[強]** に設定したときは、「**H**」は選択できません。

- 4K 動画設定時は **[ISO 感度拡張]** を **[1：する]** に設定しても、ISO 感度の設定は ISO100 ～ 6400 になります。

C.Fn-3 セイフティシフト

0：しない

1：する

〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで設定したシャッタースピードや絞り数値で標準露出が得られないとき、標準露出に近づけるように自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されるようになります。

C.Fn-4 露出補正の自動解除

0：する

電源スイッチを〈OFF〉にすると、露出補正の設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチを〈OFF〉にしても、露出補正の設定は記憶されます。

C.Fn II：ドライブ

C.Fn-5 ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、カメラ内部の機械的な振動（ミラーショック）によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、166 ページを参照してください。

C.Fn III：操作・その他

C.Fn-6 ファインダー内〈!〉警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダーの左下に〈**!**〉を表示することができます（📖32）。クイック設定画面（📖58）にも、〈**!**〉が表示されます。

警告表示を行う対象を選び、〈SET〉を押して**[✓]**を付けて、**[OK]**を選びます。

モノクロ設定時：

ピクチャースタイルが**［モノクロ］**に設定されているときに（📖122）、警告表示が行われます。

ホワイトバランス補正時：

ホワイトバランス補正が設定されているときに（📖134）、警告表示が行われます。

設定時：

［📷：高感度撮影時のノイズ低減］が**［マルチショットノイズ低減機能］**に設定されているときに（📖139）、警告表示が行われます。

スポット測光設定時：

［📷：測光モード］が**［スポット測光］**に設定されているときに（📖159）警告表示が行われます。

- **［⚙：撮影画面表示］**を**［やさしい］**に設定しているときは機能しません（設定が無効になります）。

C.Fn-7 シャッターボタン /AE ロックボタン

0：AF/AE ロック

1：AE ロック /AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンで AF 作動、シャッターボタン半押しで AE ロック（露出決定）することができます。

2：AF/AF ロック（AE ロックなし）

AI サーボ AF（ライブビュー撮影時は、サーボ AF）中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないように、〈✱〉ボタンで AF の作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AE ロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体を撮影するときに有効です。AI サーボ AF（ライブビュー撮影時は、サーボ AF）時は、〈✱〉ボタンで AI サーボ AF の作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

動画撮影時

- 1、3 設定時は、〈✱〉ボタンでワンショット AF が行われます。

C.Fn-8 SET ボタンの機能

よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押すと、割り当てた機能の設定画面が表示されます。

0：クイック設定画面

クイック設定画面（🕮58）が表示されます。

1：記録画質選択

記録画質の設定画面が表示されます。

2：調光補正

調光補正の設定画面が表示されます。

3：モニターの入 / 切

液晶モニターを、点灯／消灯することができます。

4：メニュー表示

メニュー画面が表示されます。

5：露出補正（押しながら ）

〈SET〉を押しながら〈 〉を回すと、露出補正を行うことができます。〈**M**〉マニュアル露出＋ ISO オート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。

6：ストロボ機能設定

内蔵ストロボ、または外部ストロボ機能設定の画面が表示されます。

7：絞り込み

設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う範囲（被写界深度）を、ファインダー、またはライブビュー映像で確認することができます。

C.Fn-9 DISP ボタンの機能

よく使う機能を、〈DISP〉ボタンに割り当てられます。撮影準備状態で〈DISP〉を押すと、割り当てた機能の設定画面が表示されます。

0：モニターの入 / 切

液晶モニターを、点灯／消灯することができます。

1：絞り込み

設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う範囲（被写界深度）を、ファインダー、またはライブビュー映像で確認できます。

2：Wi-Fi/Bluetooth 接続

Wi-Fi/Bluetooth 接続の設定画面が表示されます。Wi-Fi 接続中は、**[Wi-Fi 動作中]** の画面が表示されます。

3：モニターを一時的に明るくする

液晶モニターを一時的に明るくできます。

4：動画サーボ AF 一時停止

動画サーボ AF を一時停止できます。

C.Fn-10 電源〈ON〉時のモニター点灯

0：点灯

電源を入れるとクイック設定画面（🕮58）が表示されます。

1：電源〈OFF〉時の状態を保持

電源を入れたときに、前回電源を切ったときの液晶モニターの表示状態で、起動します。そのため、液晶モニターが消えている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときには何も表示されませんので、電池の消耗を少なくしたいときに有効です。なお、メニュー操作や再生操作は、通常どおり行うことができます。

C.Fn-11 電源オフ時のレンズ収納

ギアタイプの STM レンズ（EF40mm F2.8 STM など）をカメラに取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

- オートパワーオフのときは設定に関わらず、レンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

- 0 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF ／ MF）に関わらず機能します。

マイメニューを登録する

応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。また、登録したタブに名前を付けたり、〈MENU〉ボタンを押したときにマイメニュータブから表示することもできます。

- **[: メニュー表示]** を **[やさしい]** に設定しているときは **[★]** タブは表示されません。**[メニュー表示]** を **[標準]** に変更してください（📖54）。

マイメニュータブを追加（作成）する



1 [マイメニュータブの追加] を選ぶ

- **[★]** タブの **[マイメニュータブの追加]** を選び、〈SET〉を押します。



2 [OK] を選ぶ

➡ [MY MENU1] タブが作成されます。

- 手順 1、2 を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

マイメニュータブに項目を登録する

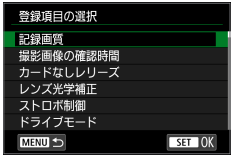


1 [設定 : MY MENU ∗] を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して **[設定 : MY MENU ∗]**（項目を登録するタブ）を選び、〈SET〉を押します。



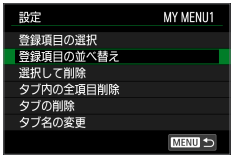
2 [登録項目の選択] を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6 項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順 2 の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**
  登録した項目の並び順を変えることができます。**[登録項目の並べ替え]** を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。**[◆]** が表示された状態で〈▲〉〈▼〉を押して並び順を変え、〈SET〉を押します。
- **選択して削除／タブ内の全項目削除**
  登録した項目を削除することができます。**[選択して削除]** を選ぶと 1 項目ずつ削除、**[タブ内の全項目削除]** を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。
- **タブの削除**
  現在設定しているタブを削除することができます。**[タブの削除]** を選ぶと、[MY MENU ∗] のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**

タブの名称を [MY MENU ＊] から任意の名称に変更することができます。



1 [タブ名の変更] を選ぶ

2 文字を入力する

- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〈✥〉十字キーで□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- [✍] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 最大 16 文字入力できます。
- 画面右上の [⬅] [➡] を選ぶか、〈◌〉を回すと、入力位置を移動できます。
- 入力をキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押して [キャンセル] を選びます。

3 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

➡ 設定した内容が保存されます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除

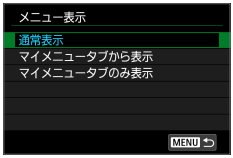


作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**
  作成したタブをすべて削除することができます。**[マイメニュータブの全削除]**を選ぶと、[MY MENU1] ～ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、**[★]** タブが初期状態に戻ります。
- **全項目削除**
  [MY MENU1] ～ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。**[全項目削除]**を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

- **[タブの削除]** **[マイメニュータブの全削除]** を行うと、**[タブ名の変更]** で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



- **［メニュー表示］**を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**
  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。
- **マイメニュータブから表示**
  ［★］タブの画面から表示されます。
- **マイメニュータブのみ表示**
  ［★］タブの画面だけが表示されます（**［📷］［▶］［📡］［🔧］［⚙］**タブは表示されません）。

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

認証マークについて

- **[：認証マーク表示]** を選び〈**SET**〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

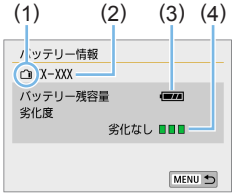
電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。



[バッテリー情報] を選ぶ

- [ ] タブの **[バッテリー情報]** を選び、〈SET〉を押します。



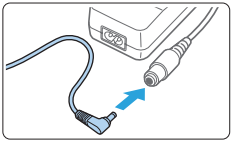
(1) 電池位置
(2) 使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。
(3) 電池残量（📖43）が表示されます。
(4) 電池の劣化状態が 3 段階で表示されます。
■■■：劣化していません
■■□：少し劣化しています
■□□：バッテリーの買い換えをおすすめします

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E17 のご使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

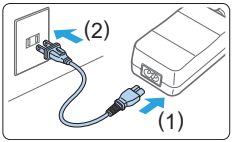
家庭用電源を使う

DC カプラー DR-E18（別売）と AC アダプター AC-E6N（別売）を使うと、家庭用電源を使用してカメラを使うことができます。



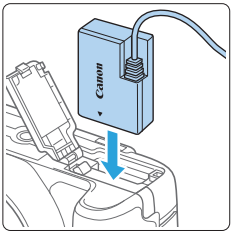
1 DC カプラーのプラグを接続する

- DC カプラーのプラグを、AC アダプターのソケットに接続します。



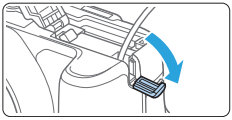
2 電源コードを接続する

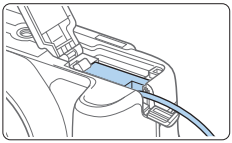
- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。



3 DC カプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーをロック位置までしっかりと入れます。





4 DC コードを通す

- DC コード通し部のカバーを開き、図のようにコードを通します。
- ふたを閉じます。

- カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

リモコン撮影

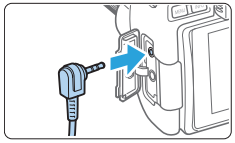
ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）

カメラから最大約 5m 離れてリモコン撮影を行うことができます。
最初にカメラと BR-E1 のペアリングを行なってから、ドライブモードを【[icon]】に設定してください（🕮113）。
操作方法については、BR-E1 の使用説明書を参照してください。

リモートスイッチ RS-60E3（別売）

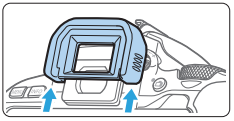
コード長約 60cm のリモートスイッチ RS-60E3 に対応しています。カメラのリモコン端子につないで、シャッターボタンと同じように半押し／全押しを行うことができます。





- 動画撮影時も、リモコン撮影ができます（🕮253）。

アイカップの外しかた



- アイカップの下側を押して取り外します。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- 純正のバッテリーパック LP-E17 を使用してください。

充電器のランプが点滅する

- （1）充電器または電池に異常が発生した場合や、（2）電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色の充電ランプが点滅します。（1）の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（🕮37）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉まっているか確認してください（🕮37）。
- 電池を充電してください（🕮35）。
- 〈DISP〉ボタンを押してください（🕮69）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

[バッテリー通信エラー：ご使用のバッテリーに Canon のロゴはありますか？] と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E17 を使用してください。
- 電池の出し入れを行ってください（📖37）。
- 電池の接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（📖35）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。**[🔧：バッテリー情報]** で電池の劣化状態を確認してください（📖468）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - AF のみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使う
  - 液晶モニターを頻繁に使用する
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
  - Bluetooth 機能を使用する
  - Wi-Fi 機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、**[🔧：オートパワーオフ]** を **[しない]** にしてください（📖263）。
- **[🔧：オートパワーオフ]** を **[しない]** に設定していても、カメラを約 30 分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。〈DISP〉ボタンを押すと液晶モニターが点灯します。

撮影関連

レンズが装着できない

- RF レンズ、EF-M レンズは装着できません（🕮48）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（🕮37）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（🕮37）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（🕮37、🕮313）。
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（🕮51、🕮112）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、38 ページ、486 ページを参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXC カードは exFAT 形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（📖48）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（📖50～📖51）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする（📖150）、ISO 感度を上げる（📖119、ストロボを使用する（📖170）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF 動作をワンショット AF にしてください。AI サーボ AF、および AI フォーカス AF でサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（📖194）。

画像に横縞が写る／露出や色あいがおかしい

- 蛍光灯や LED 照明などの光源下で、ファインダー撮影、ライブビュー撮影を行うと、横縞（ノイズ）や露出ムラが発生することがあります。また、露出（明るさ）や色あいが適切にならないことがあります。なお、シャッタースピードを遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

標準露出にならない／露出ムラが出る

- ファインダー撮影時またはライブビュー撮影時に、TS-E レンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

連続撮影速度が遅い

- シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、温度、電池の種類、電池残量、撮影機能の設定などにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。詳しくは 113 ページを参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、少なくなることがあります。

ISO100 に設定できない

- **[📷：高輝度側・階調優先]** が **[する] [強]** に設定されているときは、ISO100 に設定できません。**[しない]** に設定すると、ISO100 が設定できるようになります（📖138）。動画撮影時も同様です（📖222）。

拡張 ISO 感度が選択できない

- **[📷：高輝度側・階調優先]** が **[する] [強]** に設定されているときは、**[ISO 感度拡張]** を **[1：する]** に設定しても、ISO 感度の設定範囲は ISO200 ～ 25600（動画撮影時は 12800、ただし 4K 動画は 6400）になります。**[📷：高輝度側・階調優先]** を **[しない]** に設定すると、ISO 感度 **[H]** が設定できるようになります（📖138）。動画撮影時も同様です（📖222）。

オートライティングオプティマイザが設定できない

- **[📷：高輝度側・階調優先]** が **[する] [強]** に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。**[しない]** に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります（📖138）。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

- **[📷：オートライティングオプティマイザ]** を **[しない]** に設定してください。**[標準 / 弱め / 強め]** に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります（📖136）。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボの調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。外部ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

カメラを振ると音がする

- カメラ内部の機構がわずかに動くときに小さな音がすることがあります。

ライブビュー撮影でシャッター音が２回する

- ストロボ撮影時は、１回の撮影でシャッター音が２回します（📖182）。

ライブビュー撮影時に、白い 🔥 と赤い 🔥 が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🔥〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🔥〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています（📖214）。

動画撮影時に赤い 🔥 が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い〈🔥〉が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（📖259）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、7 ページを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから 29 分 59 秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時に ISO 感度が設定できない

- 撮影モードが〈**M**〉以外のときは、ISO 感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときは、ISO 感度を任意に設定することができます(🕮222)。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯や LED 照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出(明るさ)や色あいの変化が記録されることがあります。なお、〈**M**〉モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

無線通信機能関連

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1 以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth 機能を ON にしてください。
- スマートフォンの Bluetooth 機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションの Camera Connect（無料）インストールしてください（🕮353）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンの Bluetooth 設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（🕮360）。

Wi-Fi 機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi 機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（🕮349）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi 接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi 接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi 接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi 接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じ SSID を選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンの Wi-Fi 設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connect を起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connect を一旦終了させてから再起動してください。

操作関連

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- **[🔧：カスタム機能（C.Fn)]** の **[SET ボタンの機能]** の設定内容を確認してください（📖459）。
- 動画撮影時は **[🔧：動画撮影時シャッターボタンの機能]** の設定を確認してください（📖256）。

タッチ操作時の電子音が、急に小さくなった

- スピーカーを、指でふさいでいないか確認してください（📖28）。

タッチ操作ができない

- **[🔧：タッチ操作]** が **[標準]** または **[敏感]** に設定されているか確認してください（📖66）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（📖60）。
- **[★]** タブの **[メニュー表示]** が **[マイメニュータブのみ表示]** に設定されています（📖466）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間を sRGB に設定してください。Adobe RGB に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（📖146）。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです（📖269）。

画像番号が 0001 から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（📖268）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付 / 時刻が正しく設定されているか確認してください（📖44）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（📖44）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付 / 時刻を入れることができます（📖319）。

［＃＃＃］が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます（📖293）。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ハイライト警告表示です（🕮330）。露出オーバーで白とびした部分が点滅します。

画像を消去できない

- プロテクトがかかっている画像は消去できません（🕮310）。

動画が再生できない

- パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします（🕮252）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（🕮221）。

テレビに画像が表示されない

- **[🔧：ビデオ方式]** の **[NTSC] [PAL]** の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMI ケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（🕮308）。

動画ファイルが複数作成される

- 1 回の撮影でファイルサイズが 4GB を超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（🕮229）。ただし、SDXC カードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1 回の撮影でファイルサイズが 4GB を超えても 1 つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXC カードは、お使いのカードリーダーやパソコンの OS の種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS 用ソフトウェアの EOS Utility を使って、画像を取り込んでください。

画像をリサイズできない

- JPEG の **S2** と RAW 画像は、カメラでリサイズできません（📖341）。

画像をトリミングできない

- RAW 画像は、カメラでトリミングできません（📖343）。

画像に赤い枠が表示される

- **[▶：AF フレーム表示]** が **[する]** に設定されています（📖326）。

画像に赤い枠が表示されない

- **[▶：AF フレーム表示]** を **[する]** に設定していても（📖326）、下記の画像には表示されません。
  - マルチショットノイズ低減機能で撮影した画像（📖139）
  - 〈**SCN**：🌃 🏃〉〈🎨：HDR HDR HDR HDR〉で撮影した画像
  - トリミングした画像（📖343）
  - 撮影後に、魚眼風のフィルター処理を行った画像（📖332）

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。**[🔧：センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング]** を行うと（📖275）、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- **[今すぐクリーニング]** を選んだときは、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません（📖275）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがあります（📖42）。

パソコン接続関連

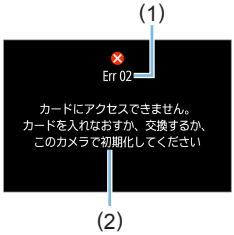
カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS 用ソフトウェアの EOS Utility を使用するときは、**[📷：タイムラプス動画]** を **[しない]** に設定してください（📖238）。

パソコンに画像が取り込めない

- EOS 用ソフトウェアをパソコンにインストールしてください（📖491）。
- Wi-Fi 接続中は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続することはできません。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

(1) エラー番号
(2) 原因・対処方法

番号	メッセージ／対処方法
01	**カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください**
	カメラ／レンズの接点清掃、純正レンズを使用、電池の出し入れ
02	**カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください**
	カード抜き差し、カード交換、カード初期化
04	**カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください**
	カード交換、不要画像の消去、カード初期化
06	**センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください**
	電源スイッチ操作
07, 10 20, 30 40, 50 60, 70 80	**エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、バッテリーを入れなおしてください**
	電源スイッチ操作、バッテリーの出し入れ、純正レンズを使用

* **上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて修理受付窓口にご相談ください。**

商標について

- Adobe は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OS は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
- SDXC ロゴは、SD-3C, LLC. の商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- DCF *は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setup を意味しています。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4 使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C.
SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

* 規定により英語で表記しています。

第三者のソフトウェアについて

本製品には、以下に示す第三者のソフトウェアが含まれています。

● AES-128 Library

Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

LICENSE TERMS

The redistribution and use of this software (with or without changes) is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

1. source code distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer;
2. binary distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in their documentation;
3. the name of the copyright holder is not used to endorse products built using this software without specific written permission.

DISCLAIMER

This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties in respect of its properties, including, but not limited to, correctness and/or fitness for purpose.

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

- バッテリーパック LP-E17 は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後 7 年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応 OS が変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む

ソフトウェアについて

ソフトウェアのダウンロード／インストール

EOS 用または専用ソフトウェアを使うときは、最新版のソフトウェアをご使用ください。EOS 用または専用ソフトウェアをダウンロードする際に、カメラ底面に記載のシリアル番号入力が必要になります。

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、パソコンに EOS 用ソフトウェアをインストールすることはできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影した画像をパソコンで正しく表示できません。また、このカメラで撮影した RAW 画像の処理はできません。
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、必ず最新版にアップデート（上書きインストール）してください。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記の Web サイトにアクセスしてください。

canon.jp/eos-sw

- ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。

Windows　：表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

Macintosh：dmg ファイルが生成 / 表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

(1) dmg ファイルをダブルクリックする

➡ デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。

インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

(2) インストーラーファイルをダブルクリックする
➡ インストーラーが起動します。

2 画面の指示に従って、インストールする

ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）のダウンロードと見かた

ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）のダウンロードは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロードはできません。

1 ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記の Web サイトにアクセスしてください。

canon.jp/eos-sw-manual

2 ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）を見る

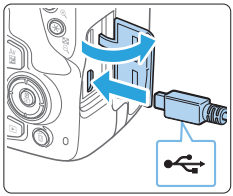
- ダウンロードした使用説明書（PDF ファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDF ファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DC などの Adobe 社製 PDF 閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DC はインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF 閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

パソコンに画像を取り込む

EOS 用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2 通りあります。

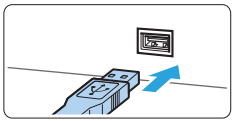
カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1 ソフトウェアをインストールする (📖491)



2 インターフェースケーブル (別売) で、カメラとパソコンを接続する

- カメラ側を接続するときは、プラグの〈↔〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。



- パソコンの USB 端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utility を使って画像を取り込む

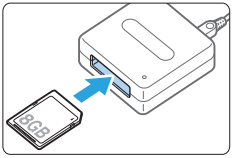
- EOS Utility 使用説明書を参照してください。

- Wi-Fi 接続中は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続することはできません。

カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする (📖491)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professional を使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional 使用説明書を参照してください。

- EOS 用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

索 引

数字

1 点 AF：109, 196, 198
1 枚撮影：113
1 枚表示：102
[4K] 3840 × 2160（動画）：227
4K フレームキャプチャー：304
9 点自動選択 AF：109
10 秒後 /2 秒後撮影：205
1280 × 720（動画）：227
1920 × 1080（動画）：227

アルファベット

A

AC アダプター：469
Adobe RGB：146
AEB：163, 455
AE ロック：165
AF
　AF 動作：105, 194
　AF の苦手な被写体：111, 201
　AF 方式：196, 254
　AF 補助光：107, 168
　構図変更：75
　コンティニュアス AF：204
　手動ピント合わせ：112
　電子音：262
　瞳 AF：203
　ピンボケ：50, 111, 201
AI FOCUS（AI フォーカス AF）：107
AI SERVO（AI サーボ AF）：75, 107
Av（絞り優先 AE）：153
〈A+〉（シーンインテリジェントオート）：71

B

BGM：340
Bluetooth 機能：352, 416
　アドレス：423
　接続：354
BULB（バルブ撮影）：158

D

DC カプラー：469
DISP ボタン：28, 69, 263, 274
DPOF：319

E

exFAT：68, 229

F

FEB：177
FE ロック：173
Full HD（動画）：227

G

GPS：425

H

HDMI：281, 298
HDMI HDR：282
HDR 絵画調標準：97
HDR 逆光補正：91
HDR グラフィック調：97
HDR 動画：234
HDR ビンテージ調：97
HDR 油彩調：97
HD（動画）：227

I

ICC プロファイル：146
INFO ボタン：102, 183, 223

IPB（軽量）：228
IPB（標準）：228
ISO 感度：119, 218, 222
感度拡張：455
自動設定（オート）：120
自動設定時の上限値設定：121

J

JPEG（ジェイペグ）：116

M

MF（手動ピント合わせ）：112
MF ピーキング：212
MP4：227
MWB：132
M（マニュアル露出）：156

N

NTSC：228, 308

O

ONE SHOT（ワンショット AF）：106, 195

P

PAL：228
P（プログラム AE）：148

R

RAW+JPEG：116, 118
RAW（ロウ）：59, 116, 118

S

SD、SDHC、SDXC カード→ カード
sRGB：146

T

Tv（シャッター優先 AE）：150

U

USB（デジタル）端子：494
UTC：429

W

WB（ホワイトバランス）：130
Wi-Fi 機能：347
Android：353
Camera Connect：353, 358
CANON iMAGE GATEWAY：396
EOS Utility：378
Image Transfer Utility 2：383
iOS：353
IP アドレス：414
MAC アドレス：433
PictBridge：386
SSID：363, 379, 386
Wi-Fi 設定：422
WPS (Wi-Fi Protected Setup)：411
印刷：388
印刷指定：391
選んで送信：367, 403
カード内全画像送信：370, 406
画像閲覧：358
仮想キーボード：434
画像検索の条件設定：371, 408
カメラアクセスポイントモード：414
公開画像の設定：374
再接続：419
情報表示画面：433
接続先の機器の編集：374, 430
接続先履歴：419
接続情報の消去：431
設定初期化：432
送信画像サイズ：365, 369, 404
注意事項：446
ニックネーム：431
ネットワークの設定：449
ネットワーク変更：412
ネットワーク名：363, 379, 386

プリンター：386
リモート操作：358

かな

あ

アイカップ：28, 472
アクセサリーシュー：28, 174
アクセスランプ：38
アッテネーター：252
後幕シンクロ：178
アルバム（ビデオスナップ）：338

い

位置情報：425
色あい：87, 88, 126
色温度：130
色空間：146
色収差補正：144
色の濃さ：126
印刷指定（DPOF）：319
インデックス表示：284

う

ウィンドカット：252

え

液晶モニター：26, 40
　明るさ調整：264
　角度調整：40, 76
　画像の再生：102, 283
　メニュー表示：60
エラー表示：486
エリア（地域）：44

お

応用撮影ゾーン：31
オートパワーオフ：42, 263
オートフォーカス → AF
オートライティングオプティマイザ：136
オートリセット：268
お気に入りマーク：291
温度警告：214, 259
音量（動画再生）：300, 301

か

カード：7, 27, 37, 67
　書き込み禁止：37
　初期化（フォーマット）：67
　トラブル：38, 68
　物理フォーマット：68
カードなしレリーズ：262
回折補正：145
階調優先：138
回転（画像）：272, 290
外部ストロボ → ストロボ
顔＋追尾優先 AF：196, 197
拡大表示：211, 287
拡張子：269
各部の名称：28
カスタム機能：453
画像
　AF フレーム表示：326
　インデックス表示：284
　拡大表示：287
　画像番号：267
　検索条件：294
　再生：102, 283
　撮影情報：326
　自動回転：272
　自動再生：306
　ジャンプ表示（画像送り）：285
　手動回転：290
　消去：313
　スライドショー：306
　テレビで見る：298, 308
　ハイライト警告：330
　ヒストグラム：330
　表示時間：263
　保護（プロテクト）：310

レーティング：291
画素数：116
合焦マーク：71
家庭用電源：469
カメラ
構え方：50
カメラブレ：166
設定初期化：273
かんたん撮影ゾーン：30
感度 → ISO 感度

き

キッズ：85
機能ガイド：56
キャンドルライト：88
強制リセット：269
魚眼風：96, 189, 333
記録画質：116
近接撮影：86

く

クイック設定：58, 100, 186, 226, 296
クリーニング（撮像素子）：275, 279
クリエイティブアシスト：77, 335
クリエイティブフィルター：94, 187, 235, 332
グリッド：193, 255
クローズアップ：86

け

警告表示：457
ケーブル：308, 494
言語：47

こ

高感度撮影時のノイズ低減：139
高輝度側・階調優先：138
故障：473
ゴミの写り込み防止：275
コントラスト：126

さ

サーボ AF
AI SERVO（AI サーボ AF）：75, 107
SERVO（サーボ AF）：195
動画サーボ AF：254
再生：102, 283
先幕シンクロ：178
撮影画角：49
撮影画像の確認時間：263
撮影画面表示：52
撮影情報：326
撮影のヒント：57
撮影モード：30
Av（絞り優先 AE）：153
〈A+〉（シーンインテリジェントオート）：71
M（マニュアル露出）：156
P（プログラム AE）：148
Tv（シャッター優先 AE）：150
クリエイティブフィルター：94
HDR 絵画調標準：97
HDR グラフィック調：97
HDR ビンテージ調：97
HDR 油彩調：97
魚眼風：96
ジオラマ風：97
水彩風：96
ソフトフォーカス：96
トイカメラ風：97
ラフモノクロ：96
スペシャルシーン（SCN）：79
HDR 逆光補正：91
キッズ：85
キャンドルライト：88
クローズアップ：86
集合写真：82
スポーツ：84

手持ち夜景：90
美肌：81
風景：83
ポートレート：80
夜景ポートレート：89
料理：87
撮影モードガイド：55
撮像素子の清掃：275, 279
サマータイム：44
三脚ねじ穴：28

し

シーンインテリジェントオート：71
シーン判別アイコン：185, 220
ジオラマ風：97, 190, 334
ジオラマ風動画：237
自動再生：306
視度調整：50
自分撮り：209
絞り込み：155
絞り優先 AE：153
シャープネス：126
シャッターボタン：51
シャッター優先 AE：150
ジャンプ表示：285
集合写真：82
充電：35
周辺光量補正：143
縮小表示：284
手動ピント合わせ：112, 211
消去（画像）：313
初期化（フォーマット）：67
初期状態：273
白黒写真：78, 123, 127
白とび：330
シンクロ設定：178
シンクロ接点：28

す

水彩風：96, 189, 334
ストラップ：34
ストロボ
FE ロック：173
外部ストロボ：174
カスタム機能：179
シンクロ（先幕／後幕）：178
ストロボ制御（機能設定）：175
スローシンクロ：176
調光補正：172
内蔵ストロボ：170
発光禁止：175
発光モード：177, 178
マニュアル発光：178
スピーカー：299
スペシャルシーン（SCN）：79
スポーツ：84
スポット 1 点 AF：196, 198
スポット測光：159
スモール（記録画質）：116, 341
スライドショー：306

せ

静止画アスペクト比：191
設定初期化：273
セピア調（モノクロ写真）：127
セルフタイマー：205
全押し：51
センサークリーニング：275, 279

そ

ゾーン AF：196, 198
測距点（AF フレーム）：109
測距点自動選択：109
測光タイマー：192, 253
測光モード：159
ソフトウェア：491
ソフトフォーカス：96, 189, 333

た

タイムラプス動画：238

ダストデリートデータ：277
タッチ音：262
タッチシャッター：207
タッチ操作：64
タッチパネル：64, 288
縦位置画像回転表示：272

ち

チャージャー：33, 35
中央部重点平均測光：160
調光補正：172
長時間露光：158
調色（モノクロ写真）：127
長秒時露光のノイズ低減：140
著作権情報：270

て

デジタル端子：28
デジタルレンズオプティマイザ：144
手ブレ：50
手持ち夜景：90
テレビで見る：298, 308
電源
　オートパワーオフ：263
　家庭用電源：469
　充電：35
　電池残量：43, 468
　電池情報：468
　劣化度：468
電子音：262
電子ダイヤル：28, 147
電池：35, 37, 43

と

トイカメラ風：97, 189, 334
動画：216
　AE ロック：165
　AF 方式：226, 254
　HDMI 出力：281
　HDR 動画撮影：234
　圧縮方式：228
　アッテネーター：252
　ウィンドカット：252
　外部マイク：252
　クイック設定：226
　クリエイティブフィルター：235
　グリッド：255
　再生：298, 299
　自動露出：217
　情報表示：223
　前後カット：302
　測光タイマー：253
　タイムラプス動画：238
　楽しみ方：298
　テレビで見る：298, 308
　動画記録サイズ：227
　動画サーボ AF：254
　動画デジタルズーム：230
　動画電子 IS：232
　ビデオスナップ：246
　ビデオスナップアルバム：246
　フレーム切り出し：304
　フレームレート：228
　編集：302
　マイク：217, 252
　マニュアル露出：221
　録音：252
動画クリエイティブフィルター：235
　オールドムービー：236
　ジオラマ風動画：237
　ダイナミックモノクローム：237
　ファンタジー：236
　メモリー：237
動画電子 IS：232
通し番号：267
ドライブモード：59, 113
ドラッグ：65
トリミング：343

な

内蔵ストロボ：170

に

任意選択（AF フレーム）：109

の

ノイズ低減
　高感度：139
　長秒時：140
ノーマル（記録画質）：116

は

バースト枚数：117
ハイライト警告：330
発光モード：177, 178
バッテリー：35, 37, 43
バリアングル液晶モニター：40, 76
バルブ撮影：158
半押し：51

ひ

ピクチャースタイル：122, 125, 128
被写界深度確認：155
ヒストグラム（輝度／ RGB）：330
日付／時刻：44
ビデオスナップ：246
ビデオスナップアルバム：246
ビデオ方式：227, 308
瞳 AF：203
評価測光：159
表示レベル：52
ピント合わせ → AF

ふ

ファイルサイズ：327
ファイル名：267
ファイン（記録画質）：116
ファインダー：32
　視度調整：50
フィルター効果：124, 127
風景：83, 123
フォーカスモードスイッチ：48, 112, 211
フォーカスロック：75
フォーマット（カード初期化）：67
フォトブック指定：323
フォルダ作成／選択：265
付属品：3
部分測光：159
ブラケティング：135
フルハイビジョン（Full HD）：227
フレーム切り出し：304
フレームレート：228
プログラム AE：148
プログラムシフト：149
プロテクト（画像の保護）：310

ほ

ポートレート：80, 122
ホワイトバランス：130
　ブラケティング：135, 163
　雰囲気優先（AWB）：131
　補正：134
　ホワイト優先（AWB）：131
　マニュアル：132

ま

マイク：217
マイメニュー：462
マクロ撮影：86
マニュアルフォーカス：112, 211
マニュアル露出：156, 221
マルチショットノイズ低減機能：139

み

ミドル（記録画質）：116, 341
ミラーアップ撮影：166, 456

む

無線通信：347

め

メニュー：60
- 設定操作：61
- 表示レベル：52
- マイメニュー：462

メニュー表示：54
メモリーカード→ カード

も

モードダイヤル：30
モノクロ写真：123, 127

や

夜景：89, 90
夜景ポートレート：89

ゆ

油彩風：189, 334

ら

ラージ（記録画質）：116, 341
ライブビュー撮影：76, 180
- 1 点 AF：198
- AF 動作：194
- アスペクト比：191
- 顔＋追尾優先 AF：197
- クイック設定：186
- クリエイティブフィルター：187
- グリッド：193
- 自分撮り：209
- 手動ピント合わせ：211
- 情報表示：183
- スポット 1 点 AF：198
- ゾーン AF：198
- 測光タイマー：192
- 瞳 AF：203

ラフモノクロ：96, 189, 333

り

リサイズ：341
リモートスイッチ：471
リモコン撮影：471
料理：87

れ

レーティング：291
レンズ：27, 48
- 色収差補正：144
- 回折補正：145
- 周辺光量補正：143
- デジタルレンズオプティマイザ：144
- ロック解除：49
- 歪曲収差補正：143

連続撮影可能枚数：117
連続撮影（連写）：113

ろ

ロウ：116, 118
録音レベル：252
露出設定ステップ：455
露出補正：161
露出レベル表示：32

わ

歪曲収差補正：143
ワンショット AF：106, 195



CT2-D001-B
© CANON INC. 2019